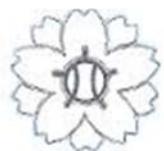


ISS 認証申請書

Application to become a member of
International Safe Schools Network



秩父市立花の木小学校

Hananoki elementary school , Chichibu city

目次

第1章 花の木小学校の概要	1
1 校名、校章、教育目標	
2 教職員と在籍児童数・学級数	
3 学校を取り巻く環境	
第2章 インターナショナルセーフスクールの取組経緯	5
1 取組の背景	
2 これまでの取組状況	
第3章 外傷の状況	6
1 校内のケガ	
(1) 軽微なものを含むケガの発生状況（「保健室データ」より）	
(2) 通院を要するケガの発生状況	
(3) いじめによる心のケガ	
2 校外のケガ	20
(1) 学区域内の児童の自転車事故の発生件数	
第4章 ケガの発生状況に基づく予防対象の設定	23
第5章 8つの指標に基づいた取組	24
指標1 協働を基盤とした安全向上に取り組む運営基盤	
1 インターナショナルセーフスクール推進組織	
2 P T A	
3 地域	
4 校内における I S S 推進組織（教員）	
5 校内における I S S 推進組織（児童会）	
指標2 セーフコミュニティの文脈に基づき自治体や教育委員会等の方向性と一致している	28

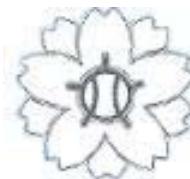
指標3 両性、全年齢、環境、状況をカバーする長期的・継続的なプログラムを実施している	30
1 児童の危険回避能力の育成	
2 学校の指導体制	
3 良好な関係づくり	
4 環境改善	
5 交通安全意識の向上	
指標4 ハイリスクグループ・環境を対象としたプログラム	40
1 大規模地震に備えた対応	
2 低学年への対応	
3 特別支援学級への対応	
4 不審者対応	
指標5 根拠(エビデンス)に基づいた取組	44
1 課題を導く原因分析	
2 校外における受傷の状況	54
3 重点課題に対する取組	55
指標6 頻度や原因を記録するしきみ	61
1 校内におけるケガの記録	
指標7 学校政策・プログラム・そのプロセスの評価方法	62
1 成果指標と効果の検証	
2 評価方法と改善	
3 プログラムの進行管理	
指標8 国内・国際的ネットワークへの継続的参加	65
第6章 安全な学校づくりに向けての今後の取組と展望	66
1 中・長期目標	
2 今後の展開	

第1章 花の木小学校の概要

1 校名、校章、教育目標

秩父市は、埼玉県北西部に位置し、東京都心から一時間半程度の距離にあり、本校は、秩父市の中心市街地に位置する。1935年（昭和10年）2月3日に秩父町立大宮尋常高等小学校花の木分教場として現在地に設置される。1938年（昭和13年）3月31日秩父郡大宮第二尋常小学校と改称する。以後、社会情勢により数度の校名改称があった。戦後の1947年（昭和22年）4月1日に秩父町立秩父第二小学校と改称、1955年（昭和30年）4月1日秩父市立花の木小学校と改称し、現在に至る。PTA活動や修学旅行・臨海学校・林間学校、学校給食も早くから行い、学校環境衛生優秀校をはじめ数々の表彰や研究委嘱を受けている。今年度で開校78年目で、13,193名の卒業生を送り出し、地域の教育・文化等の向上に寄与している。

「時を守る 場を清める 礼を正す」を花の木小学校の教育基盤とし、『安心・安全で思いやりにあふれ、保護者や地域社会から信頼される学校』を目指し、「気づき 考え やりぬく子」①すすんで学習する子 ②思いやりのある子 ③心も体もたくましい子 の育成に取り組んでいる。



花の木小 校章

2 教職員と在籍児童数・学級数

図表1－1 児童数と学級数

2015年7月7日現在 単位：人

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援学級	合計
児童数	66	52	60	74	53	52	3	360
学級数	2	2	2	2	2	2	2	14

児童数は、開校当時1426人で昭和29年には1841人まで増えた。ここ10年間では60人程度の減少であり、今後も減少傾向は続くと考える。学級数は、開校当時25学級で最大36学級になった。現在は、各学年2学級並行である。

図表1－2 教職員数

2015年4月1日現在 単位：人

校長	1	非常勤講師	2
教頭	1	学校補助員	3
主幹教諭	1	司書教諭補助員	1
教諭（教務）	5	学校事務	1
教諭（担任）	14	配膳員	1
養護教諭	1	校務員	2
事務主幹	1		

3 花の木小学校を取り巻く環境

秩父市は、古くから絹織物で栄え、県内でも早い昭和25年に市制執行し、平成17年には吉田町・大滝村・荒川村と合併した。現在市内の小・中学校は、小学校13校、中学校8校の合計21校と公立幼稚園3園を設置している。

本校は、秩父鉄道御花畠駅や西武鉄道の西武秩父駅から西側約1kmに位置し、校区内に市の中心となる商店街があり、観光地もあり観光客も多い。また、日本三大曳山祭りで有名な秩父神社例大祭（秩父夜祭り）で運行される山車や笠鉾6台の内4台を学区内で有している。商店街から一歩入ると古くからの住宅街になり、落ちついた雰囲気である。近くには、保育所・幼稚園・中学校・高等学校・職業専門学校や市立図書館もあり、文教地区を形成している。

学区内には荒川が流れている。荒川左岸沿いには、広いグランドも整備されているが民家はまばらで日中は人通りが少ない。国道140号から近年整備された荒川左岸の道路までの県道も縦断しており、交通量が多い。また、学校周辺の道路は古くからの住宅街のため狭く、通勤時間には抜け道として利用する車も多い。そのため、スクールゾーンやグリーンベルトが設置されているが、交通事故が心配される。

観光シーズンは地理に不案内な車や観光客が多く、交通事故と共に防犯上も心配な面もある。



4 学校生活

(1) 式関係

【入学式】

新しく入学してきた1年生を迎える式です。本校では、職員、全校児童が参加するだけでなく、教育委員会、PTA会長等の来賓も出席し、1年生の入学を祝います。2～6年生による歓迎の歌もあります。



【終業式】

学期が終わる最後の日に行う式です。職員、全校児童が参加します。3学期の最後の日は、学年が修了するので、「修了式」となります。

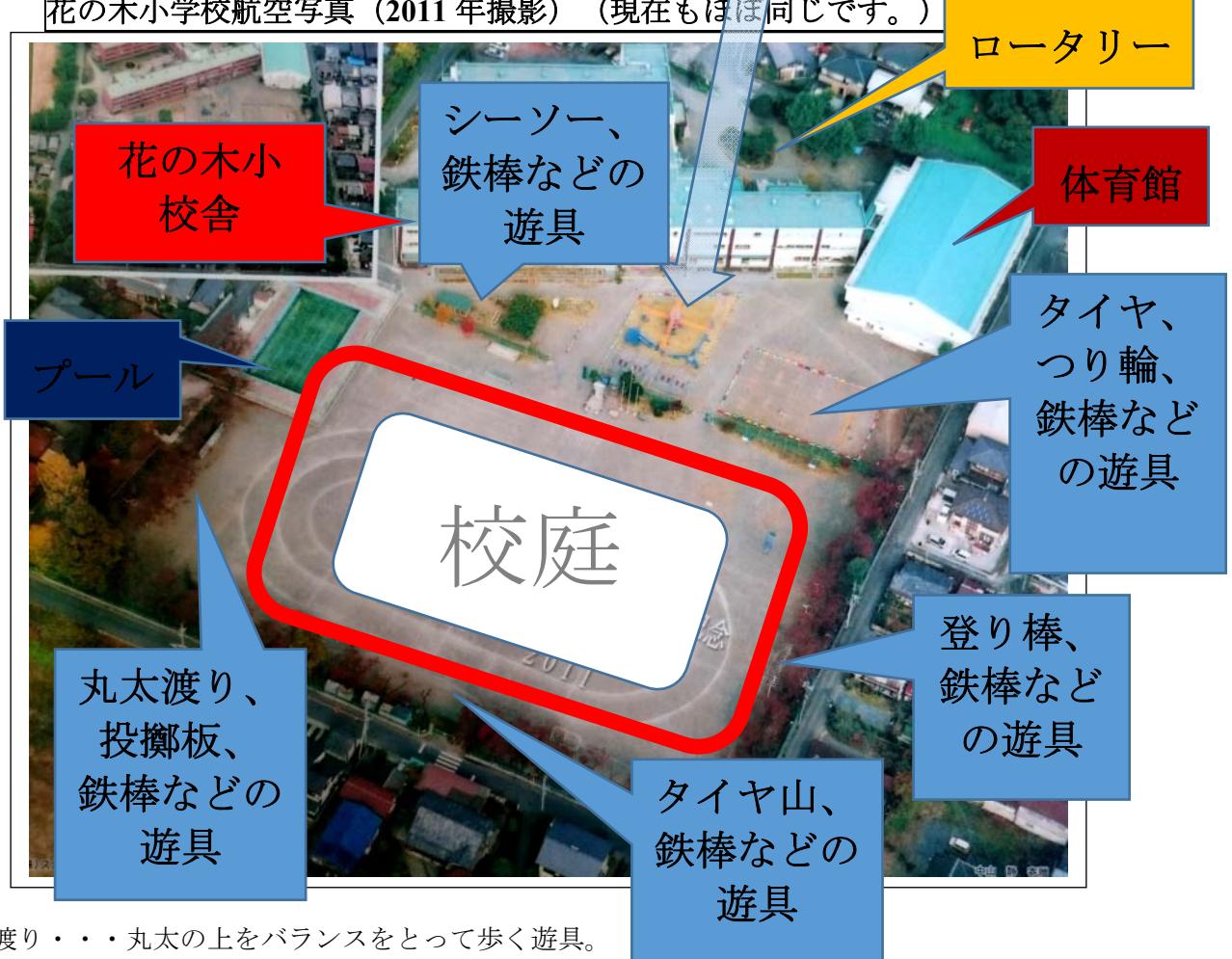


次ページに、「花小タワー」「花の木小学校航空写真」などが掲載されています。

花小タワー（花の木小学校校庭にある複合遊具）



花の木小学校航空写真（2011年撮影）（現在もほぼ同じです。）



丸太渡り・・・丸太の上をバランスをとって歩く遊具。

タイヤ山・・・タイヤを複数積んで「△」の形にし、下から順に登る遊具。

タイヤ・・・地面に埋め込まれたタイヤの上を跳んだり、登ったりする遊具。

第2章 インターナショナルセーフスクールの取組経緯

1 取組の背景

学校は、子どもたちの健やかな成長と自己実現を目指して学習活動を行うところであり、その基盤として安全で安心な環境が確保されている必要があります。本校でも、校内の安全教育全体計画に基づき、児童の安全教育を毎年実施しています。また、定期的及び臨時に教職員による校内安全点検を実施したり、通学路の立哨指導を行ったりして、児童の安全確保について普段から取り組んでいます。しかしながら、保健室で治療を受ける児童の中には、けがの原因として「ころんだ」「ぶつけた」が多くを占めています。また、自転車の乗り方などのマナーが課題といえます。中には、通院を要するけがを負ってしまい、やむなく学校を休んだり早退をしたりするなど学校生活に支障をきたす例も見られます。

本校の経営方針である「学習規律が確立され、安心で安全な学校をつくる」が、秩父市のセーフコミュニティの理念や手法と合致する点が多かったことから、本校では「(体及び心の)ケガ及びその原因となる事故、いじめ、暴力を予防することによって安全で健やかな学校づくり進める活動」を進めるインターナショナルセーフスクール安心・安全な学校づくりプログラムへ取り組むことにしました。

2 これまでの取組状況

※学校年度は4月始まり～3月終わりまでとする。

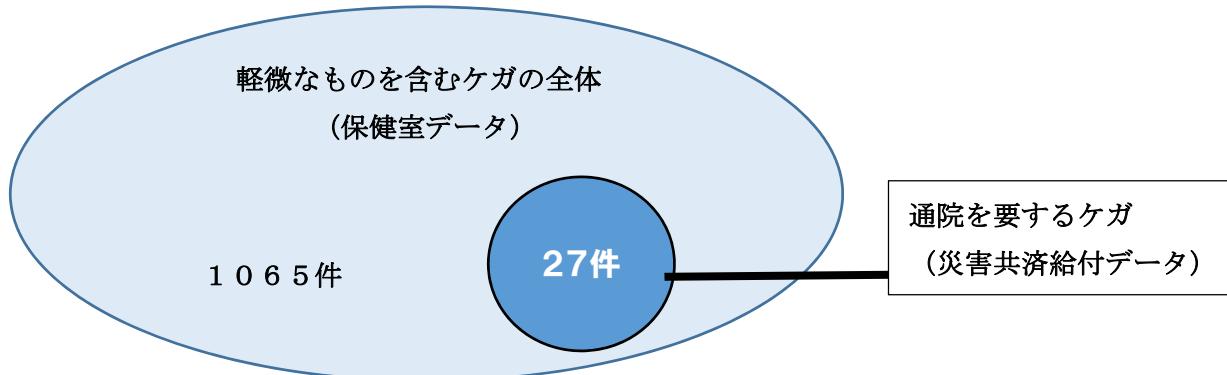
年度	全体の取組	児童主体の取組
2013 年度	7月 インターナショナルセーフスクール取組宣言 8月 秩父市セーフコミュニティ子どもの安全対策委員会委員に PTA 会長、本校職員が任命される。 11月 課題を全職員で把握する。	2月 各委員会で自分たちにできることについて話し合う
2014 年度	4月 ISS 研究推進委員会発足 5月 国際審査団来校(プレ審査)	4月 ISS 委員会発足 5月 児童会 ISS スローガン発表 5月 オリジナル班長旗完成 7月 ISS の歌音楽委員完成披露 11月 ISS 集会で各委員会発表 2月 花小セーフクリーン運動 3月 ISS キャラクターを募集 「はなのっきー」に決定
2015 年度	7月 セーフコミュニティー現地審査 11月 ISS 現地審査	4月 月1回各委員会による ISS 集会を実施 6月 ISS 活動の歩みを掲示

第3章 外傷の状況

1 校内のケガ

校内でケガが発生した際は、保健室で養護教諭が手当てをした後、児童が記録をとり、データとして収集します。その中で、通院する必要がある重い症状のケガについては、災害共済給付（児童生徒が学校の管理下で病院へ行く大きなケガをしたときに給付金を保護者に払う制度）データとして収集します。本校の2014年度のケガは1065件です。そのうち、通院を要するケガは27件でした。

図表3-1 校内で発生したケガ（2014年度）

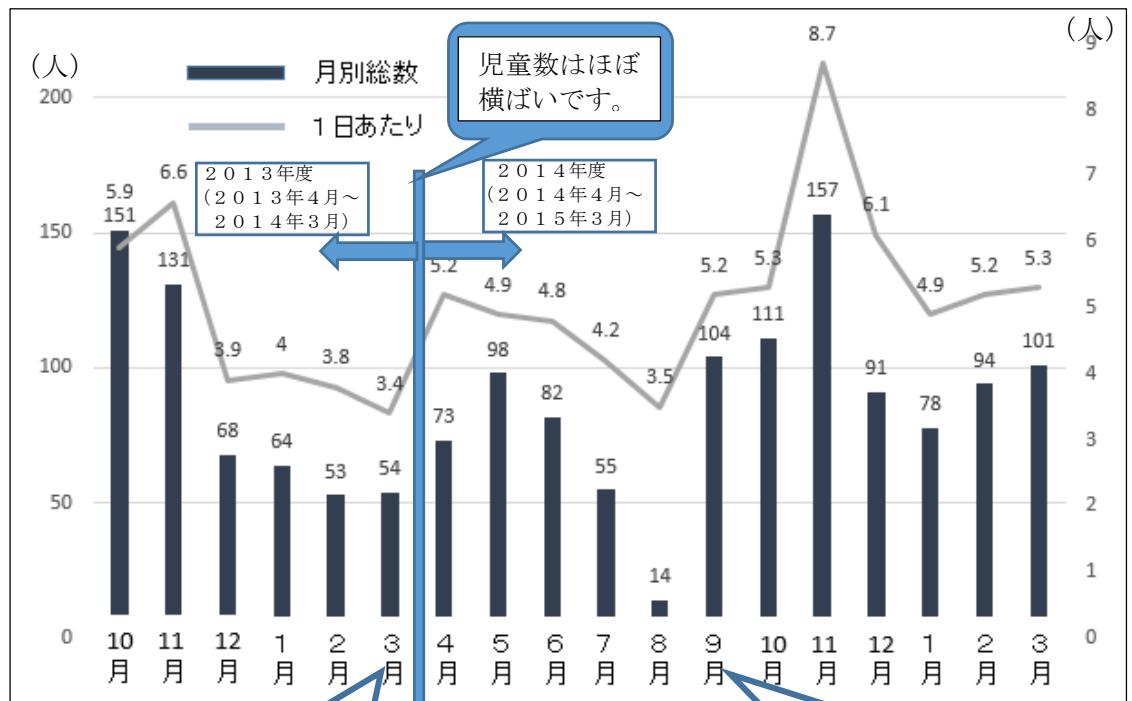


校内外外傷発生データの集計

2014年4月～2015年3月までの学校保健室で記録した外傷データ1065件を集計

（1）軽微なものを含むケガの発生状況（「保健室データ」より）

図表3-2 年間の処置件数の推移（2013年10月～2015年3月まで）

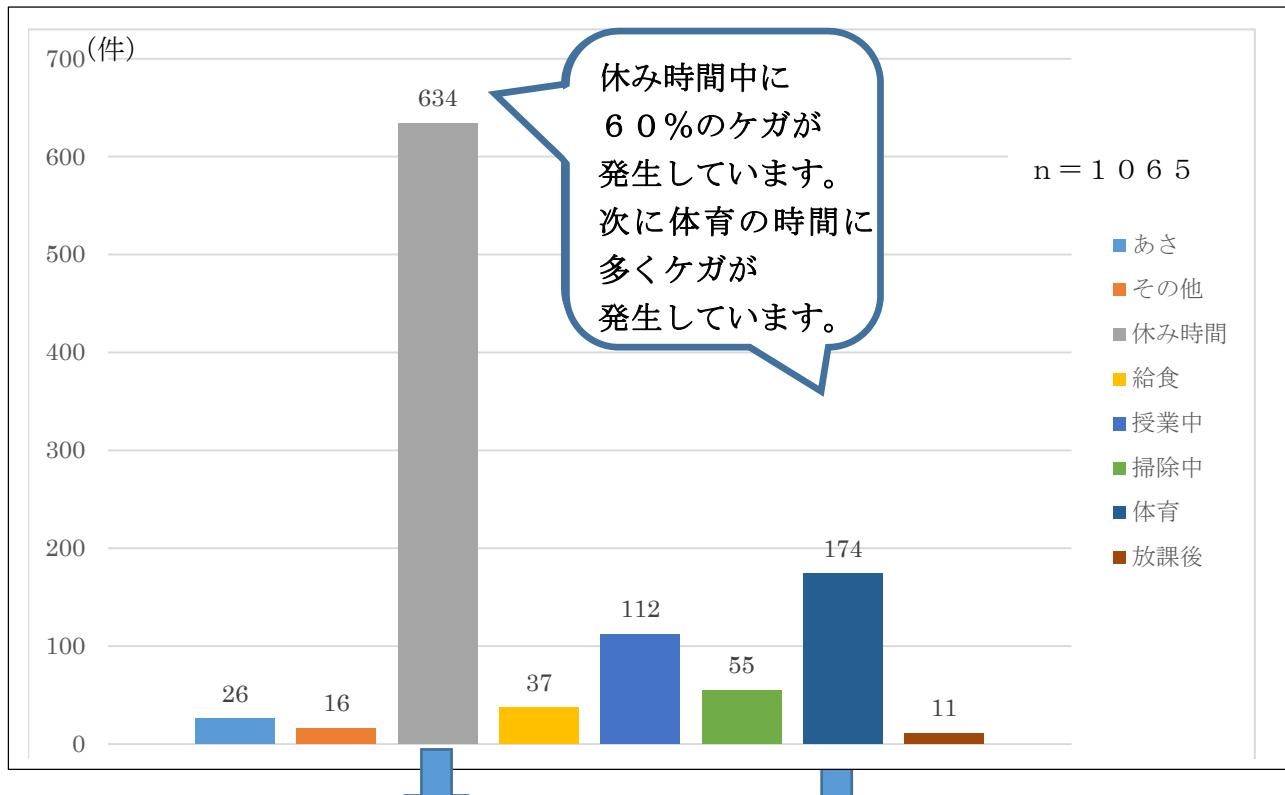


I
S
S
宣
言

2014年2～3月は大雪のため、校庭で遊べず、校庭でのケガが例年より少なかったです。

2014年11月は全校校内マラソン大会があり、その練習や当日で、すりきず、転倒等のケガが多く発生しています。

図表3-3 時間帯別のケガ(2014年度 保健室データ)

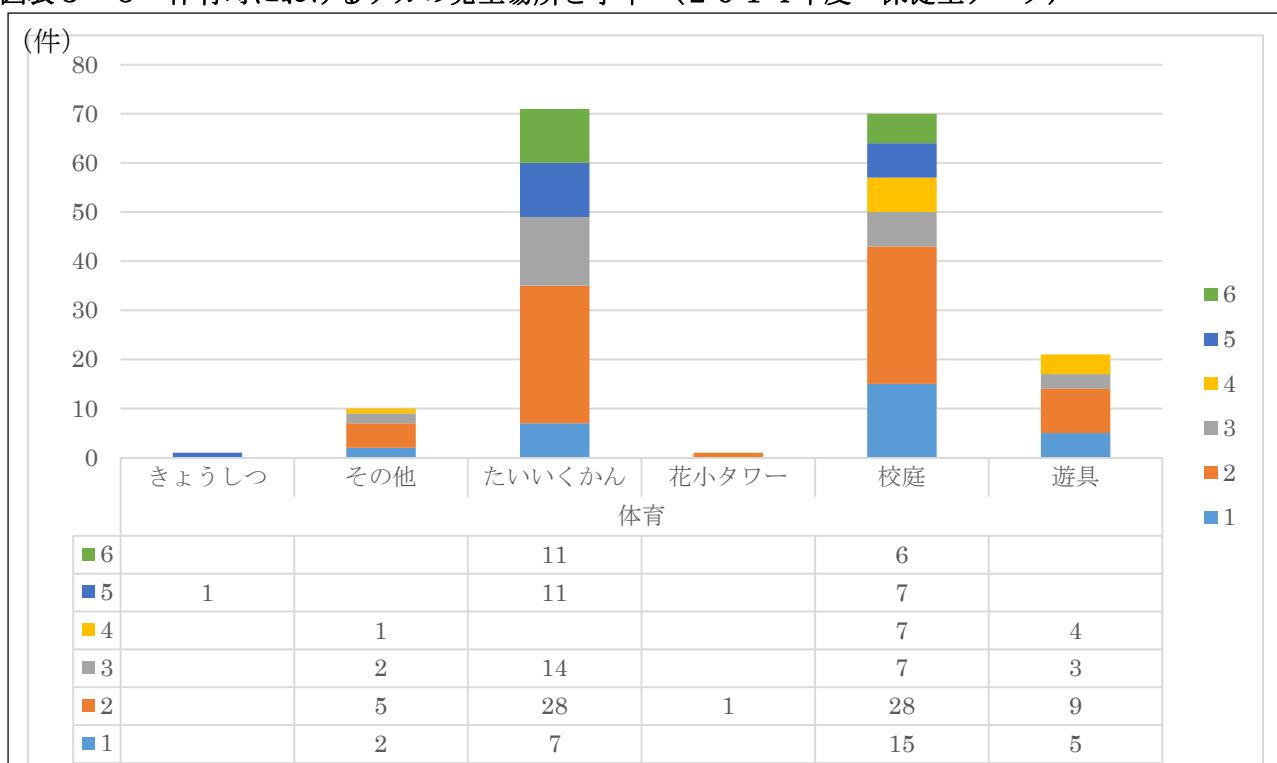


図表3-4 休み時間における軽微なものを含むケガの発生場所と症状 (2014年 保健室データ)



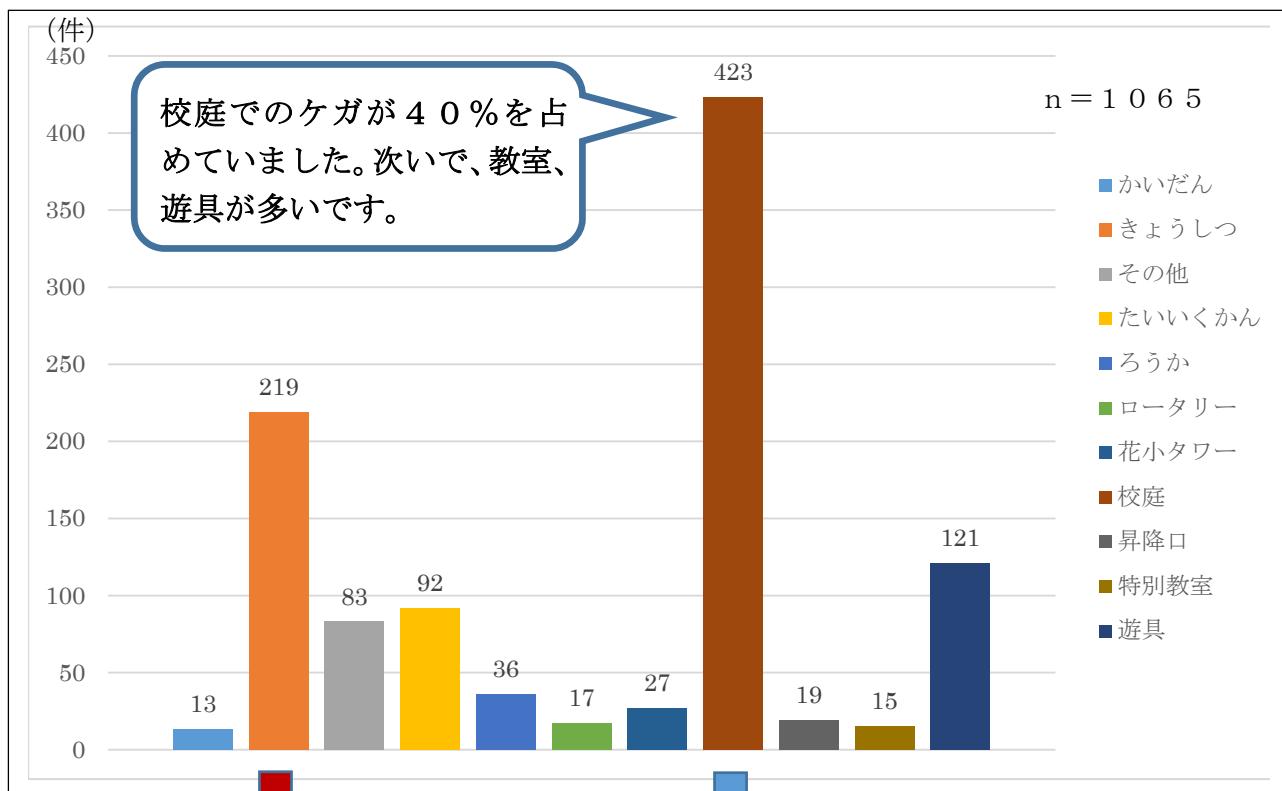
校庭でのすりきず、だぼくのケガが多くなっています。

図表3－5 体育時におけるケガの発生場所と学年 (2014年度 保健室データ)

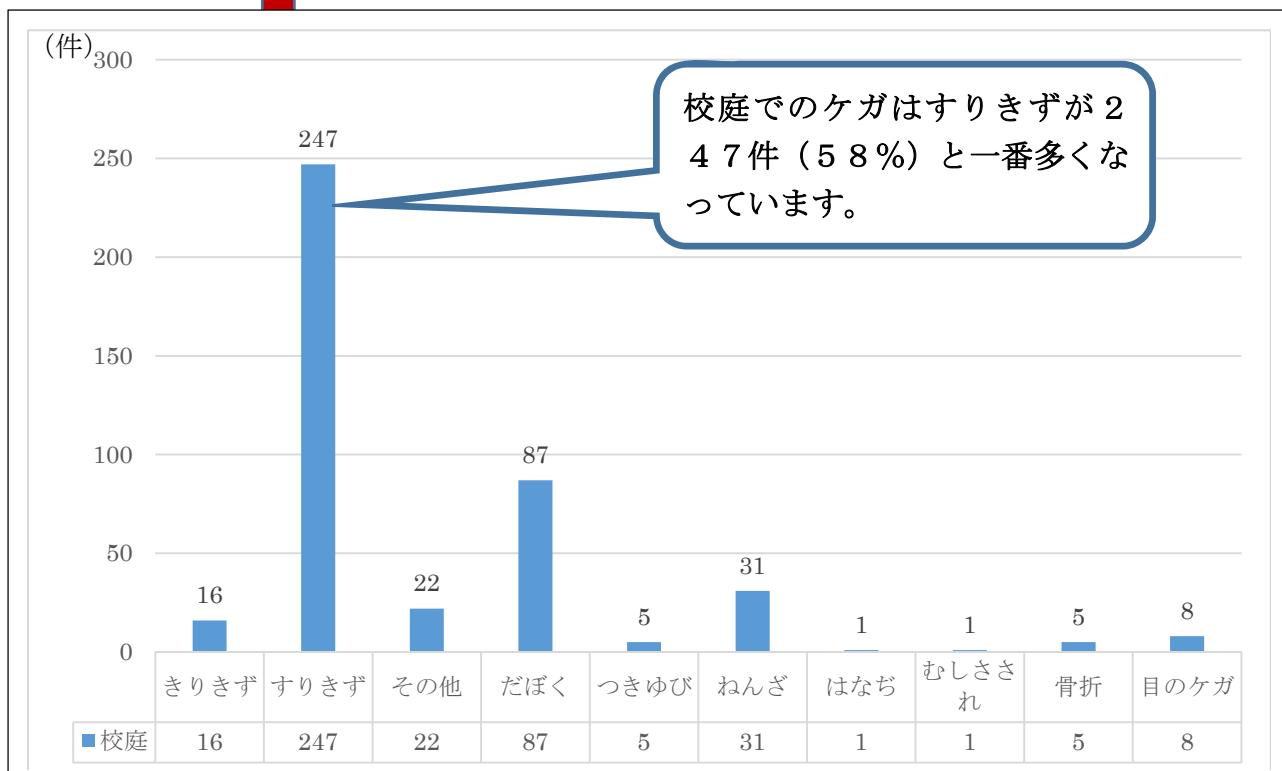


体育館と校庭でのケガが多くなっています。

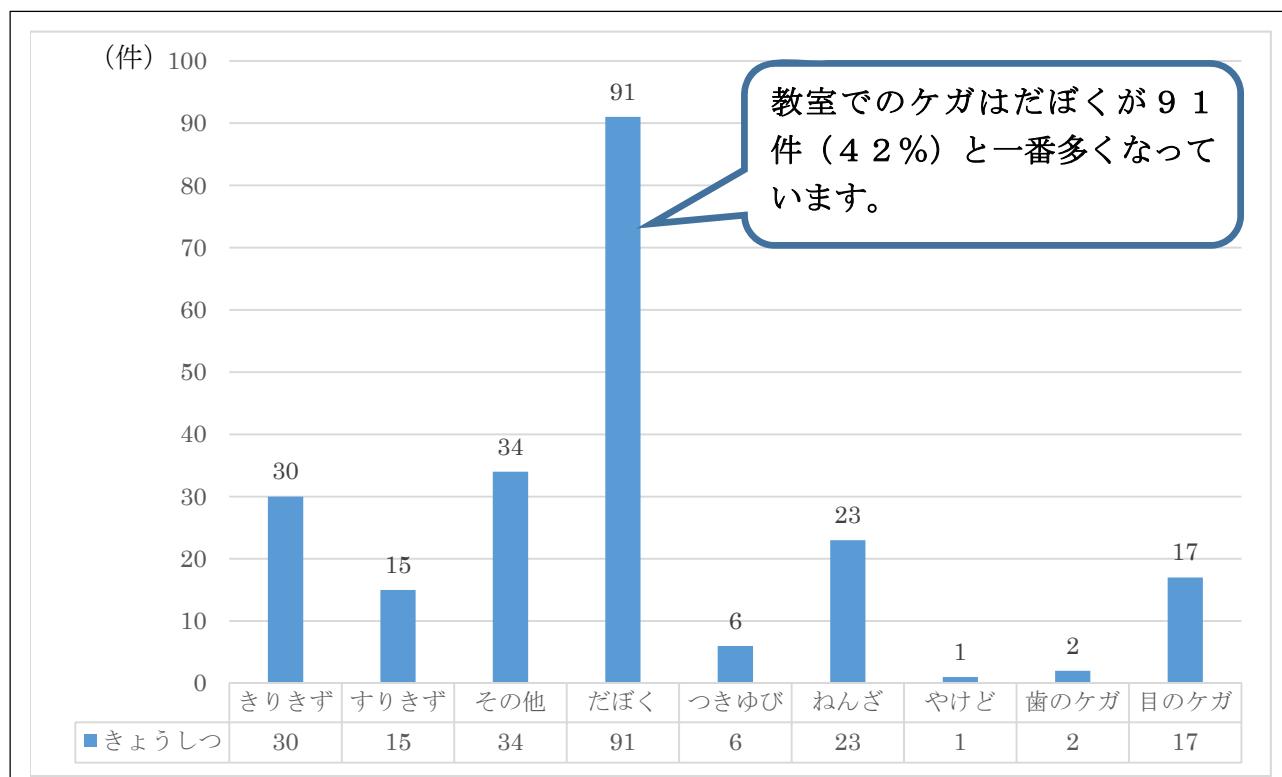
図表3－6 場所別のケガ(2014年度 保健室データ)



図表3－7 校庭でのケガの種類（2014年度 保健室データ）

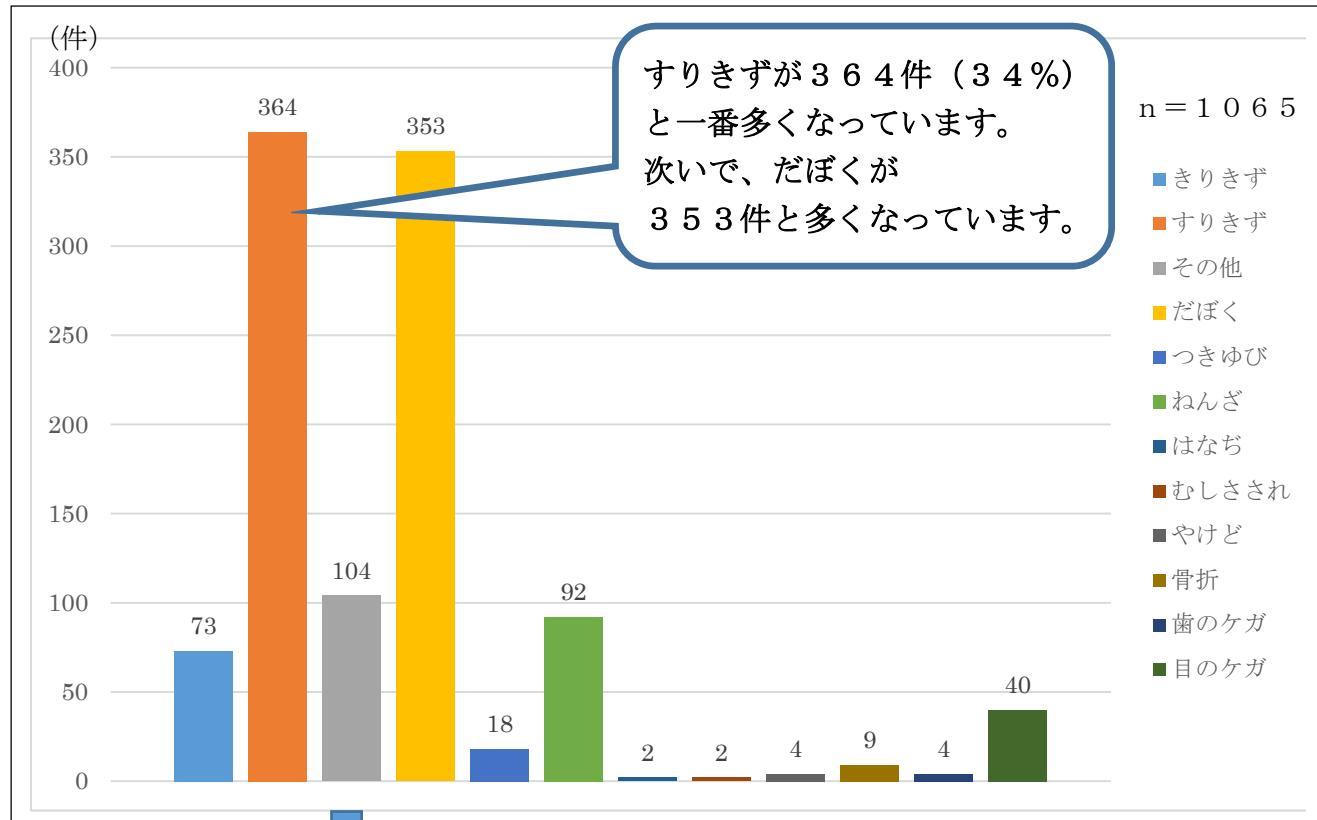


図表3－8 教室でのケガの種類（2014年度 保健室データ）

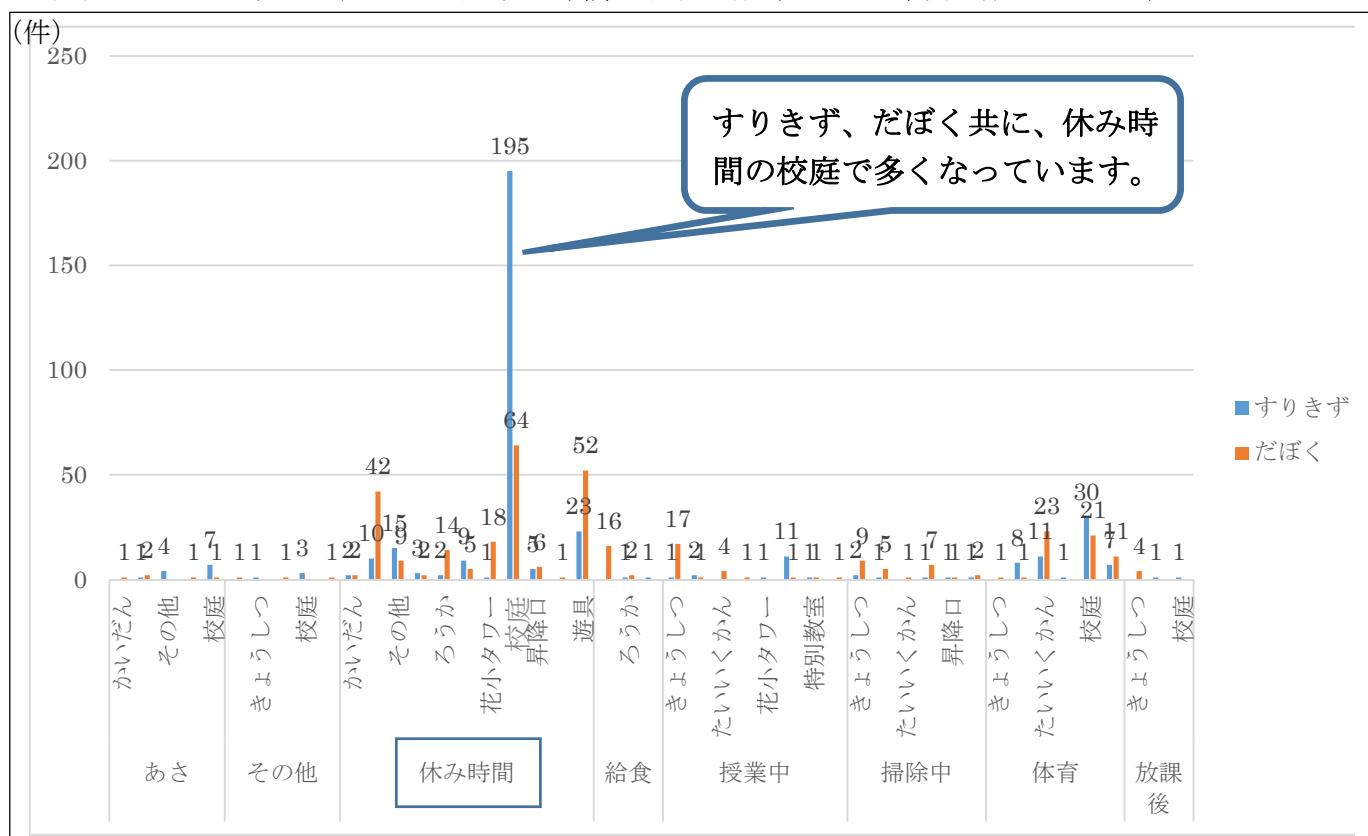


「どうしてそのケガをしたのか」という「ケガの理由」については、記録があまりできませんでした。次年度への課題としています。

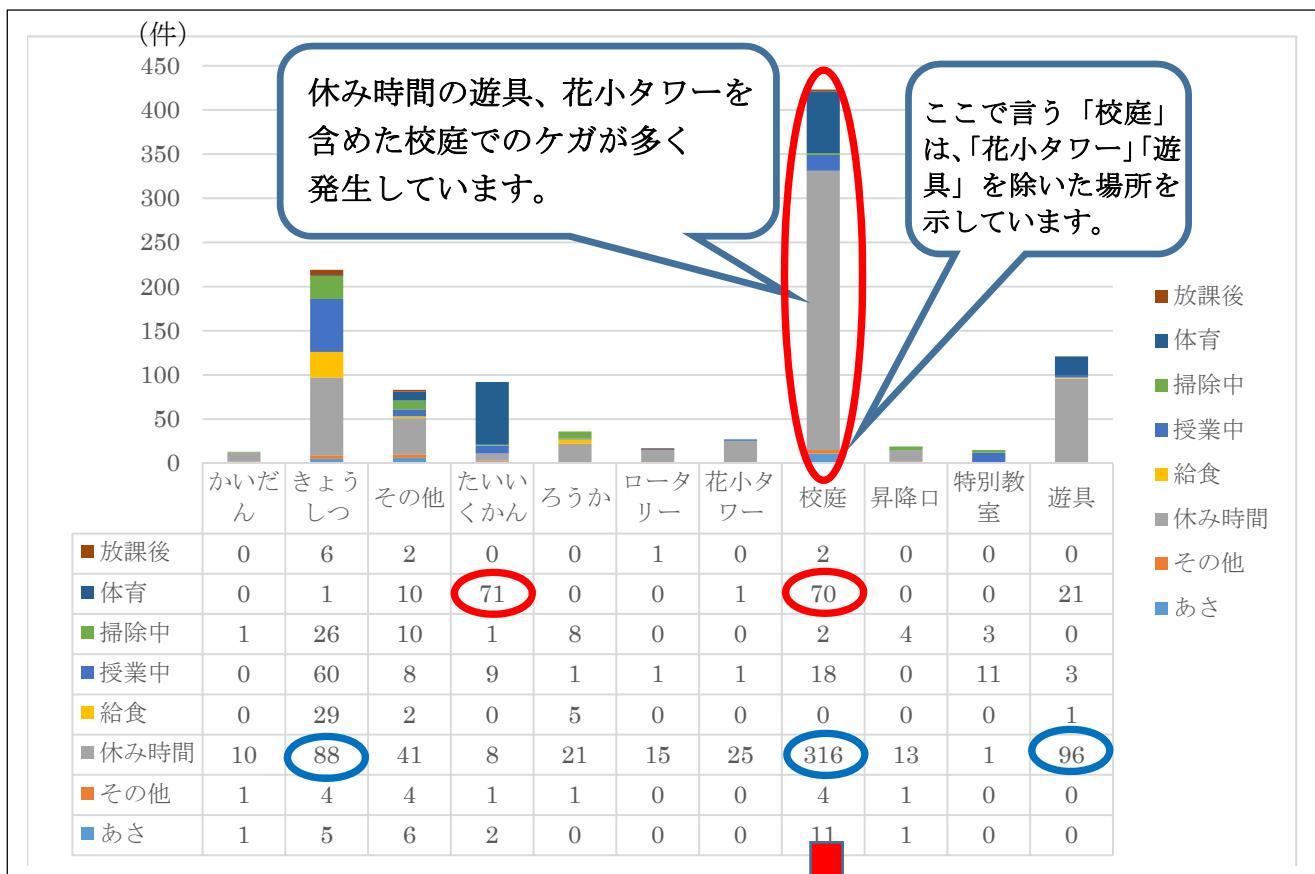
図表3－9 種類別のケガ(2014年度 保健室データ)



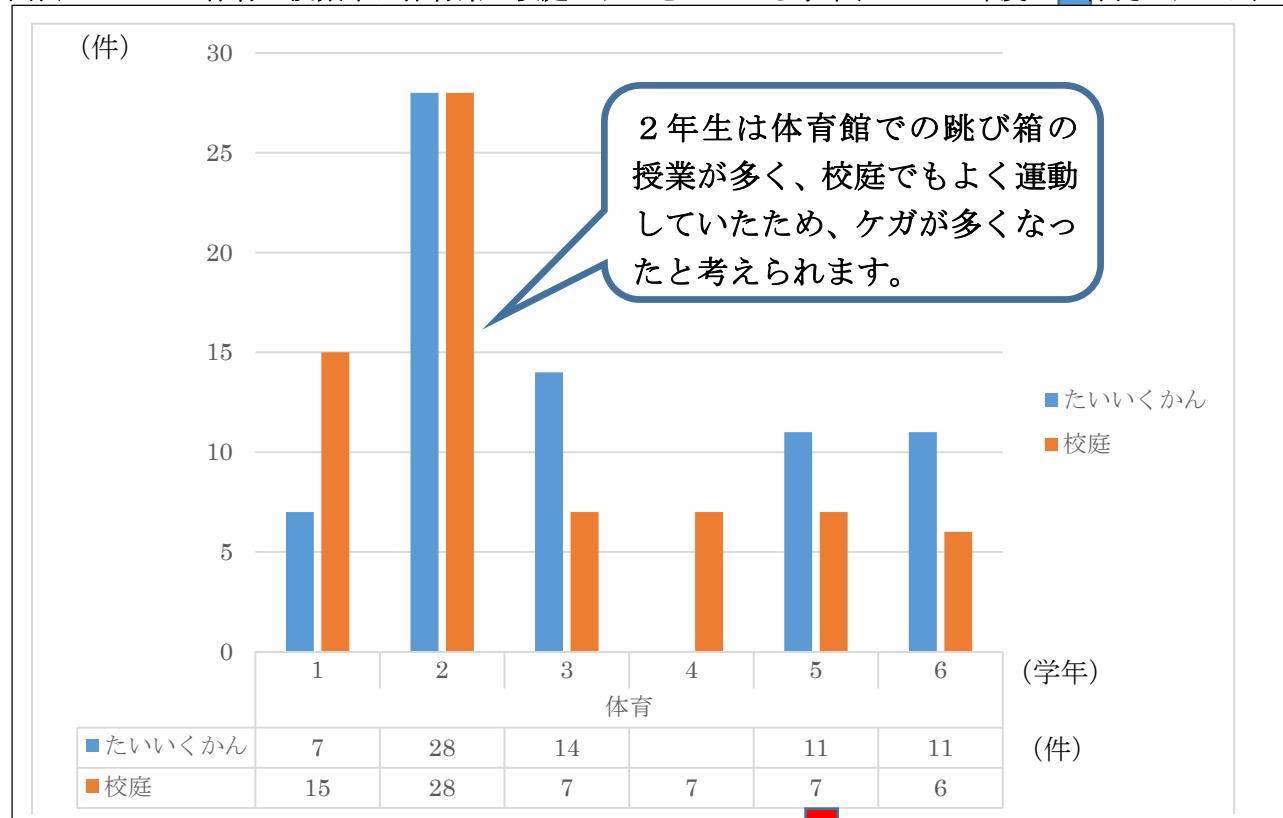
図表3－10 すりきずとだぼくの発生場所と活動内容 (2014年度 保健室データ)



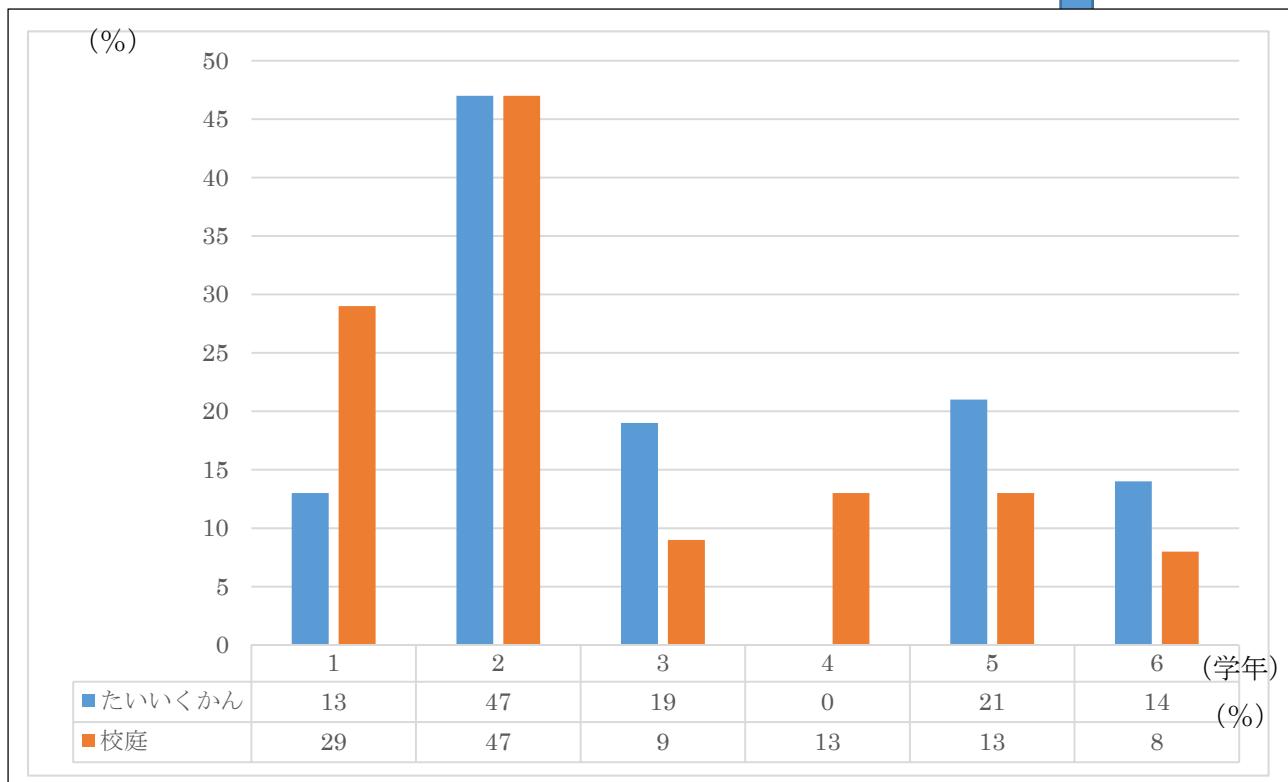
図表3－11 軽微なものを含むケガが発生している時間帯と場所(2014年度 保健室データ)



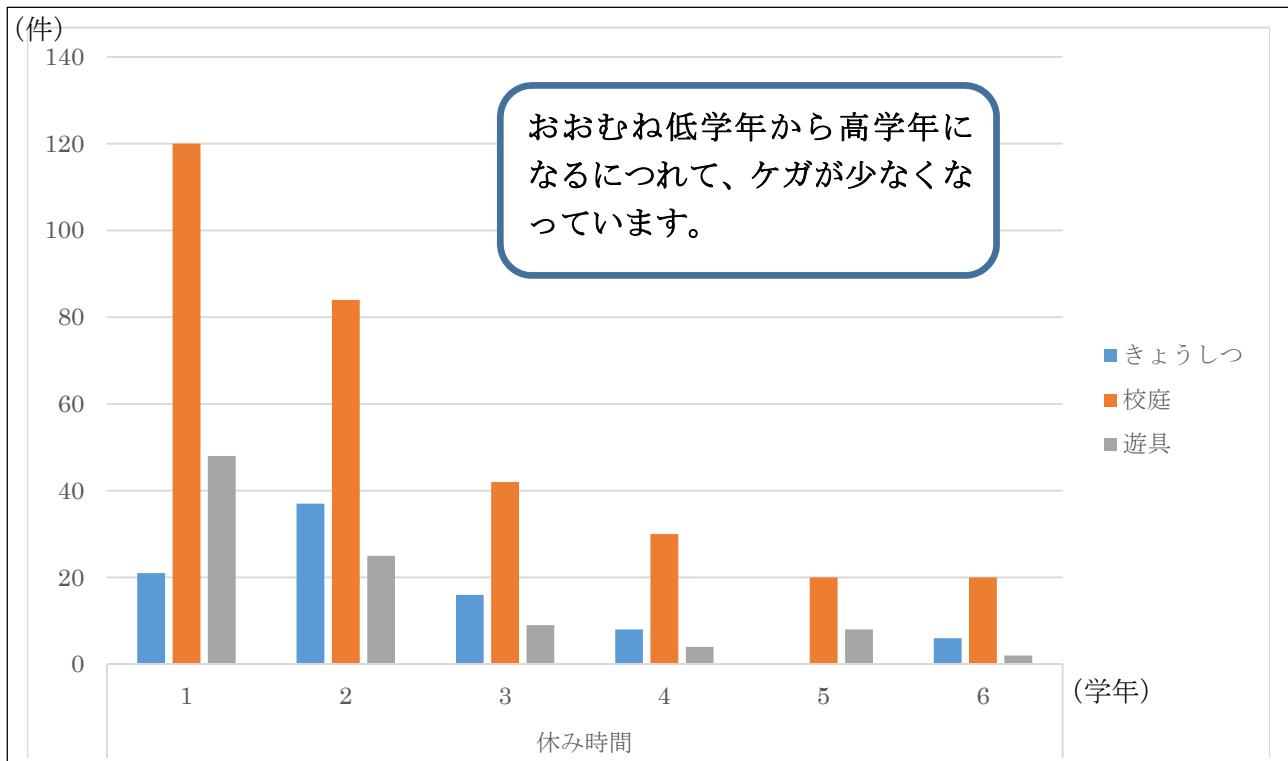
図表3－12 体育の授業中に体育館と校庭でケガをしている学年(2014年度 保健室データ)



図表3－13 体育の授業中に体育館と校庭でケガをしている学年(割合)(2014年 保健室データ)

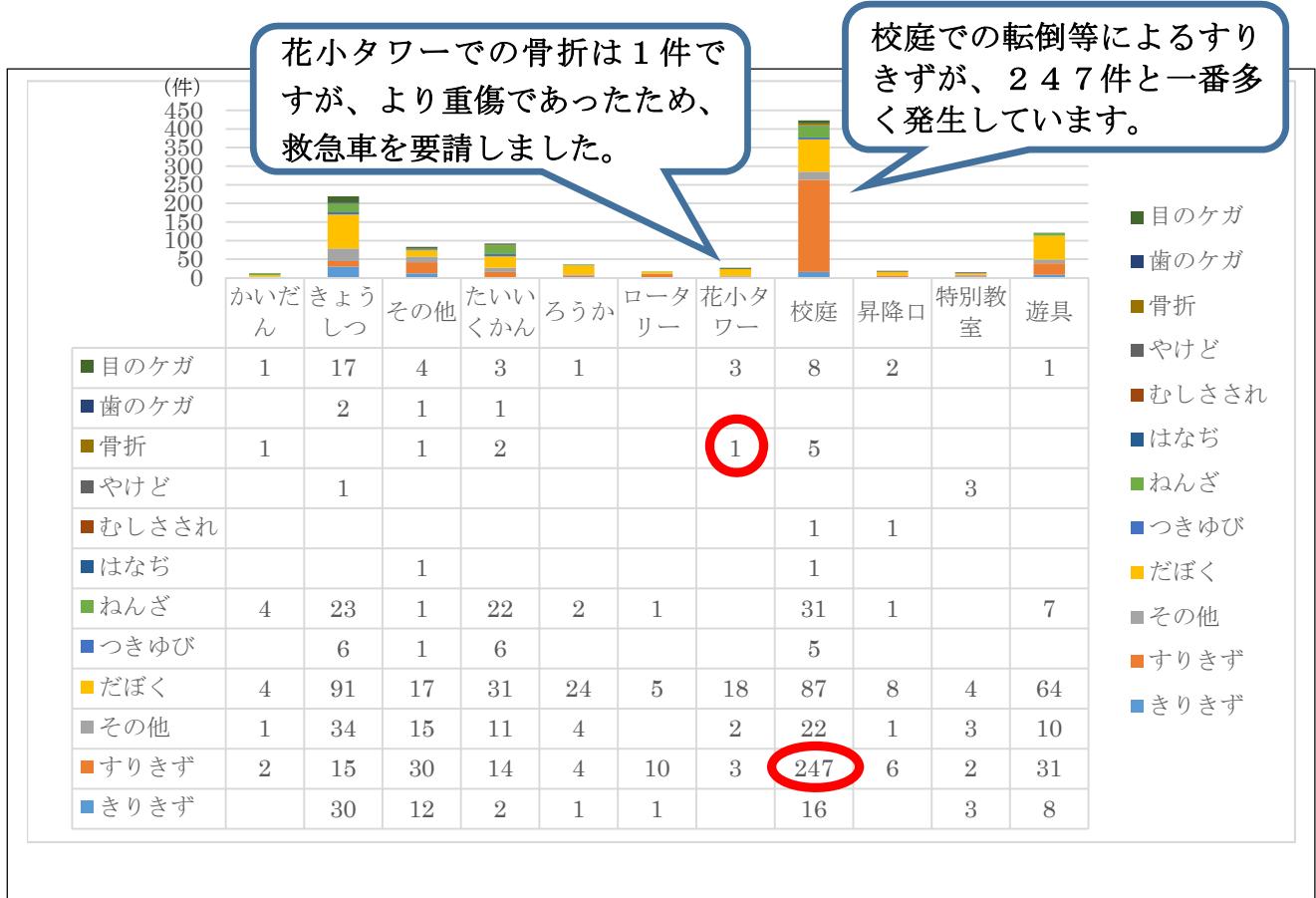


図表3－14 休み時間に教室、校庭、遊具でケガをしている学年(2014年度 保健室データ)

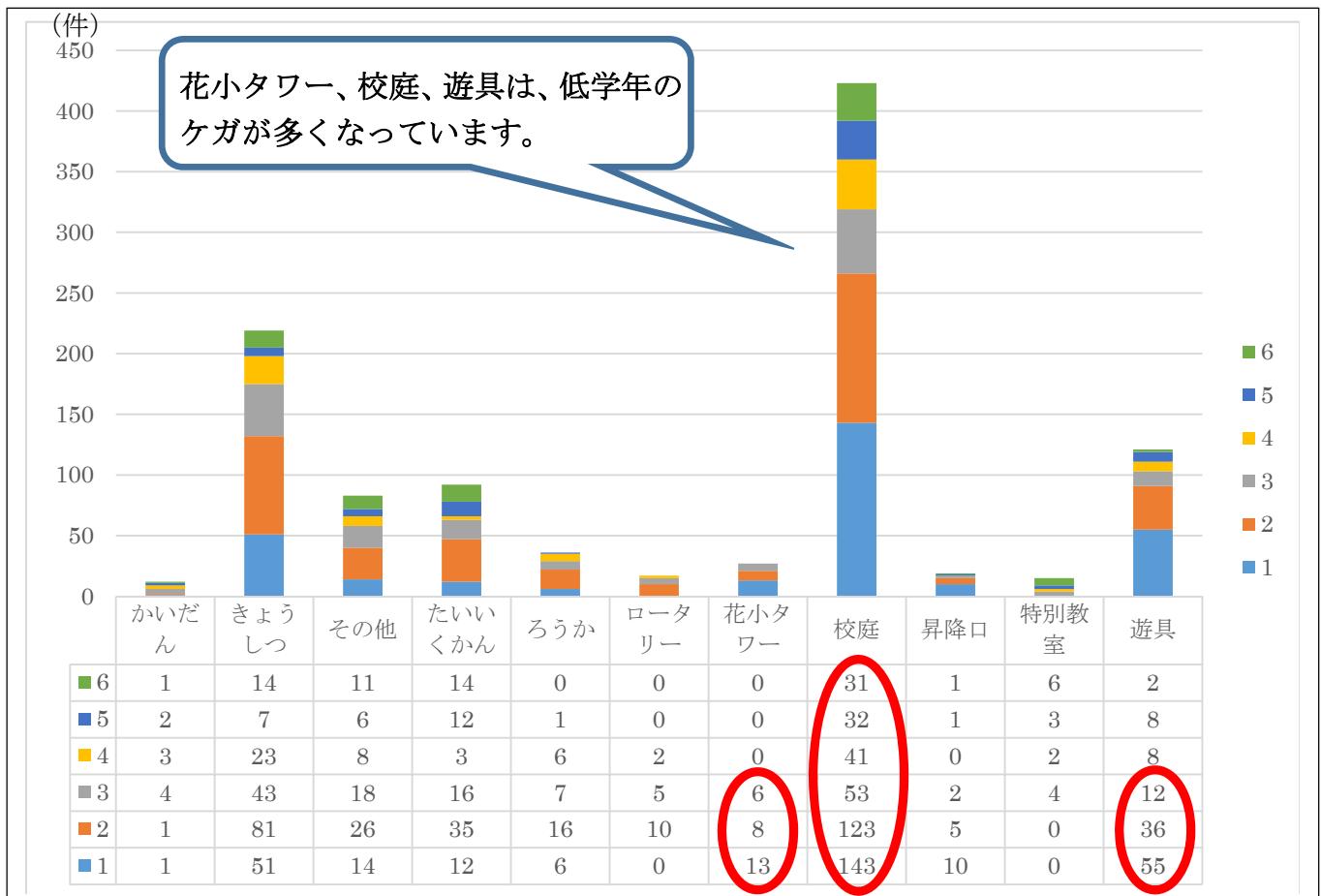


低学年(1～3年生)は、校庭と遊具でのケガが多く、高学年(4～6年生)は、校庭でのケガが多くなっています。また、本校は校庭に傾斜があり、転倒しやすい地形です。また、雨が降ると砂や石が地表に出てしまうため、石拾いを定期的に行ってますが、どうしても石による転倒も多くなってしまうという地質的な問題もあります。

図表3－15 軽微なものを含むケガが発生している場所と症状(2014年度 保健室データ)

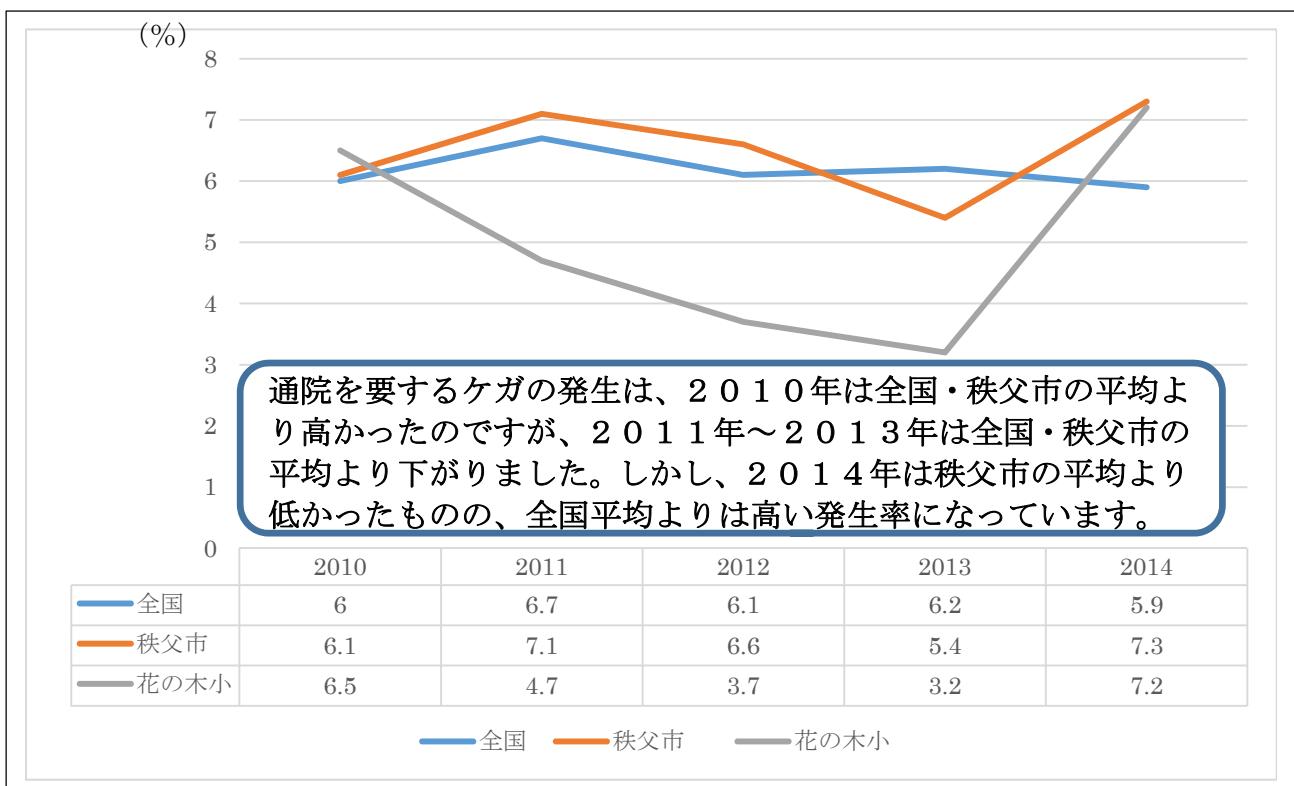


図表3－16 軽微なものを含むケガが発生している場所と学年(2014年度 保健室データ)



(2) 通院を要するケガの発生状況

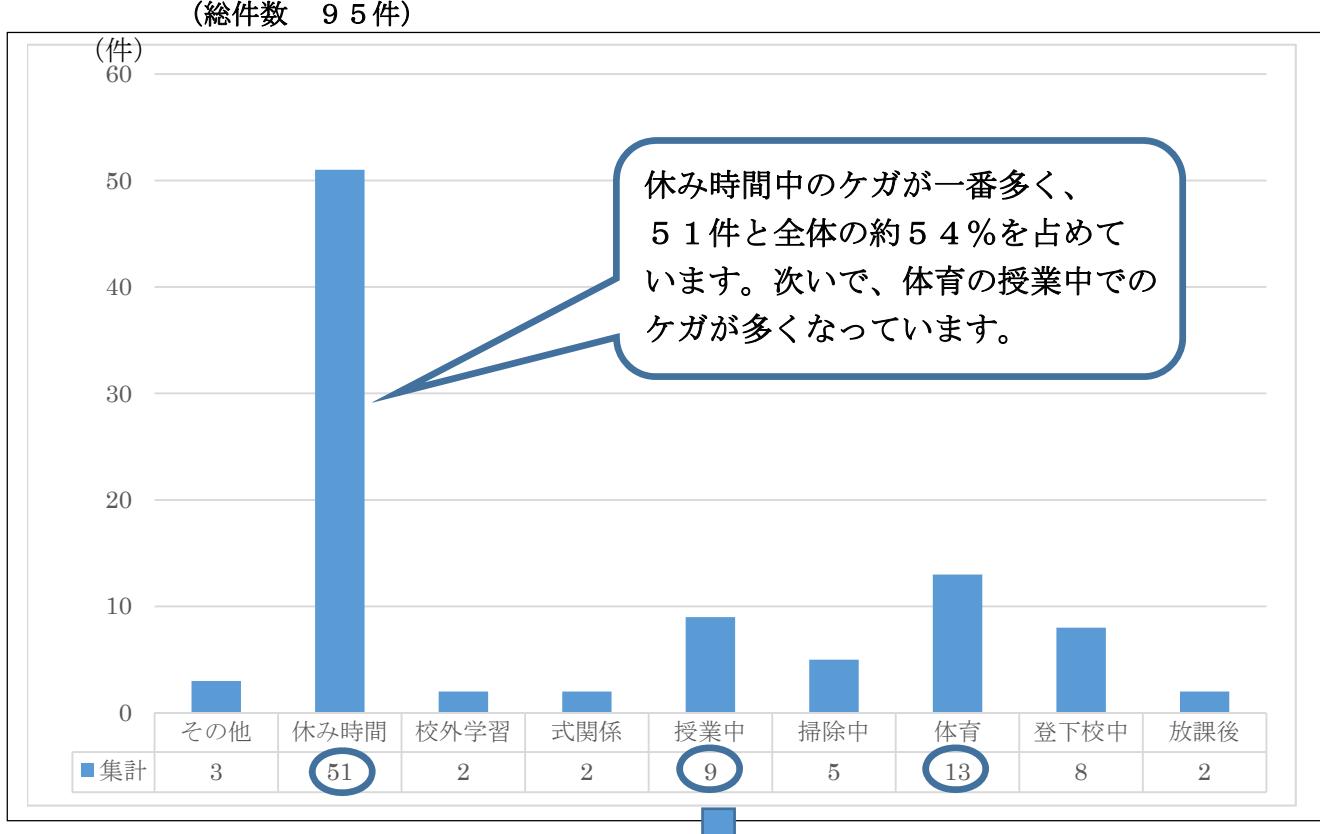
図表3-17 発生率(※)推移の全国・市内との平均(2010年度～2014年度 災害共済給付データ)



通院を要するケガの発生は、2010年は全国・秩父市の平均より高かったのですが、2011年～2013年は全国・秩父市の平均より下がりました。しかし、2014年は秩父市の平均より低かったものの、全国平均よりは高い発生率になっています。

図表3-18 通院を要するケガの発生時間帯(2010年度～2014年度 災害共済給付データ)

(総件数 95件)



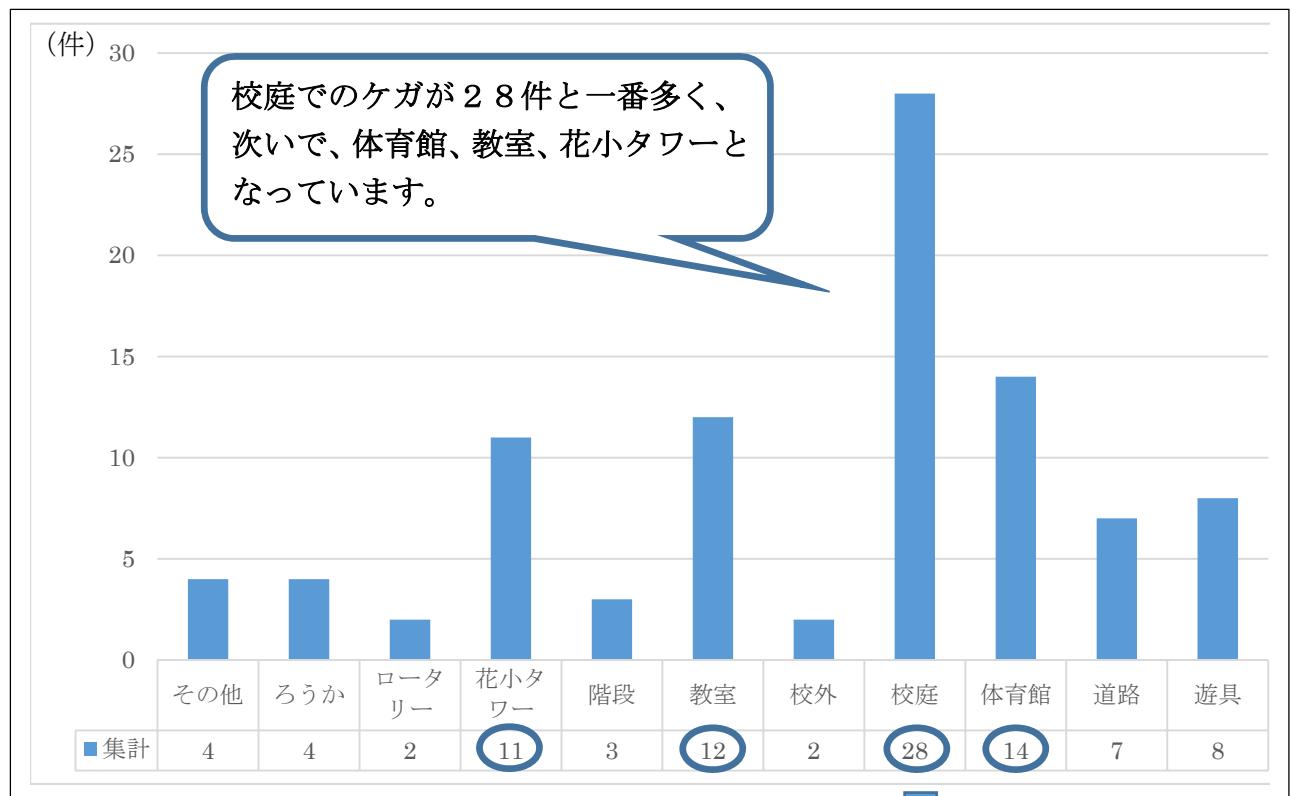
図表3－19 通院を要する休み時間、授業中、体育の時間のケガと発生場所

(2010年度～2014年度 災害共済給付データ)

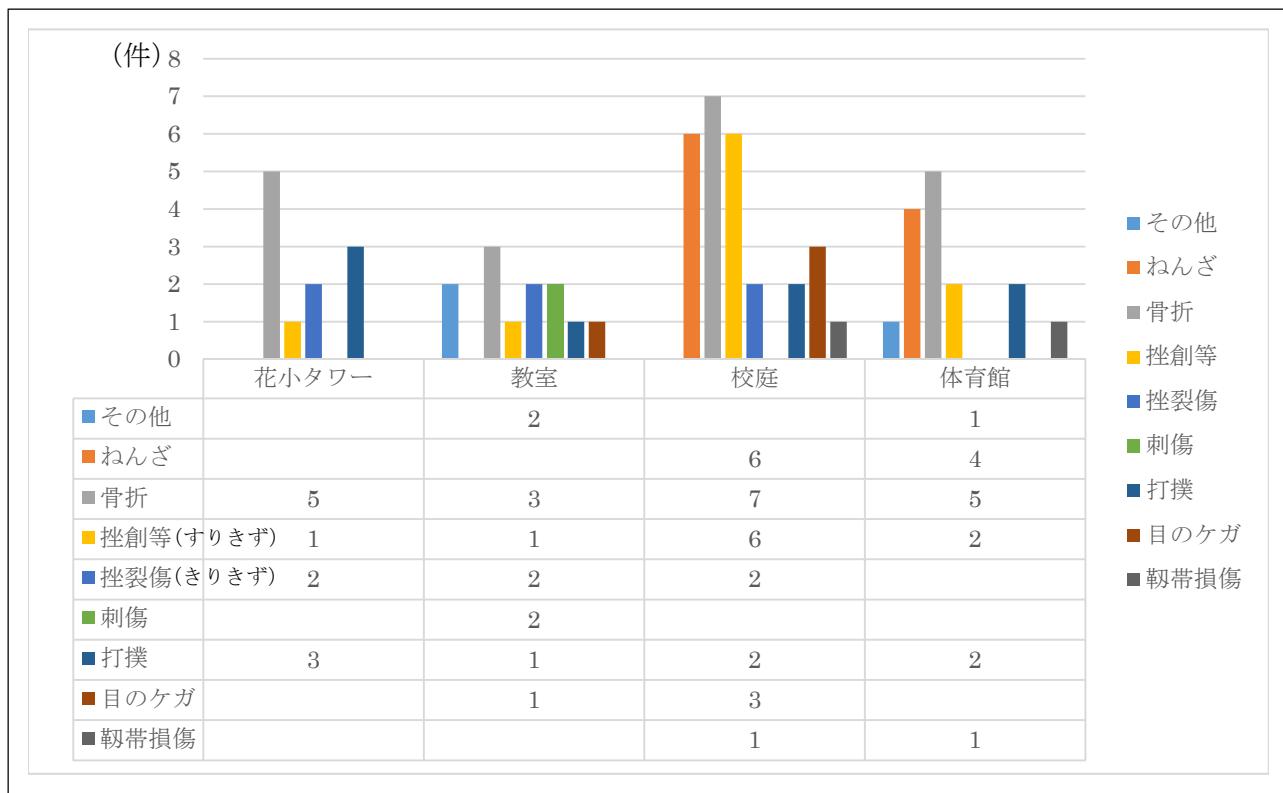


図表3－20 通院を要するケガの発生場所 (2010年度～2014年度 災害共済給付データ)

(総件数 95件)

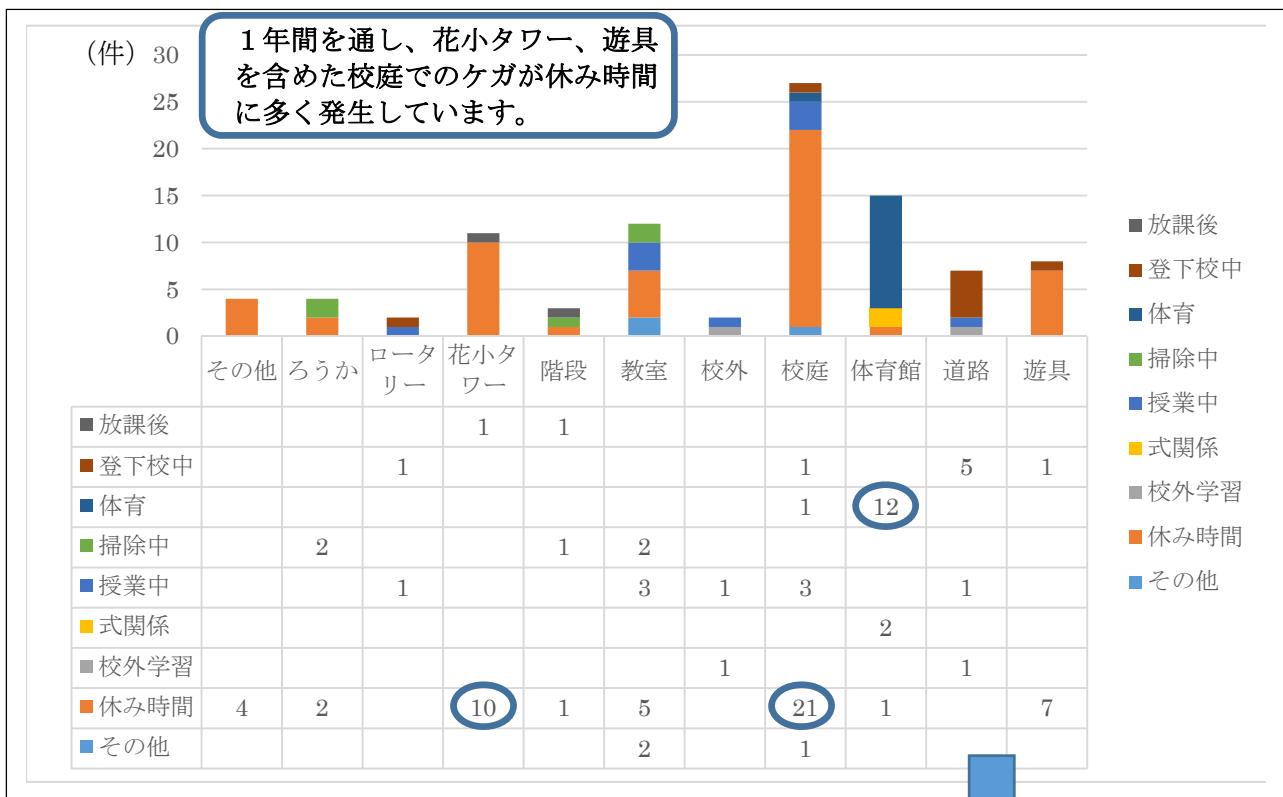


図表3－21 通院を要する花小タワー、教室、校庭、体育館のケガの種類
 (2010年度～2014年度 災害共済給付データ)



花小タワー、教室、校庭、体育館のいずれも、骨折が多くなっています。

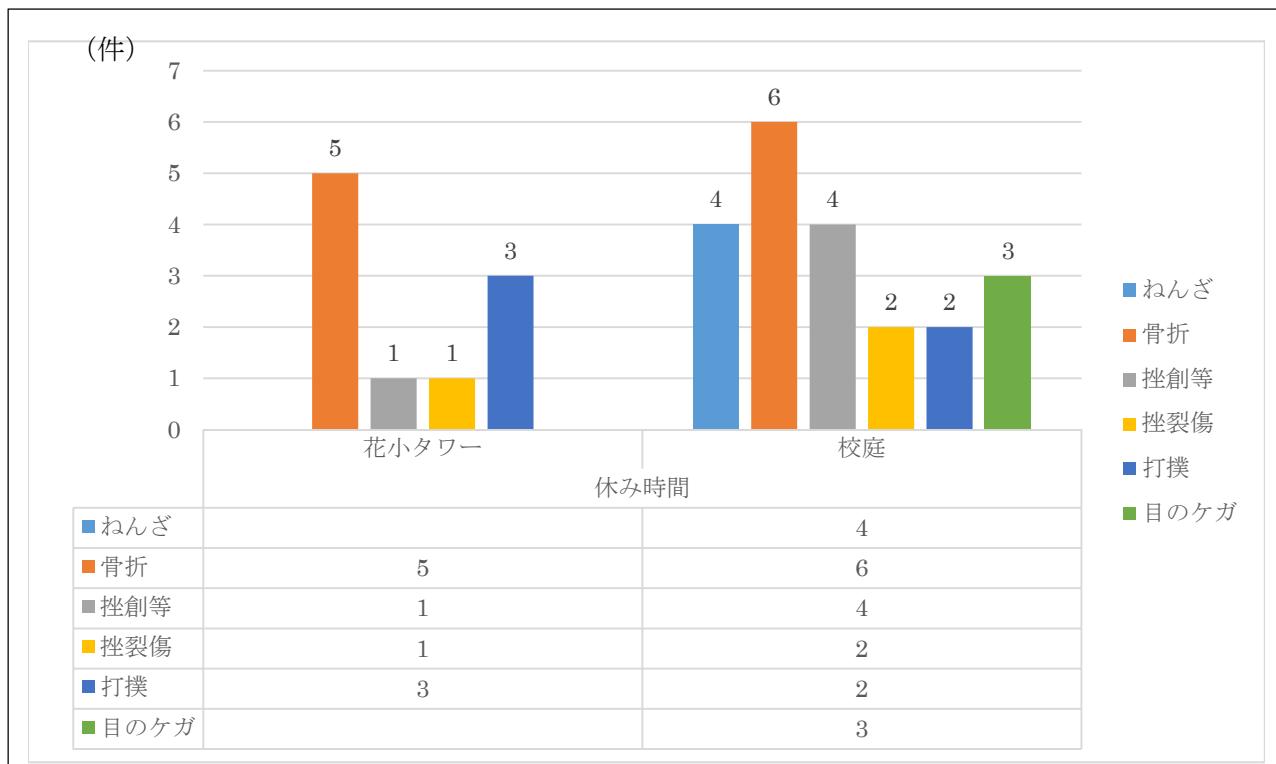
図表3－22 通院を要するケガが発生している時間帯と場所
 (2010年度～2014年度 災害共済給付データ)



上記の表の「式関係」とは、「入学式」「終業式」等を指す。(p. 4参照)



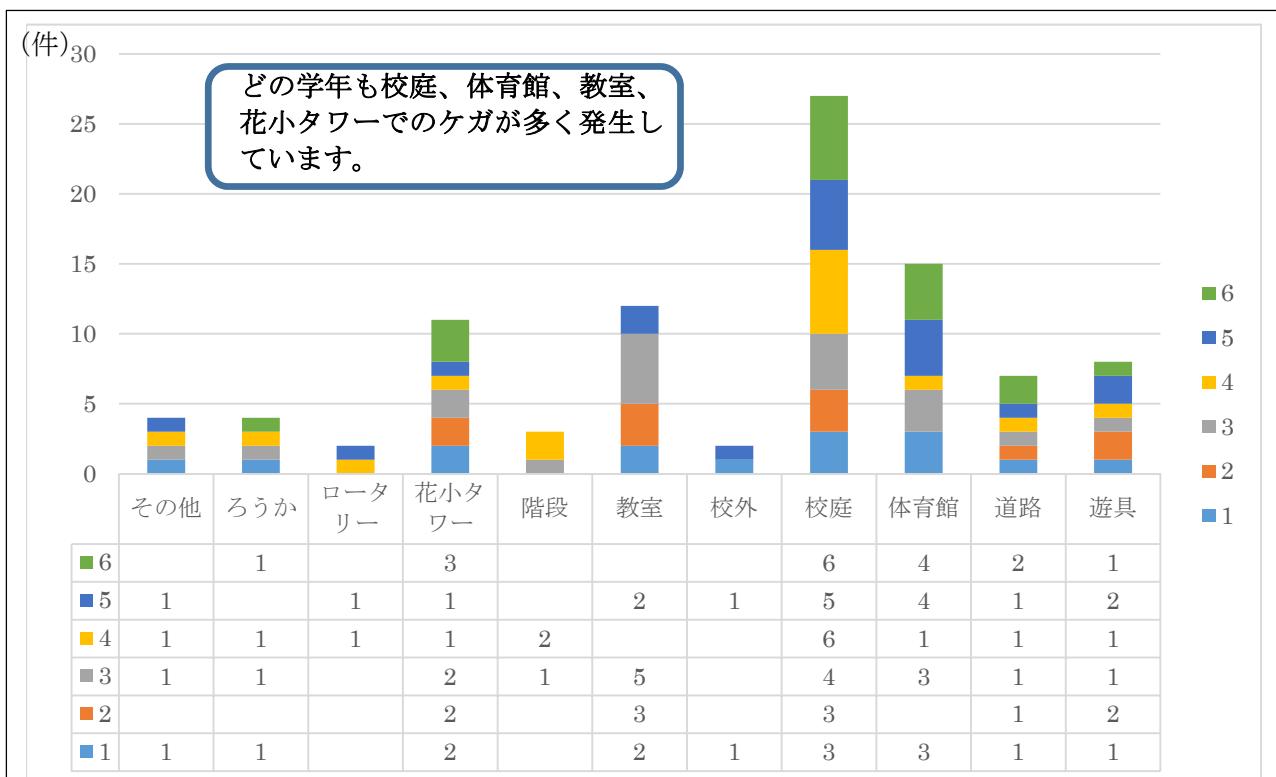
図表3－23 休み時間の花小タワー、校庭で発生している通院を要するケガの種類
(2010年度～2014年度 災害共済給付データ)



休み時間の花小タワー、校庭共に、骨折が多く発生しています。花小タワーは転落、校庭では接触、転倒による骨折が多くなっています。

図表3－24 通院を要するケガが発生している学年と場所

(2010年度～2014年度 災害共済給付データ)



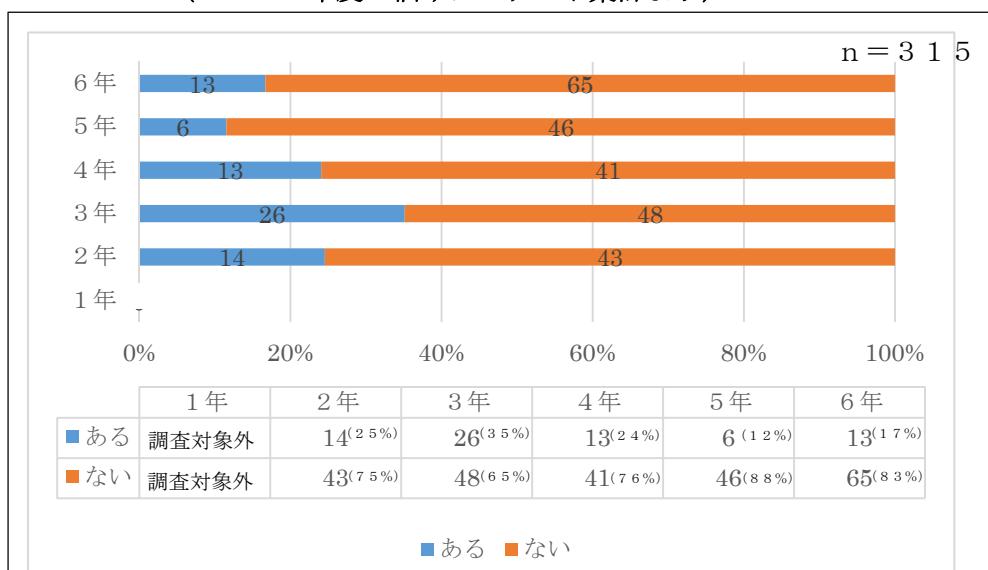
(3) いじめによる心のケガ

◎学校における「いじめ」の発生件数

いじめとは、「当該児童生徒が、一定の人間関係のある者から、心理的、物理的な攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているもの」とされています。本校においては、過去3～5年前はいじめを8件教育委員会に報告していますが、過去2年間は発生していません。しかし、「いじめは、誰にでも、どのクラスでも、どの学校、どの学級でも起こりうる」ということを前提に、「悩みアンケート（指標6参照）」を活用し、できるだけ客観的に調査をすると共に、児童の様子を注意深くみています。

図表3－25 無視されたり、仲間はずれにされたりしたことがありますか。

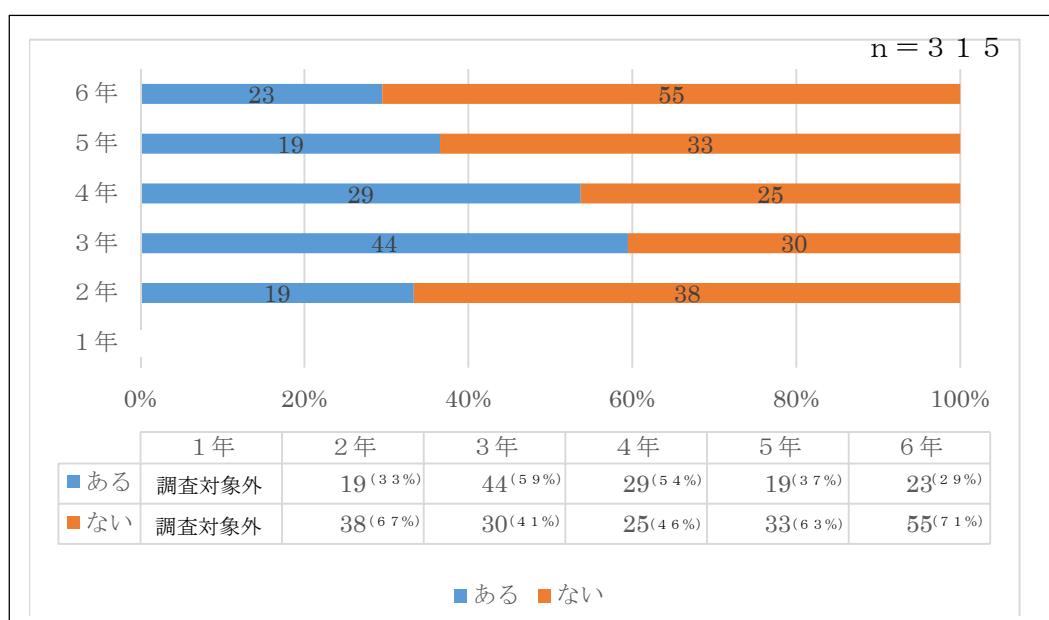
（2014年度 悩みアンケート集計より）



「ある」と答えた児童は低学年が多く、5、6年生は「ある」と答える児童が少ない傾向です。

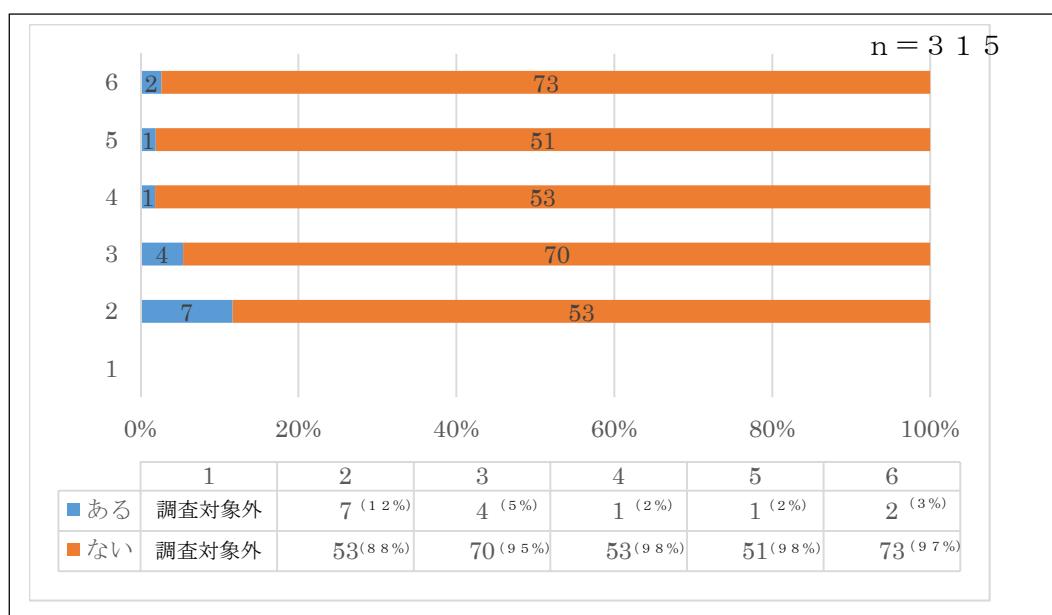
図表3－26 ひやかしやからかい、悪口やいやな言葉を言われたことがありますか。

（2014年度 悩みアンケート集計より）



「ある」と答えた児童は、3、4年生に多くみられ、6年生は一番少なくなっています。

図表3－27 あなたやあなたの友だちで、今いじめにあっている人はいますか。
(2014年度 悩みアンケート集計より)



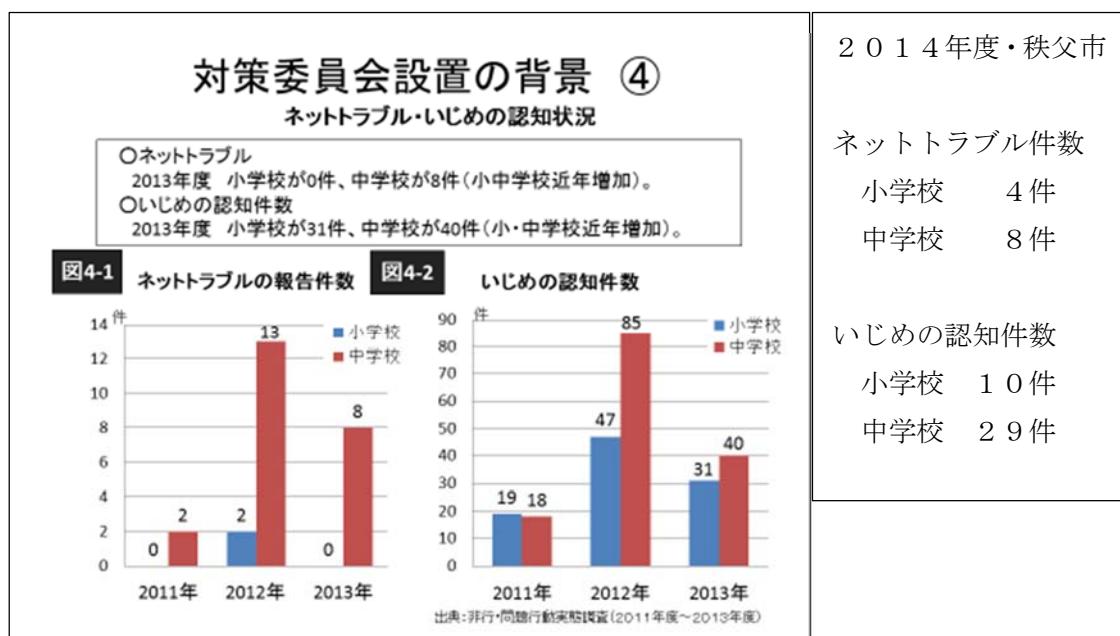
2年生の「ある」という回答がやや多かったので、すぐに取り組みました。

また、インターネットや通信機器による児童同士のトラブルは、過去5年で4件起こっており、内訳は「悪口の書き込み」「個人写真の投稿」「個人情報の暴露」となっています。

対策として、①ネットアドバイザーを講師に招いて保護者への講演 ②学校だよりにネットトラブル関係の話題を掲載・配布し、家庭への啓発 ③ネットトラブル関係の文書の家庭への配布、啓発 ④「ノーメディアカード（1日のメディアに触れる時間を家庭で決めて取り組む）」の家庭への配布と取り組み ⑤職員によるネットトラブル関係の児童への授業 ⑥学校保健委員会（学校医、保護者、職員が参加し、保健について話し合う）でネットのトラブルを扱う ⑦各学年、各担任による児童への指導などを行っています。

そのため、ここ3年間はネットトラブルは1件のみにとどまっています。

秩父市でも対策委員会を設置し、ネットトラブル・いじめへの対応を進めています。



2 校外のケガ

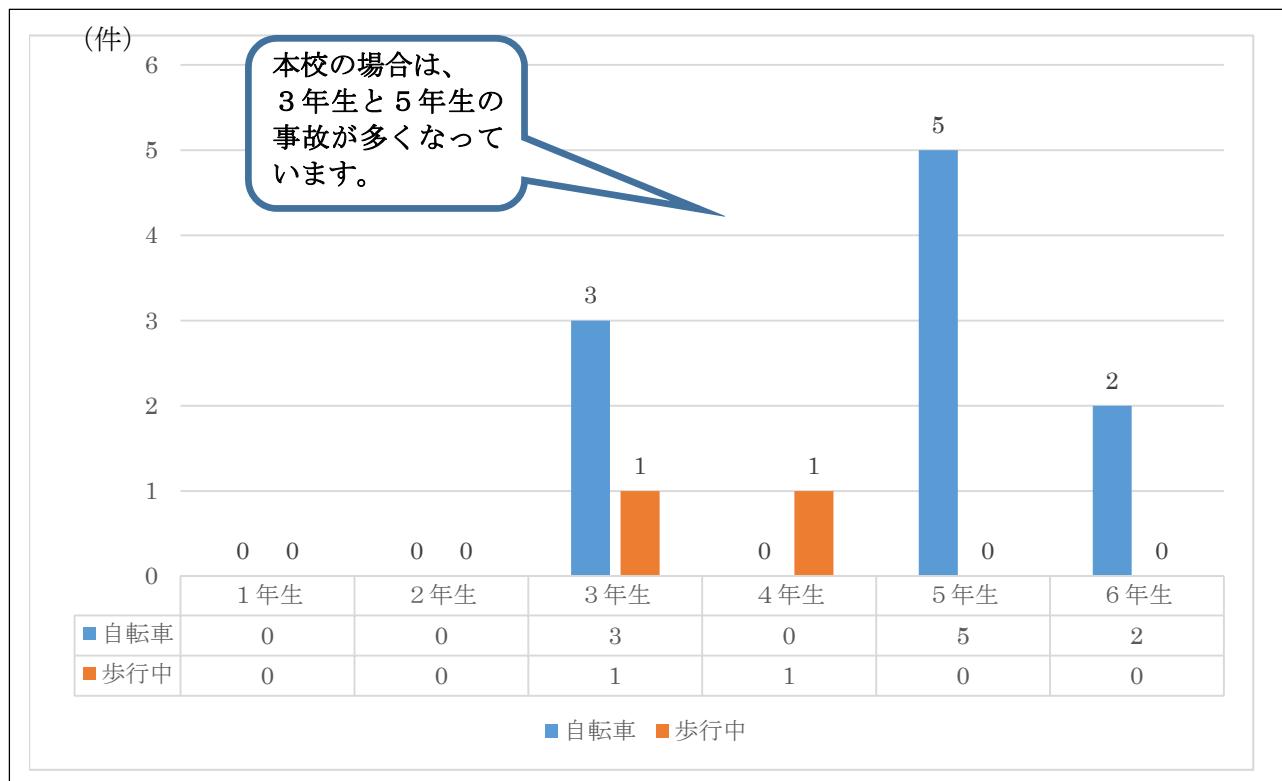
(1) 本校における自転車のきまり等について

本校では、1・2年生は保護者と一緒にでなければ自転車には乗れないきまりになっています。3年生以上になり、交通安全教室、自転車点検を経て、児童だけで自転車に乗ることができます。なお、3年生以上の児童はほぼ全員が自分の自転車を所有しています。ヘルメットも推奨し、取り組みを進めています。ただ、通学に自転車は使われず、児童は徒歩で登下校します。しかし、日常生活では、小学生のころから自転車に乗ることが多くなります。学区内の道路状況は、道幅が狭く、信号機のない交差点が多いことから、自転車の安全については特に注意を払っています。

(2) 学区域内の児童の自転車事故の発生件数

過去5年間に発生した学区内における花の木小学校の児童の交通事故は12件で、そのうち自転車乗車中の児童の事故は10件でした。

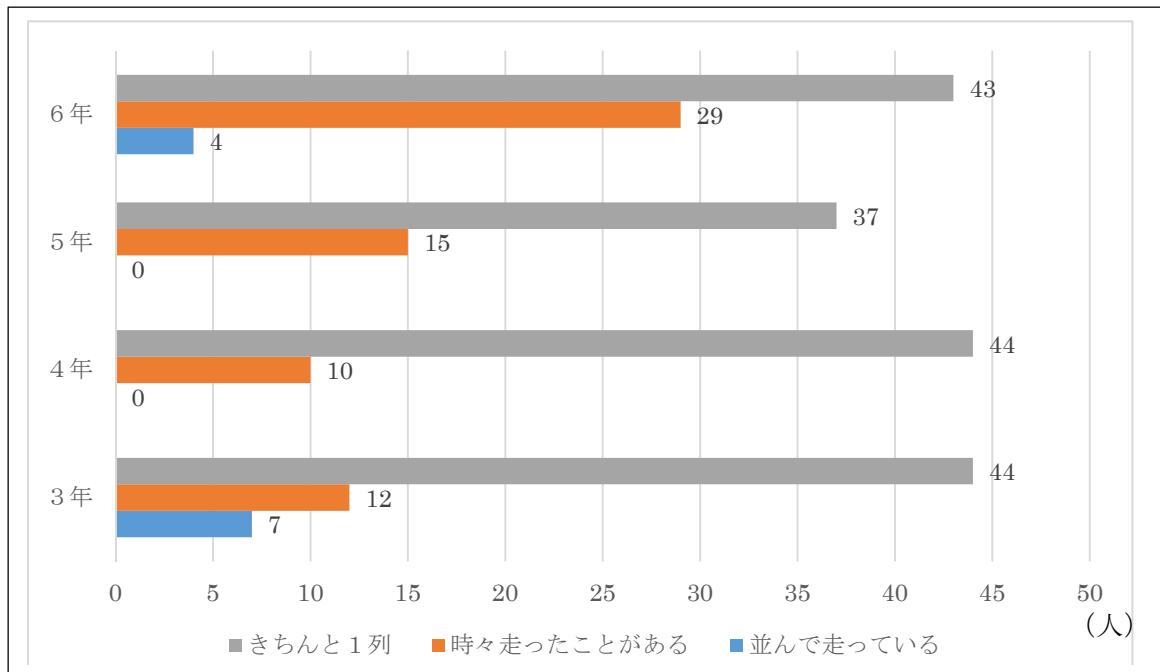
図表3-28 本校児童の交通事故の状況（2010年度～2014年度秩父市危機管理課のデータ）



児童の自転車の乗り方のマナーを把握するため、自転車アンケートを行いました。

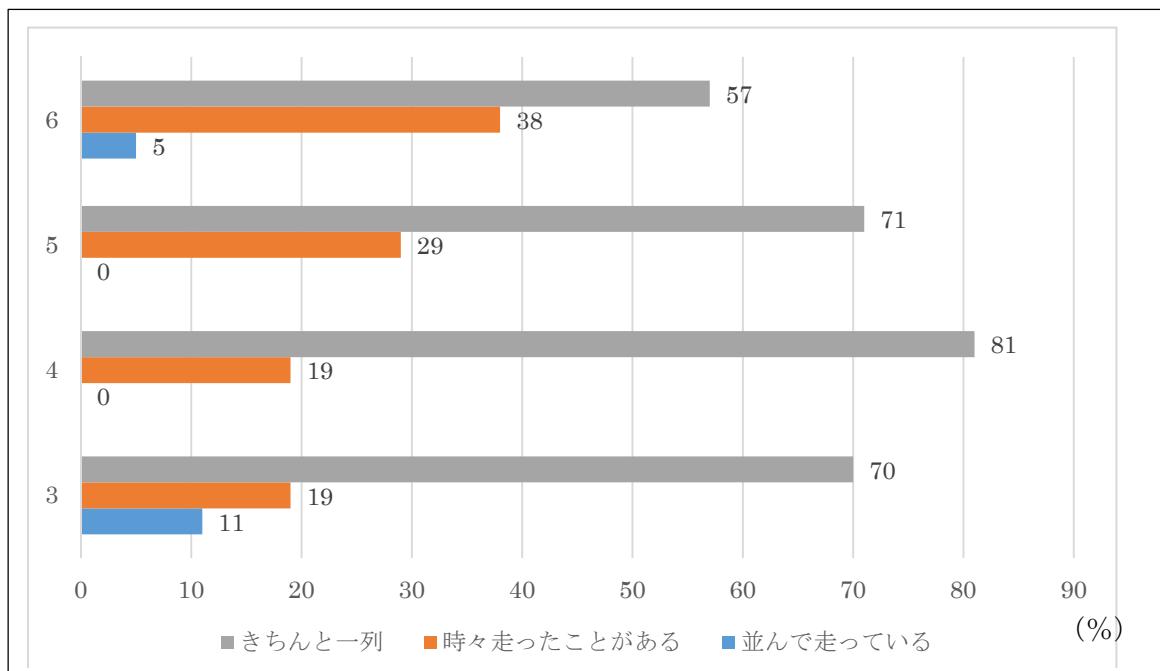
図表3－29 自転車乗りの時友だちと並んで走っていますか？

(2014年度 自転車アンケート 対象3年生～6年生より)



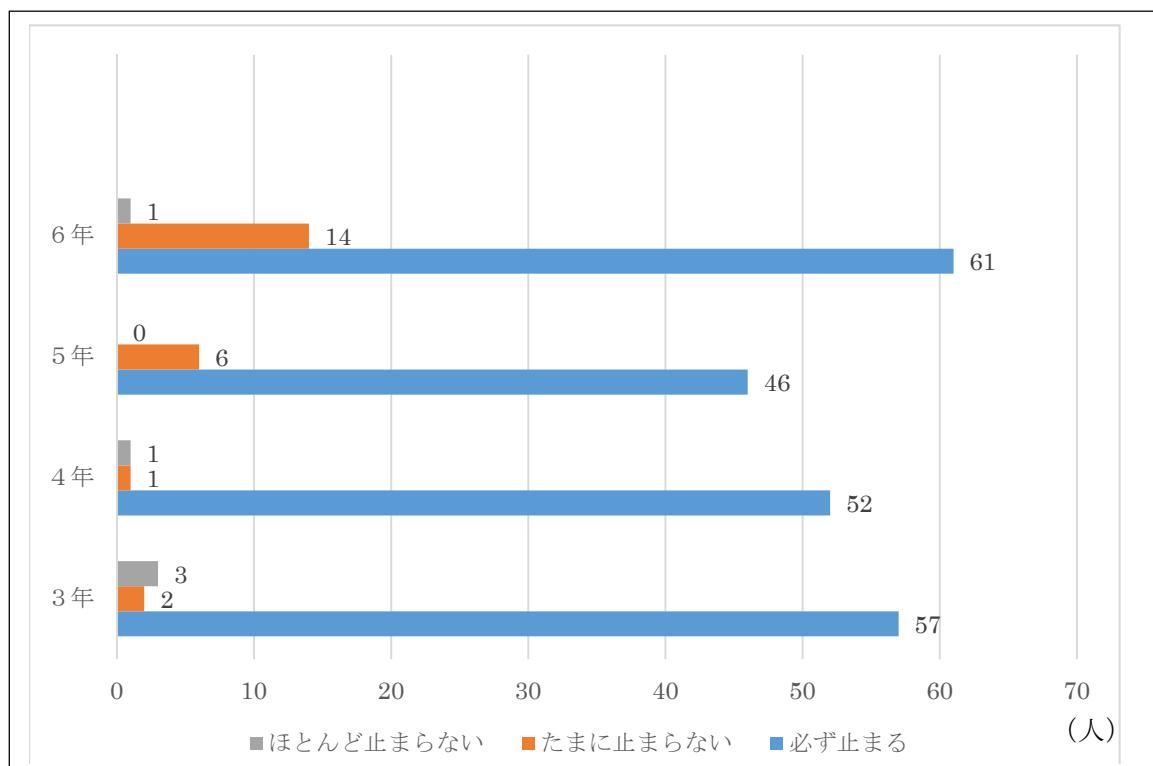
図表3－30 自転車乗りの時友だちと並んで走っていますか？(割合)

(2014年度 自転車アンケート 対象3年生～6年生より)

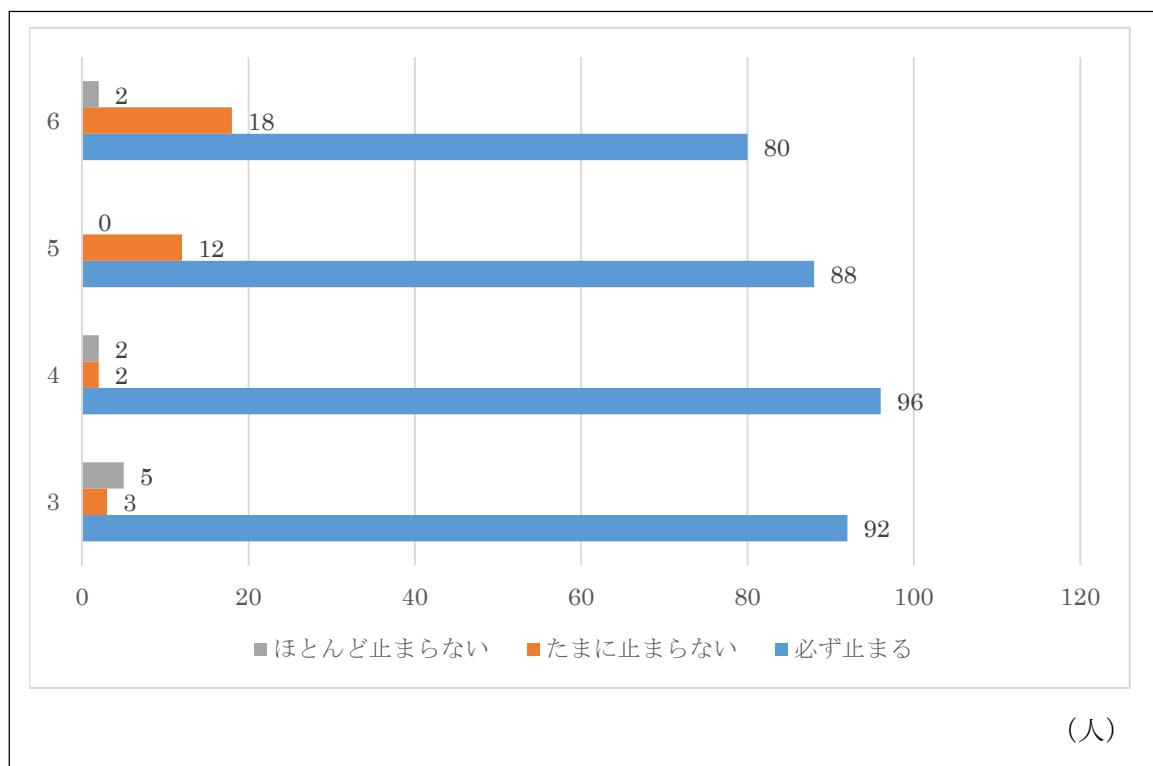


高学年になるにつれて、自転車で友達と並んで走ったことがある傾向がありました。と同時に、3年生と6年生は、並んで走っている、という回答がありました。

図表3－3－1　自転車乗りの時必ず交差点で止まっていますか？
 (2014年度　自転車アンケート　対象3年生～6年生より)



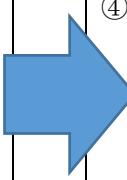
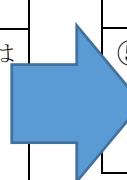
図表3－3－2　自転車乗りの時必ず交差点で止まっていますか？(割合)
 (2014年度　自転車アンケート　対象3年生～6年生より)



ほとんどの児童は「必ず止まる」と回答しています。しかし、やはり学年が上がるにしたがって、「たまに止まらない」「ほとんど止まらない」という回答が多くなる傾向がありました。交差点での事故が多いいため、交通安全教室でも重点的に指導をしています。

第4章 ケガの発生状況に基づく予防対象の設定

ケガの発生状況を踏まえて、校内及び校外におけるケガの予防対象を設定し、予防活動を行います。

ケガなどの発生状況		予防対象
校内	<ul style="list-style-type: none"> ○体育の時間のけがが学年では2年生が多いです。校庭や、体育館での跳び箱でも多いです。(図3-12) ○軽微なものを含むケガの全体像をみると、休み時間における遊具・花小タワーを含めた校庭でのケガが多いということがわかります。(図3-6、3-11) ○通院を要するケガは、休み時間に多く発生しています。(図3-18) ○通院を要するケガは休み時間に次いで体育の時間に多くなっています。(図3-18) ○休み時間中の低学年の校庭、遊具、花小タワーのケガが他の学年より多くなっています。(図3-16) (図5-4) ○本校では過去5年間、重大ないじめは発生していませんが、「悩みアンケート」によると、仲良く過ごせていない児童がいることがわかります。(図3-25、3-26) 	<ul style="list-style-type: none"> ①体育のケガ (体育館) ②休み時間のケガ (校庭) (遊具) (花小タワー) ③低学年のケガ (遊具) (花小タワー) ④友だち関係 
校外	<ul style="list-style-type: none"> ○過去5年間に発生した学区域内での本校児童の交通事故は12件で、そのうち自転車乗車中の事故で10件でした。(図3-28) ○自転車事故の主な原因は、飛び出しによるものです。(図5-16) ○自転車事故は3年生と5年生に多かったです。(図3-28) ○自転車の交通ルールを守る意識が高学年になると低くなる状況です。(図3-29、3-30、3-31、3-32) 	 <ul style="list-style-type: none"> ⑤自転車乗車中の交通事故

※児童虐待は件数がほとんどないため、重点には入れていません。

※児童が関わる犯罪も少ないですが、対策として、①完全下校時刻を16時とし、16時には全校児童が下校するようにしている。②防犯カメラを校内に設置している。③放課後は春期・夏期は夕方6時まで、秋期・冬期は夕方5時までに帰宅する。④新1年生が入学する際に防犯ブザーを全員に配布している。⑤「子ども110番の家（児童が犯罪に巻き込まれそうになったときに、逃げ込むことができる家）」への登録と協力を地域に呼びかけ、登録していただいた家には「子ども110番の家」のプレートを配布している。などを取り組んでいます。

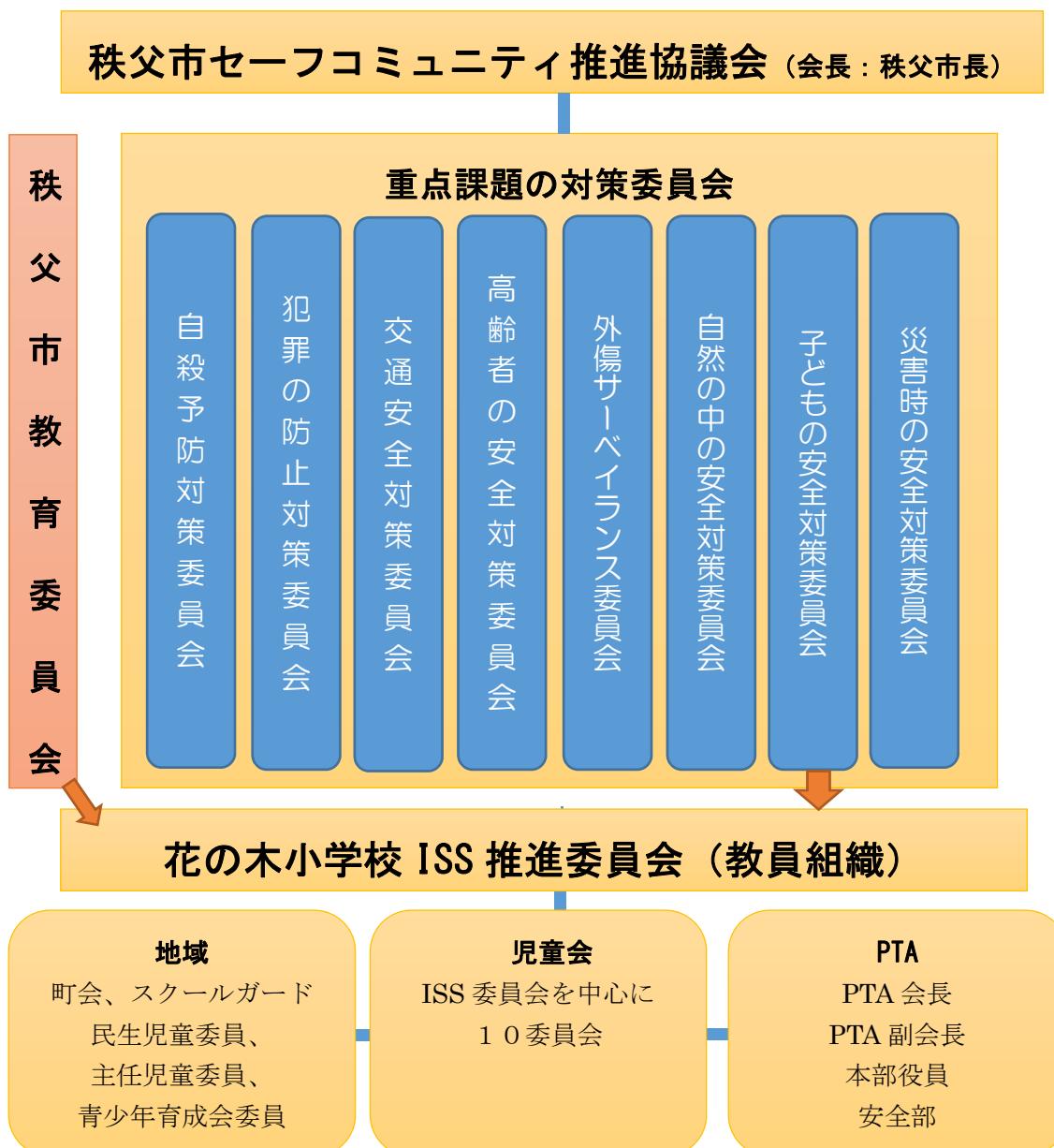
※避難訓練、通学班一斉下校、引き渡し訓練等、防災対策については、「指標4」を参照してください。

第5章 8つの指標に基づいた取組

指標1 協働を基盤とした安全向上に取り組む運営基盤

1 インターナショナルセーフスクール推進組織

本校は秩父市セーフコミュニティの理念や手法と同一方向にあり、セーフコミュニティを推進する秩父市危機管理課との連携を図りながらインターナショナルセーフスクールの取組を進めています。特に、秩父市セーフコミュニティの重点課題である、子どもの安全対策や交通安全などを中心に連携しています。また、地域においても、地域組織や保護者などとの連携のなかで安全な学校づくりに向けて取り組んでいます。



2 P T A

毎月定期的に行われる P T A 理事会において、本校の I S S の取組状況について校長または、研究主任が情報提供するとともに、P T A 本部役員および安全部を中心とする取組について協議をします。



3 地域

地域住民（花小サポートーズ等）が集まり、児童の交通安全・防犯に着目し情報交換や取組について協議します。

（1）スクールガードリーダーを中心とした防犯ボランティア（学校応援団・花小サポートーズ）

（2）学校評議員による部会

※学校評議員…学校教育法施行規則第49条に

定められた、学校運営に関して意見を述べる人員のことです。

※スクールガードリーダー

…学校の防犯体制及び学校安全ボランティア（スクールガード）の活動に対して専門的な指導を行う者のことです。



4 校内における I S S 推進組織（教員）

学校教職員で組織し、ケガデータや意識調査をもとに原因分析や考察を行い、予防対策を組織的（調査分析部、授業研究部、特別活動部、環境整備部）・継続的に行っていきます。また、安心・安全で思いやりあふれる教育環境づくりに向けて連携を図っています。

（1）研究推進委員会【校長、教頭、主幹教諭、生徒指導主任、特活主任、 養護教諭、安全主任、学年主任】

- 基本的な方針・進行管理
- 成果の検証
- 児童の行動の変容の検証
- 外部関係機関との連携
- 安全指導プログラム
- 危機管理マニュアル

（2）調査分析部

- 外傷データの集計、分析、考察
- 児童の安全に関する意識調査
- いじめ実態の把握

（4）特別活動部

- 児童の安心・安全に対する意識の高揚・ISS 委員会を中心とした児童会活動

（3）授業研究部

- 危険を予測し、回避する方法を考え、自分の判断で行動できる授業研究・ライフスキル教育

（5）環境整備部

- 安全意識高揚の ISS 関連掲示物の作成
- 安全計画の見直し・検討

(1) 研究推進委員会

校長の下、ISS に関する基本的な方針の検討や、進行管理を行うための研究推進委員会を組織しました。また、各専門部の企画・調整や関係機関との連携、家庭・地域への広報活動を行っています。(ISS だよりの発行)

(2) 調査分析部

収集した保健室のデータや調査部独自に実施した意識調査の分析・考察を行い、情報を授業研究部や児童会活動への課題を提供しています。

1 日に起きるケガに関してのデータを収集しファイルに保存し、掲示物を作成して掲示しています。

(3) 授業研究部

目指す児童像を「今までの経験や学習から危険を予測し、回避する方法を考え、自分の判断で行動する子」と設定し、児童の身近な生活安全や交通安全等について課題解決する力の育成を目指した授業研究を行っています。

(4) 特別活動部

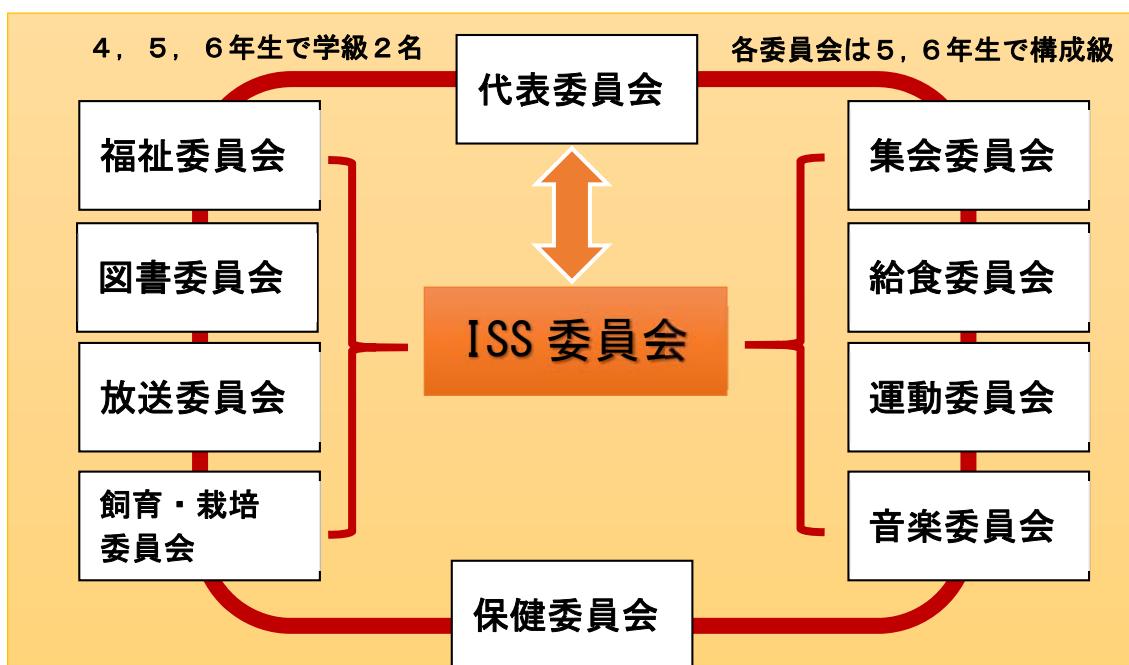
外傷データや意識調査をもとに、児童の主体的な活動ができるような児童会活動 (ISS 委員会を中心とした活動) について、校務分掌の特別活動部と協働し研究の推進につとめています。

(5) 環境整備部

調査分析部の外傷データや意識調査、各委員会による ISS 活動計画に基づいて、校内の安全環境づくりを進めたり、安全に対する意識の高揚を図るために掲示環境の充実を図ったりしています。作成した掲示は、ISS ストリートに集約し、児童の気付きや活動状況などの情報を共有しています。

5 校内における ISS 推進組織 (児童会)

ISS 委員会と各委員会が連携してセーフスクール活動を考え、全校に発信しています。他の委員会も各自のテーマの中で安心・安全に関する取組を展開しています。



(1) ISS 委員会

ISS 活動の中心となる委員会です。代表委員会の児童と各委員会の委員長により構成しています。保健委員会からのデータや調査分析部による「生活アンケート」をもとに話し合い、課題や活動の目標を定例の ISS 集会等で発信しています。また、日本セーフコミュニティ推進機構との懇談会を実施して、活動についてのアドバイスをいただきました。



(2) 10 の委員会

10 の委員会では、「安心安全で思いやりあふれる学校」にするため、自分たちにできることは何かを話し合い、それぞれの役割の中で ISS 活動計画を立て、計画をもとに ISS 活動を進めています。



表 各委員会の ISS 活動

ISS 委員会	ISS スローガンの決定「つくろうよ！安心・安全 花の木小」 ISS キャラクター「はなのつきー」の決定、ISS チェックカード
集会委員会	全校で楽しめて安全な遊び集会を企画・運営 安心・安全に関する ISS○×クイズの企画・運営
福祉委員会	校舎内外の安全ポスター、いじめ防止ポスターの作成 ペットボトルキャップ回収でワクチンを買う、募金活動
給食委員会	残食減らそうキャンペーン、消毒の徹底（注意札、チェック表） 危険な運び方を減らそうキャンペーン（呼びかけ、ポスター）
音楽委員会	安心・安全に関する歌を作成。音楽集会を毎月、企画・運営し、 心に響く演奏をする。安心・安全の歌の講習会
飼育・栽培委員会	花いっぱい運動（苗を育て、各クラスに配る）、ポスター掲示 うさぎとのふれあい体験、暑さから守るグリーンカーテン
放送委員会	ISS 活動に即した「安心・安全」を意識づける放送の実施 「心をこめてはっきり言う」温かい言語活動に着目した放送
図書委員会	「安全」「仲間」「命」「思いやり」の本コーナーの設置 図書室の安全な使い方の呼びかけ、便りの発行
運動委員会	安全に遊具が使えるよう ISS 集会・体育朝会でよびかける。 遊具安全パトロールの実施、校庭危険箇所の見回り、石ひろい
保健委員会	ケガの記録をとりケガマップの作成、ケガの予防のためのセーフニュースの発刊、危険箇所のチェック掲示、手洗いうがい啓発

指標2 セーフコミュニティの文脈に基づき、自治体や教育委員会等の方向性と一致している

1 学校安全における国・埼玉県・秩父市と本校との関係

国では、「交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがの防止には、周囲の危険に気づくこと、的確な判断の下に安全に行動すること、環境を安全に整えることが必要である」と小学校学習指導要領で示し、県や市の方針や施策の中に反映されています。本校では、こうしたことを受け、学校経営方針の1つの柱として安心・安全な学校づくりを掲げています。

国

学校安全の推進に関する計画 一文部科学省 2012年

実証的で科学的な学校安全の取組として、セーフスクールの取組を推奨

県

学校の安全に関する方針 一埼玉県教育委員会 2015年

〈健康教育〉生涯にわたって心身ともに健康で安全な生活を主体的に実践できる児童生徒を育成する。

市

秩父市学校創造スーパープランー秩父市教育委員会 2015年

〈質の高い学校教育の推進〉 安心・安全な学校環境の整備
国際認証取得を目指したセーフスクールの推進

秩父市セーフコミュニティの趣旨

セーフコミュニティの手法を活用し、共助の精神に基づいて、より質の高い安心・安全のまちづくりに取り組む

学校

花の木小学校 学校経営方針 2015年

〈目指す学校〉
安心・安全で思いやりにあふれ、保護者や地域社会から信頼される学校
〈経営の重点・努力点〉
全教職員の参画により、確かな学力と豊かな心を育む教育を推進し、
安心安全な信頼される学校を創造する。
・セーフスクール国際認証へ向けての確実な推進

2 セーフコミュニティにおける学校の安全に関する方針

本校の ISS は、秩父市のセーフコミュニティ活動と密接に関係しています。

まず、セーフコミュニティに取り組んでいる秩父市危機管理課の職員による校内研修を実施しました。

セーフコミュニティの取組では、様々な部門が連携をして地域の安全向上に取り組む仕組みがあります。

また、秩父市の全地域、全市民を対象としつつ、ハイリスク集団・環境をカバーする仕組みや、安全向上のためのプログラム、実施の経過、取組の成果を評価する仕組みがあり、本校が取り組んでいるセーフスクールと一致しています。

日本セーフコミュニティ推進機構代表理事の白石陽子氏を指導者にお呼びし、校内の研修を行い、本校の目指す方向性についてもアドバイスをいただきました。

本校 PTA 前会長の川田哲也氏が秩父市セーフコミュニティの「子どもの安全対策委員会」の委員長であることから、常にセーフコミュニティの取組の様子をうかがうことができました。



白石陽子氏による校内研修



子どもの安全対策委員長 川田哲也氏

3 ISS 委員会スローガン、児童会のめあて

つくろうよ！ 安心・安全 花の木小

ISS 委員会が提案し、各委員会活動の目標となるスローガンとしました。全校集会では、全児童に発表し、誓いました。また、ISS キャラクターも全校に募集し、「はなのつきー」が決定しました。児童が気付き主体となって活動するための合言葉として、各玄関上部や体育館に大きく掲示してあります。



指標3 両性、全年齢、環境、状況をカバーする長期的かつ継続的なプログラムを実施している

本校の安全指導は、「安全教育全体計画」によって管理しており、様々な教育や活動が展開されています。本表は、セーフスクールを目指す長期的かつ継続的なプログラムの全体像です。データ等を客観的に分析し、根拠に基づいて重点課題を設定し、協働の仕組みにより安全課題を取り組んでいます。下表は、児童、教員、保護者・地域の対象別及び学校内外でのプログラムを整理したものです。数字はP.33からの具体的な取組です。

表中の取組のうち「緑」は指標3、「赤」は指標4、「青」は指標5を示しています。

対象者 領域	児童	教員	保護者・地域
	ケガマップ 1-1		
	委員会による ISS 活動 1-2,1-5,1-6		
	安全学習 1-3,1-4,2-5,		
	児童意識調査 1-7		
	ネットトラブルの授業 1-10		
	ISS キャラクター掲示 1-12		
	教職員対象の危機対応能力研修会 2-1		
学校内	いじめ防止研修会 2-3,3-1		
	ISS ストリート 2-6		
	ISS 集会 3-2		
	縦割り班活動、縦割り遠足 3-4,3-5		
	校内安全点検による環境改善 4-1,4-2,4-3,4-4		
	避難訓練 6-2		
	耐震補強 6-1		
	悩みアンケートの実施 3-3		

対象者 領域	児童	教員	保護者・地域
学校内 校舎外	ケガマップ 1-1		
	委員会による ISS 活動 1-2,1-5,1-6		
	安全学習 1-3,1-4,2-5,		
	児童意識調査 1-7		
	教職員対象の危機対応能力研修会 2-1		
	水泳指導複数教員による指導体制 2-2		
	いじめ防止研修会 2-3,3-1		
	ISS ストリート 2-6		
	ISS 集会 3-2		
	縦割り班活動、縦割り遠足 3-4,3-5		
	縦割り班除草作業 3-6		
	校内安全点検による環境改善 4-1,4-2,4-3,4-4		

対象者 領域	児童	教員	保護者・地域
学校外	地域安全マップづくり 1-8		
	花小セーフクリーン運動・地域安全マップ 1-9		
	ネットトラブルの授業 1-10		
	オリジナル通学班旗 1-11		
	通学班長副班長会議 2-4,5-3,5-4		
	ISS 集会 3-2		
	交通安全・自転車安全教室 5-1,5-2		
	登校指導 5-6		
	引き渡し訓練 6-3		
	新一年生の集団下校 5-5		
学区域	下校時の見守り活動 6-6		
	地域安全マップづくり 1-8		
	花小セーフクリーン運動・地域安全マップ 1-9		
	オリジナル通学班旗 1-11		
	通学班長副班長会議 2-4,5-3,5-4		
	交通安全・自転車安全教室 5-1,5-2		
	登校指導 5-6		
	子ども110番の家との連携 6-9		
	地区パトロール隊 6-10		

表中の取組番号（例 1-1）の具体的な内容は、次頁 P. 33 の通りです。

1 児童の危険回避能力の育成

1-1：校内外傷発生箇所図（ケガマップ）の掲示

目的：危険箇所の情報共有

内容：データ収集を行い、視覚化を図る

実施者：児童、教職員

主な対象者：児童 頻度：毎日

環境：校舎内、校庭



1-2：放送委員会児童による安心・安全な放送

目的：学校内外での安心安全への意識の向上

内容：給食時の校内放送

実施者：児童、教職員

主な対象者：児童

頻度：毎日（朝・昼・下校時） 環境：学校内外



1-3：命についての学習（危険回避力、危険予知力）

目的：命を大切にする心や危険回避・予知力を養う

内容：安心・安全に関する講話

実施者：教職員、校長（全校朝会講話）

主な対象者：児童

頻度：学期に2回（ISSニコピン集会、朝会時）



1-4：校内授業研究

目的：児童の危険を回避する能力の育成

内容：効果的な授業の検証

実施者：教職員、児童

主な対象者：児童

頻度：学期に1回 環境：校舎内外



1-5：危険箇所表示の設置（ISS委員会、各委員会）

目的：環境改善、注意喚起

内容：児童が自ら外傷多発箇所を考え、注意喚起表示を設置（現在の設置数：12）

実施者：教職員、高学年児童

主な対象者：児童 頻度：通年



1-6：危険箇所の整備（保健委員会、運動委員会）

目的：環境改善

内容：児童が自ら外傷多発箇所を見つけ、補修する（校庭でのくぼみ、段差の補修、石除去）。

実施者：教職員、高学年児童

主な対象者：児童 頻度：通年



1-7：児童による意識調査（自転車、登下校）

目的：継続することで自己評価をしていく。

内容：児童自身がアンケートを作成し児童の行動を調査して、集会などで発表し、情報共有を行う。

実施者：まちづくりパートナーズ、教職員、児童

主な対象者：児童 頻度：毎月1回



1-8：児童による地域安全マップづくり

目的：高学年の児童が中心となって学区内の危険箇所についてまとめる。

内容：「地域安全マップ」を作成し、ISSストリートに掲示及びISS集会で発表し情報提供を行う。

実施者：5年6年児童 対象者：児童 頻度：年2回



1-9：花小セーフクリーン運動

目的：学校応援団とともに、地域の環境美化を行い、安全面での視点を加えた点検を行う。

内容：環境美化活動、地域危険箇所点検

実施者：花小サポートアーズ、6年児童、

主な対象者：児童、地域住民



1-10：ネットトラブルの授業

目的：ネットトラブルを自分事として捉え来たるべきネット生活で上手に関わっていくようにする

内容：問題点についてあげ、自分たちにできることについて話し合う 実施者：本校職員

主な対象者：5年6年児童 頻度：年に2回



1-11：オリジナル通学班旗（ISS 委員会）

目的：安全に対する意識が保たれた登下校ができるよう
にする。

内容：全校児童に通学班旗のデザインを募集する。

実施者：教職員、児童　主な対象者：児童

頻度：年に1回　対象：学校内外



1-12：ISS キャラクター掲示（ISS 委員会）

目的：安全に対する意識が保たれた生活ができるよう
にする。

内容：全校児童にISSキャラクターを募集し、ISS活動
に関する場所へ掲示する。

実施者：教職員、児童　主な対象者：児童

対象：学校内外



2 学校の指導体制

2-1：教職員対象の研修会実施

目的：教職員の危機対応能力の向上

内容：心肺蘇生講習会、AED使用訓練、事故防止の
ための校内研修、水難事故を想定した実技訓練

実施者：秩父消防本部、教職員

主な対象者：教職員　頻度：年に2回

対象：校舎内、校庭、



2-2：水泳授業における複数の教員による指導体制

目的：水泳学習の安全確保

内容：水泳学習が安全に行われるために、担任の他、2
名以上の教員が指導に加わる。

実施者：教職員

主な対象者：児童

頻度：水泳指導期間中毎時間　対象：プール



2-3：いじめ防止対策の職員研修会

目的：職員のいじめ発生時等の対応力の向上

内容：「花の木小さいじめ防止基本方針」をもとにした研
修

実施者：教職員　主な対象者：児童

頻度：年に1回　対象：校舎内外



2-4：通学班長副班長会議

目的：通学班での安心・安全な登下校ができるための会議

内容：登校指導記録をもとにした、良い班の紹介や今月の重点目標の紹介、通学班旗、笛の指導

実施者：教職員 主な対象者：児童（通学班長・副班長）

頻度：月に1回 対象：地域や学区内



2-5：校内授業研究【1-4の再掲】

目的：児童の危険を回避する能力の育成

内容：安全に関する効果的な授業の検証

実施者：教職員、児童

主な対象者：児童

頻度：学期に1回



2-6：ISSストリート

目的：ISSに関する活動の振り返りを図る。

内容：認証への取組の紹介、各委員会から全校への発信。

実施者：児童、教職員

主な対象者：児童 頻度：月1回

対象：校舎内外



2-7：研究仮説と目指す児童像の検討

目的：安全に関する指導に役立てる。

内容：安心・安全に視点をおいた教育環境づくりを進めるうえでのカリキュラムの立案や、目指す児童の姿について全教員で検討する。

実施者：教職員 主な対象者：児童

頻度：年に1回



3 良好な関係づくり

3-1：いじめ防止対策の職員研修会【2-3の再掲】

目的：職員のいじめ発生時等の対応力の向上

内容：「花の木小さいじめ防止基本方針」「家庭用いじめ発見チェックシート」をもとにした研修

実施者：教職員 主な対象者：児童

頻度：年に1回 対象：校舎内外



3-2 : ISS集会

目的：安心安全な学校づくりに向けて取り組む態度の育成

内容：安心安全な学校づくりについて ISS 委員会を中心とした各委員会の取組を発信しよびかける。

実施者：児童、教職員 主な対象者：児童

頻度：月に1回



3-3 : 悩みアンケートの実施

目的：「いじめ」の早期発見、早期対応

内容：学期に一度児童を対象にしたアンケートを実施

実施者：教職員 主な対象者：児童

頻度：毎学期1回

いじめについてのアンケート (5・6年生)

() 年 () 組 名前 ()

このアンケートは、みなさんが安心して学校生活を送れるようにするためにもので、学期の学校生活について、あてはまるものに○をつけてください。

おしゃべりしたり、仲間はずれにされたことがありますか。
ある ● ない

やかしゃからかい、悪口やいやな言葉を言われたことがありますか。
ある ● ない

自分の持ち物をかくされたり、勝手に使われたりしたことがありますか。
ある ● ない

3-4 : 異年齢集団（縦割り班）活動

目的：異年齢集団での遊び等の活動を通して、高学年のリーダー性、他者への思いやりの心を育む

内容：色別抽選会による縦割り班の編制、班の木の選定、縦割り班での遊び 実施者：児童、教職員

主な対象者：児童 頻度：毎月1回



3-5 : 全校縦割り遠足

目的：異年齢集団で話し合い、工夫・協力して、自分たちの遠足を作り上げることにより、高学年のリーダー性、他者への思いやりの心を育む

内容：縦割り班によるコースや遊びの選定及び実施

実施者：児童、教職員、PTA

主な対象者：児童 頻度：年1回（5月）



3-6 : 花小サポートーズとの縦割り班除草作業

目的：異年齢集団や学校応援団と協力し、校地内の除草作業やごみひろいを通して、勤労の大切さや関わりの大切さ、地域や愛校心を養う。

内容：縦割り班による校地内の除草作業、ごみ拾い

実施者：児童、教職員、花小サポートーズ、PTA

主な対象者：児童 頻度：月2回（5月～9月）



4 環境改善

4-1：校内安全点検

目的：校内の危険箇所の早期発見、環境の改善

内容：毎月、校内施設の全ての安全点検を行う

実施者：教職員

主な対象者：児童、教員、保護者

頻度：毎月1回及び臨時点検 対象：校舎内、校庭



4-2：校庭の窪みの改修

目的：保健委員会が発見したけがの起こりやすいスロープを平らに改善する。

内容：けがの起こりやすいスロープを改善する。

実施者：教職員、業者

主な対象者：児童、教員、保護者

頻度：その都度 対象：校庭



4-3：校庭の樹木剪定

目的：校内の危険環境の改善

内容：折れた枝の除去

実施者：教職員、花小サポートーズ、業者

主な対象者：児童、教員

頻度：通年 対象：敷地内



4-4：玄関前階段

目的：校内の危険箇所（凍結箇所）の改善。

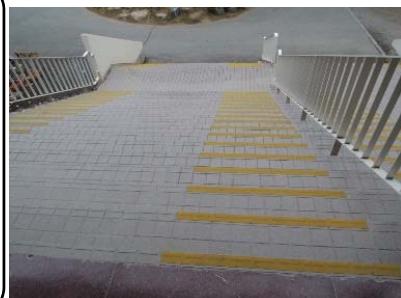
内容：滑り止めの設置、色の塗装、看板の設置、

降雪時ブルーシートを敷く。冬季の水拭き中止

実施者：教職員

主な対象者：教職員、保護者、児童

頻度：その都度 対象：校舎玄関前



5 交通安全意識の向上

5-1：交通安全教室の実施

目的：交通ルールやマナーの理解と安全な歩行を身に付ける。

内容：横断歩道の渡り方に関する交通安全教室の実施

実施者：秩父市市民生活課

主な対象者：1、2年生児童 対象：通学路、学区域



5－2：自転車安全教室の実施

目的：自転車の正しい乗り方や、自転車の点検の仕方を学ぶ。

内容：簡易信号設置の自転車安全教室の実施

実施者：秩父市市民生活課 頻度：年1回

主な対象者：3、4、5年生児童 対象：通学路学区域



5－3：通学班長副班長会議【2-4の再掲】

目的：通学班での安心・安全な登下校ができるための会議

内容：登校指導記録をもとにした、良い班の紹介や今月の重点目標の紹介、安全な登下校の仕方

実施者：教職員 主な対象者：児童（通学班長・副班長）

頻度：月に1回 対象：地域や学区内



5－4：一斉下校

目的：安心・安全な通学班での登下校ができるための下校指導

内容：登校指導記録をもとにした、良い班の紹介や今月の重点目標の伝達、安全な登下校の仕方

実施者：教職員 主な対象者：児童

頻度：月に1回 対象：地域や学区内



5－5：新一年生の集団下校

目的：通学路を覚え、交通ルールを守って安全に下校する。

内容：帰宅方面ごとに分かれ、保護者、交通指導員、教員がつきそって下校する。

実施者：教職員、保護者 主な対象者：児童（1年）

頻度：毎日（強化月間は4月） 対象：地域や学区内



5－6：登校指導日

目的：安心・安全な通学班での登下校ができるための立哨指導。

内容：登校指導計画に基づき、各場所へ立ち、交通ルールの指導を行う。良い班や課題点を報告

実施者：教職員、保護者 主な対象者：児童

頻度：月に1回（4月は2回） 対象：地域や学区内



指標4 ハイリスクグループ・環境を対象としたプログラム

地震が多いという日本特有の環境、近年の極端な気象状況に対応するための防災、また突然の不審者の侵入や登下校中の不審者による声がけやつきまといといった事案の発生も懸念されます。また、低学年は行動範囲が広がる一方で、交通ルールの理解や交通状況の判断が未熟なため、交通事故を防ぐ更なる手立てを必要とします。

さらに、本校には特別支援学級が2クラス設置されていますが、特別支援学級の児童には、障害により引き起こされるパニック等が想定されます。また、日常生活における安全の確保についても特別な配慮が必要な場合もあります。このようなことからハイリスクグループとして捉え、その対象プログラムに取り組んでいます。

1 大規模地震に備えた対応

(1) 校舎の安全対策

2010～2011年に耐震補強工事を行っています。

揺れに強い耐震の工夫や飛散の少ないガラスを取り入れるなど、地震の被害を最小限にする処置をとっています。

6-1：大地震に備えた校舎の安全対策

目的：地震被害を最小限にする処置を行う。

内容：2010～2011年に耐震補強工事を行う。

全教室の窓ガラスには、飛散防止ガラスを入れたり転倒防止のための金具を設置したりする等、地震の被害を最小限にする処置をとっている。

実施者：秩父市 主な対象者：児童、教員、保護者

頻度：通年 環境：校舎、体育館



(2) 避難訓練

地震・火災に対する基本的な対処の仕方と心構え、避難方法及び経路の理解と実際行動できることを目的に避難訓練を実施しております。

6-2：防災避難訓練の実施

目的：地震や火災発生時の安全確保を図る。 内容：「緊急地震速報」の音声を活用して、大地震による避難訓練を行う。また、停電を予想して、誘導等の放送は、非常用放送設備を使っての訓練を行っている。各教室にメガホンを常備し、速やかに伝達・誘導できるようにする。

実施者：教職員 主な対象者：児童、PTA

頻度：学期に1回 対象：校内、校庭



6-3：引き渡し訓練

目的：大地震等が発生した際、児童を安全に保護者へ引き渡すための訓練

内容：大地震が発生したことを想定し、スムーズに児童を保護者へ引き渡すための訓練を行う。

実施者：教職員、児童、保護者

主な対象者：児童、保護者 頻度：年に1回



2 低学年への対応

低学年は、他の学年と同様に通学班で集団登校をしています。しかし、下校は他の学年の下校時間とは異なるため、帰宅方面ごとにコースに分かれ集団で下校します。なお、新1年生については、新学期が始まり約1ヵ月間は、保護者が当番制で引率についてくれます。

6-4：集団登下校

目的：低学年児童の登下校時の安全確保

内容：高学年が通学班の班長、副班長となり、下級生の面倒を見ながら安全に登校する。

実施者：教職員、PTA

主な対象者：児童 頻度：通年 対象：通学路、学区域



6-5：縦割り班活動

目的：低学年児童の縦割り遠足時の安全確保

内容：高学年が縦割り班の班長、副班長となり、下級生の面倒を見ながら安全に公園へ連れて行く。

実施者：教職員、PTA

主な対象者：児童 頻度：年に一回 対象：学区域



6-6：下校時の見守り活動

目的：低学年児童の下校時における安全確保

内容：新年度が始まり、低学年の下校時、保護者が引率をして、安全に下校できるようにしている。また、教員、学校応援団による見回り活動を低学年の下校時間帯に合わせ実施している。

実施者：学校応援団、教職員 対象：通学路

主な対象者：児童 頻度：年度当初の4～5月の毎日



3 特別支援学級への対応

特別支援学級では、児童が障害による学習上または生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、心身の調和的発達の基盤を培うことによって自立を目指すために様々な手立てが行われています。3名の児童に対し、2名の特別支援教育担任を手厚く人員配置をしています。

また、『通級指導教室「サポートルーム』を開設し、通常の学級で学習している児童の中で、自分の気持ちをうまく伝えることやいろいろな場面で一緒に行動することが苦手な児童をサポートし、一人一人の児童の課題の改善・克服をめざし、個別の指導を行う場として設置されています。

6-7：特別支援学級の設置

目的：個別のきめ細かな支援を行い、当該児童が安心・安全に学校生活を送ることができるようとする。

内容：特別支援教育担当の担任(2名)が、個別の児童（3名）への支援を行う。また、交流学級との給食や各教科等で交流を行う。

実施者：特別支援学級担任

主な対象者：特別支援学級在籍児童 頻度：通年



6-8：通級指導教室（サポートルーム）の設置

目的：自分の気持ちをうまく伝えることやいろいろな場面で一緒に行動することが苦手な児童をサポートし、一人一人の児童の課題の改善・克服をめざす。

内容：サポートルームを開設し、通級指導担当の担任が、個別の課題に対する改善・克服をめざすため個別指導を行う。

実施者：通級指導担当担任

主な対象者：通級指導対象児童 頻度：通年



6-9：ユニバーサルデザインの教室環境

目的：落ち着いた環境で授業ができるようにする。

内容：教室の前面は教育目標のみとし、すっきりとさせ、学習者の妨げにならないよう配慮する。

実施者：各学級担任 主な対象者：全児童 頻度：通年



6-10：緩衝材の追加

目的：学習活動における転倒時、頭部等の衝撃を防ぐ。

内容：通級指導教室、特別支援学級の教室に緩衝材のスポンジを貼る。また運動時ウレタンマットをしく。

実施者：通級指導担当担任、特別支援学級担任

主な対象者：通級指導対象児童、特別支援学級児童



4 不審者対応

登下校時において不審者対応をしっかりとし、児童が安心・安全に生活できるよう「子ども110番の家」や校外パトロール、防犯ブザーの携帯、下校指導等を行っています。

6-9:子ども110番の家との連携

目的：児童の安全確保、犯罪等未然防止を図る。

内容：通学路に面し「子ども110番の家」の表示を家の前の見やすいところに掲示していただき、不審者等に遭遇した時に避難をさせてもらう。通常は、学区内の商店や在宅の家に協力していただいている。

実施者：PTA、地域、教職員 主な対象者：児童



6-10:地区パトロール隊

目的：児童の安全確保、犯罪等の抑止（未然防止）

内容：保護者、地域の方々によって編成し、各町会ごとに毎日、通学路を中心に見回りを行っている。

実施者：PTA、地域、教職員 主な対象者：児童

頻度：毎日 対象：通学路、学区域



6-11:防犯ブザーの配布

目的：不審者対策、防犯意識の向上を図る。

内容：毎年新1年生に防犯ブザーを配布しカバンに装着して、いざという時に備える。音が出るか点検も行っている。

実施者：教職員 主な対象者：児童

頻度：通年 対象：通学路、学区域

目的：児童の安全確保、犯罪等の抑止（未然防止）



6-12:防犯カメラの設置

目的：不審者対策、防犯意識の向上を図る。

内容：各校門に防犯カメラを設置し、不審者の侵入がないか事務室のモニターで24時間監視している。また不審者侵入時、警告灯が点灯し緊急通報できるシステムを備えている。

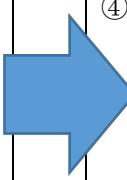
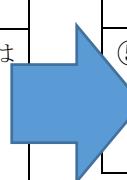
実施者：秩父市、教職員、

主な対象者：児童 頻度：通年 環境：校地内



指標5 根拠（エビデンス）に基づいた取組み

本校では、けがの発生状況等を時間・場所・メカニズム等の側面から分析し、根拠をもとにけがの予防に取り組んでいます。その結果、第4章で示した通り、本校における重点課題が明らかになりました。

ケガなどの発生状況		予防対象
校内	<ul style="list-style-type: none"> ○体育の時間のけがが学年では2年生が多いです。校庭や、体育館での跳び箱でも多いです。（図3-12） ○軽微なものを含むケガの全体像をみると、休み時間における遊具・花小タワーを含めた校庭でのケガが多いということがわかります。（図3-6、3-11） ○通院を要するケガは、休み時間に多く発生しています。（図3-18） ○通院を要するケガは休み時間に次いで体育の時間に多くなっています。（図3-18） ○休み時間中の低学年の校庭、遊具、花小タワーのケガが他の学年より多くなっています。（図3-16）（図5-4） ○本校では過去5年間、重大ないじめは発生していませんが、「悩みアンケート」によると、仲良く過ごせていない児童がいることがわかります。（図3-25、3-26） 	<ul style="list-style-type: none"> ①体育のケガ (体育館) ②休み時間のケガ (校庭) (遊具) (花小タワー) ③低学年のケガ (遊具) (花小タワー) ④友だち関係 
校外	<ul style="list-style-type: none"> ○過去5年間に発生した学区域内での本校児童の交通事故は12件で、そのうち自転車乗車中の事故で10件でした。（図3-28） ○自転車事故の主な原因は、飛び出しによるものです。（図5-16） ○自転車事故は3年生と5年生に多かったです。（図3-28） ○自転車の交通ルールを守る意識が高学年になると低くなる状況です。（図3-29、3-30、3-31、3-32） 	 <ul style="list-style-type: none"> ⑤自転車乗車中の交通事故

※児童虐待は件数がほとんどないため、重点には入れていません。

※児童が関わる犯罪も少ないですが、対策として、①完全下校時刻を16時とし、16時には全校児童が下校するようにしている。②防犯カメラを校内に設置している。③放課後は春期・夏期は夕方6時まで、秋期・冬期は夕方5時までに帰宅する。④新1年生が入学する際に防犯ブザーを全員に配布している。⑤「子ども110番の家（児童が犯罪に巻き込まれそうになったときに、逃げ込むことができる家）」への登録と協力を地域に呼びかけ、登録していただいた家には「子ども110番の家」のプレートを配布している。などを取り組んでいます。

※避難訓練、通学班一斉下校、引き渡し訓練等、防災対策については、「指標4」を参照してください。

1 課題を導く原因分析

校内におけるケガの発生状況を整理すると下記の通りになります。データからケガの発生場所や傾向が明らかになりました。

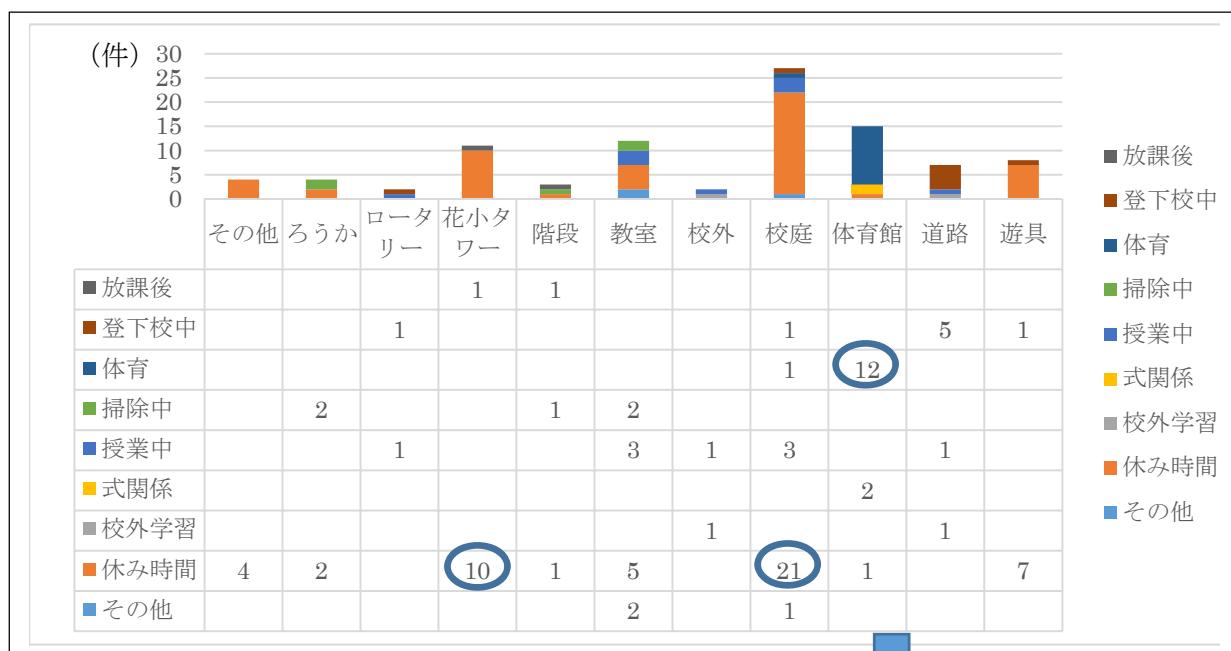
(1) 校内における受傷の状況

	根拠データ	分析	重点課題
軽 微 な も の を 含 む ケ ガ	図表 3－1 1	休み時間の遊具、花小タワーを含めた校庭でのケガが多く発生しています。	①休み時間のケガは、校庭での転倒による低学年のすりきずが多くなっています。 ②花小タワーでの通院を要するケガは、大きなケガとなることが多いです。 ③校庭でのサッカーでの通院を要するケガも、大きなケガとなることが多いです。
	図表 3－1 2	2年生体育時における体育館・校庭でのケガが多く見られます。 →体育館での跳び箱の授業が多く、校庭でもよく運動していたため、ケガが多くなったと考えられます。	
	図表 3－1 4	低学年のケガが多く、高学年になるにつれて、少なくなっています。	
通 院 を 要 す る ケ ガ	図表 3－2 3 →図表 5－1 →図表 5－2	●1年間を通し、花小タワー、遊具を含めた校庭でのケガが休み時間に多く発生しています。 ●花小タワーでのケガは重症の傾向があります。 花小タワー、校庭共に、通院を要するケガは骨折が多くなっています。	

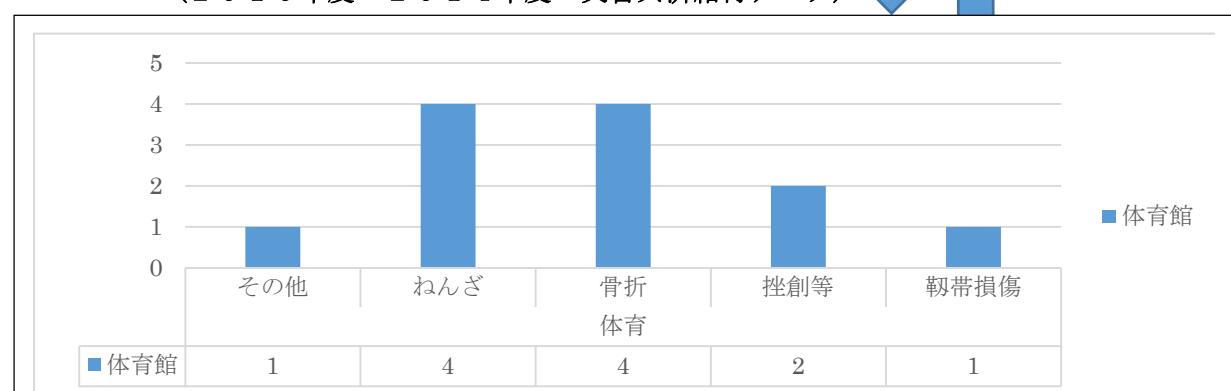
校内のケガを軽傷なものも含み、その発生状況をみると、もっとも受傷が多い場所は「校庭」です。続いて多いのは「教室」です。また、発生時間帯をみると、体育館、特別教室を除き、どの場所でも「休み時間」のケガが多くなっています。次に多いのが、「体育」の時間でのケガとなっています。

さらに、通院を要するケガについて詳しくみると、校庭に加え、体育館、教室、花小タワーのケガがみられます。時間帯としては、「休み時間」に多く発生しています。「体育館」でのケガは「体育」の時間に多く発生しています。

図表3-22（再掲） 通院を要するケガが発生している時間帯と場所
(2010年度～2014年度 災害共済給付データ)

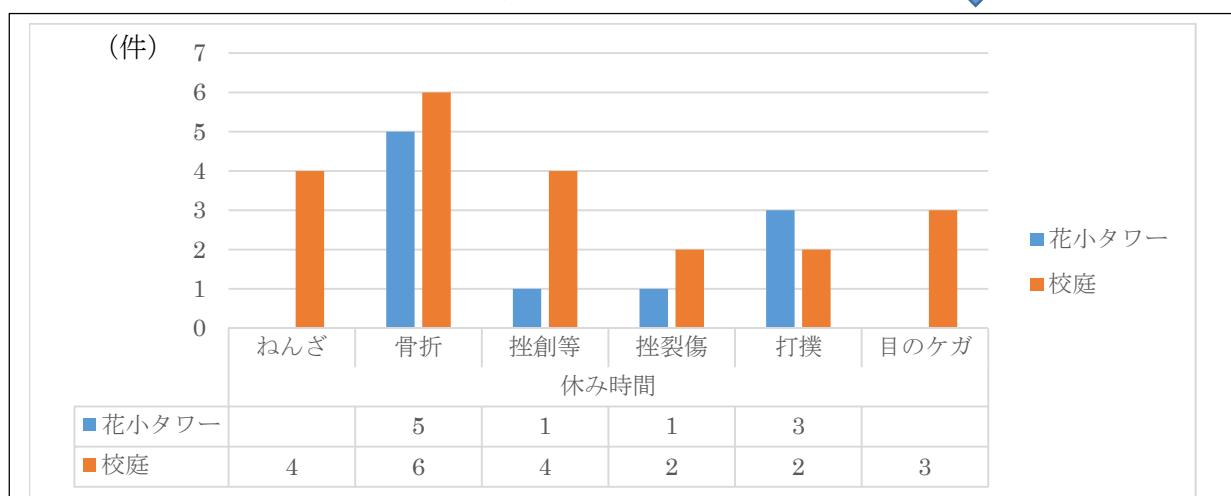


図表5-1 通院を要する体育の時間での体育館でのケガの種類
(2010年度～2014年度 災害共済給付データ)



骨折やねんざが多くなっています。

図表5-2 通院を要する休み時間での花小タワーと校庭でのケガの種類
(2010年度～2014年度 災害共済給付データ)

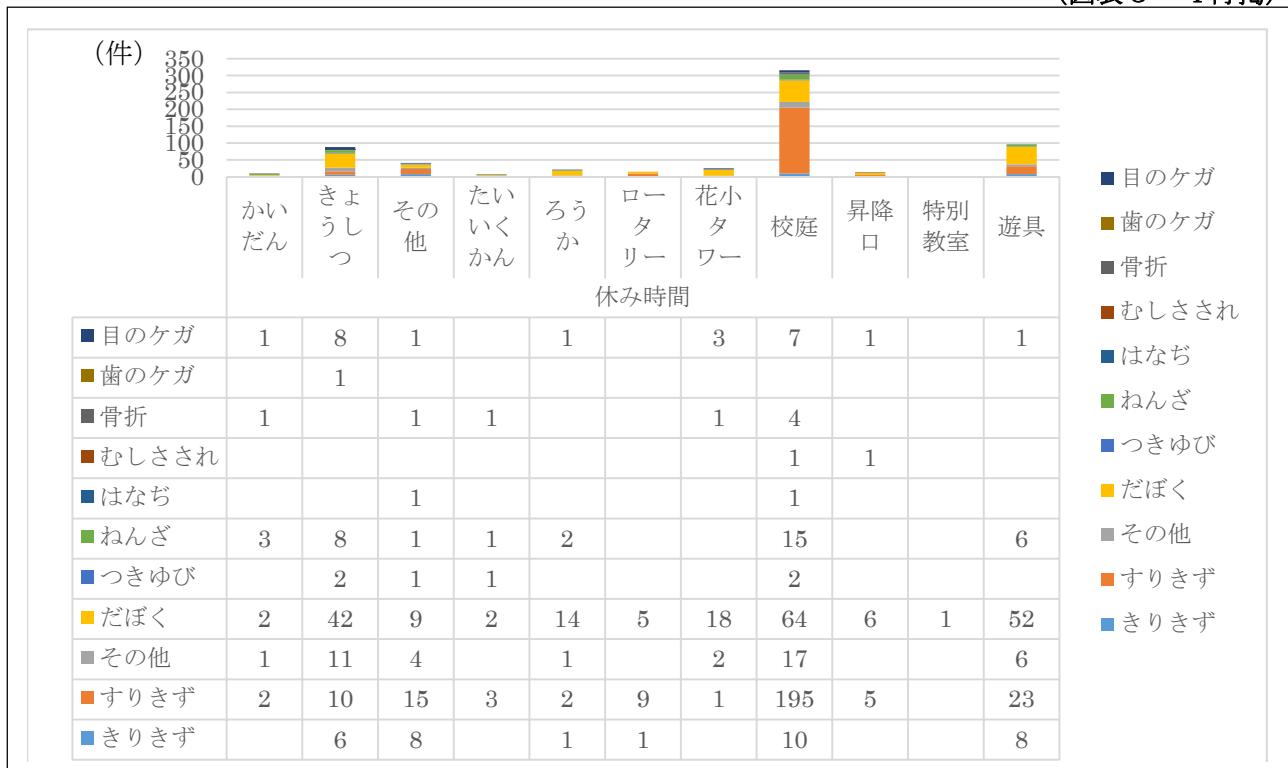


(1) 休み時間のケガの状況

校庭のケガが多く、その中でもすりきずが多くなっています。すりきずの原因是、おにごっこ等の走っていて転倒によるものが多かったです。

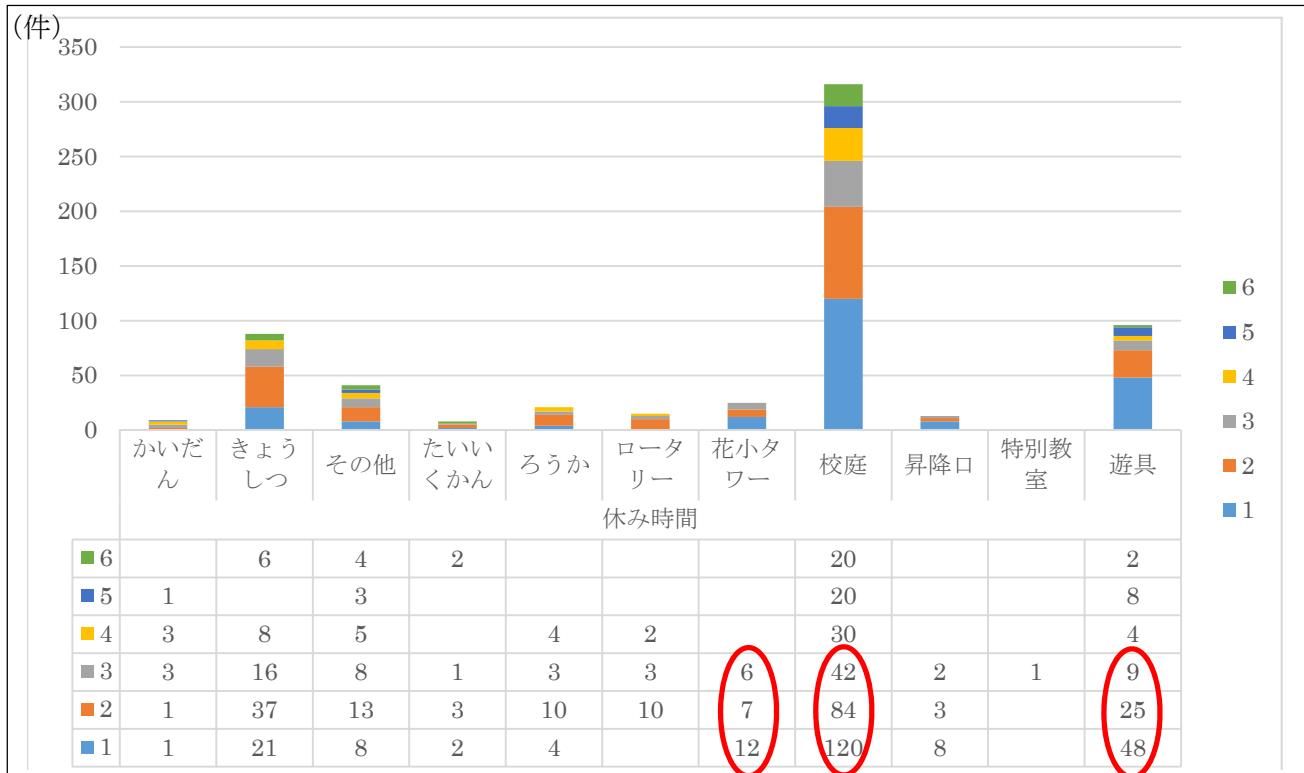
図表5-3 休み時間における軽微なものを含むケガの発生場所と症状(2014年度 保健室データ)

(図表3-4再掲)



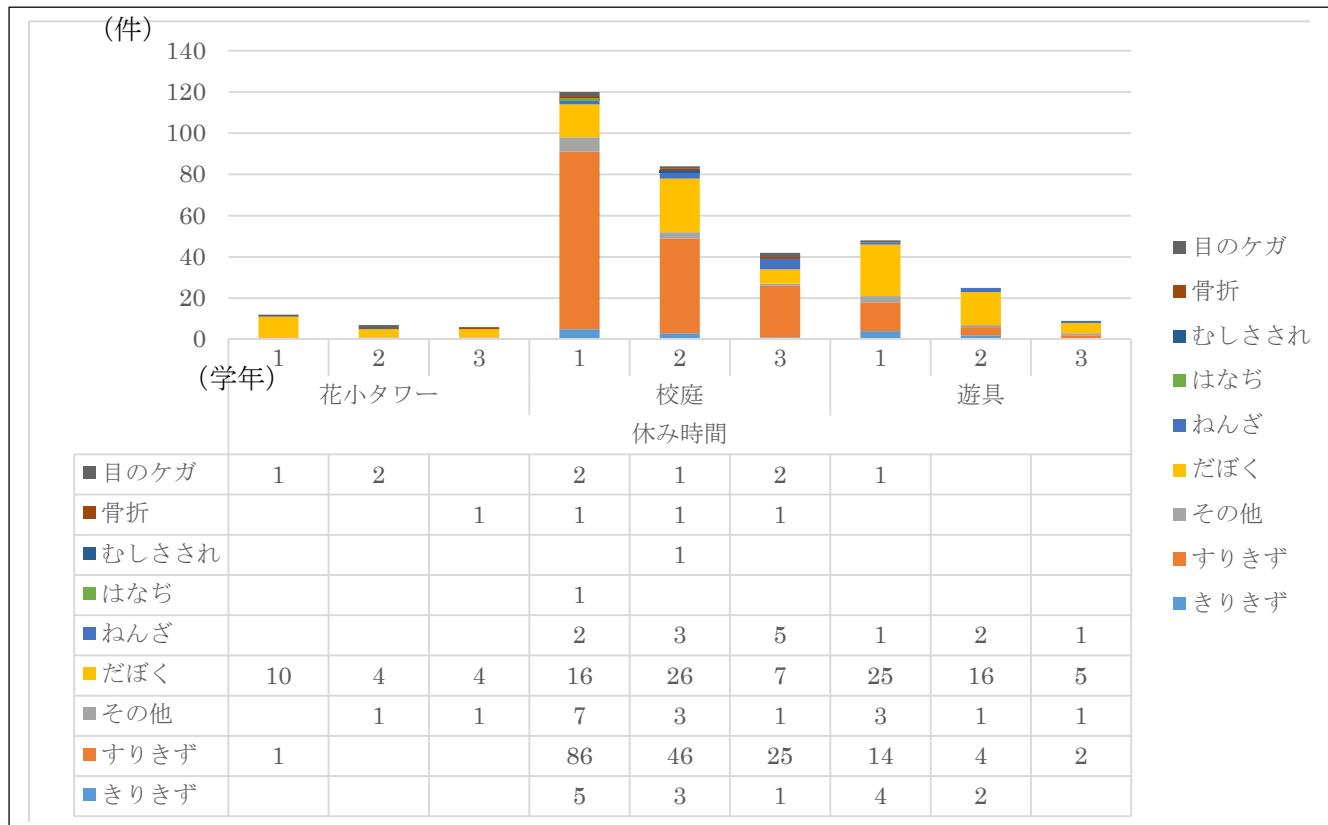
学年と場所のケガの発生状況をみると、校庭、遊具、花小タワーとも、低学年が多くなっています。

図表5-4 休み時間における軽微なものを含むケガの発生場所と学年(2014年度 保健室データ)



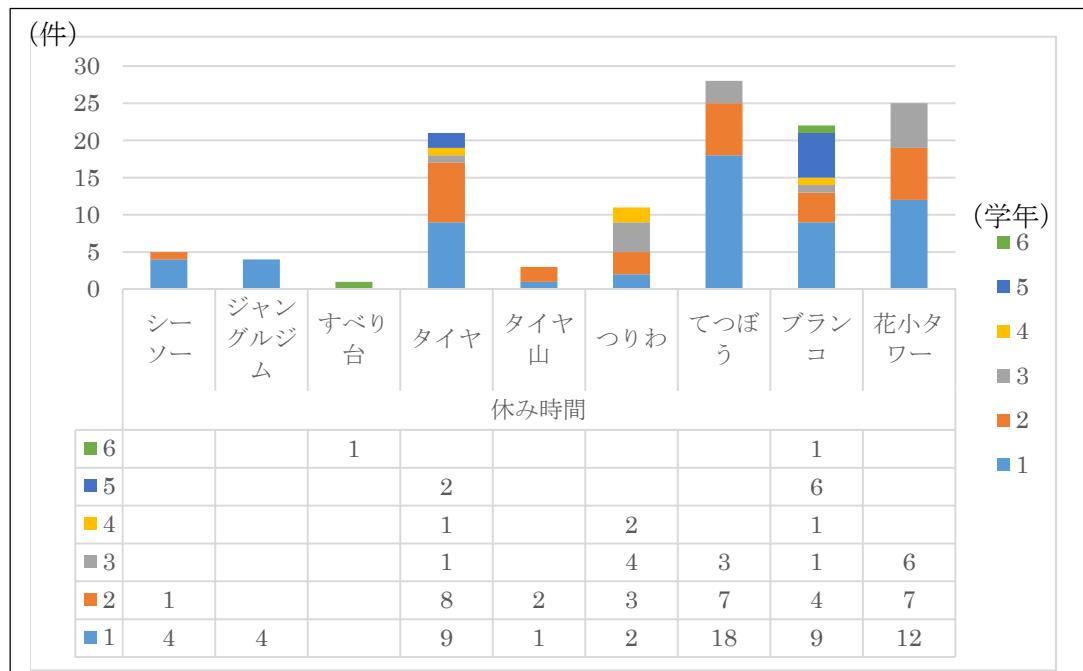
校庭はすりきずが一番多く、次いで打撲となっています。遊具は打撲が一番多く、次いですりきずとなっています。花小タワーは、打撲が一番多くなっています。骨折も1件ありました。落下が原因のケガが大きなケガとなることが多いです。

図表5－5 休み時間における1、2、3年生の校庭、遊具、花小タワーで起きた軽微なものを含むケガの症状(2014年度 保健室データ)



遊具の種類と学年をみると、鉄棒、ブランコ、花小タワー、タイヤが多く、どの遊具も低学年のケガが多くなっています。

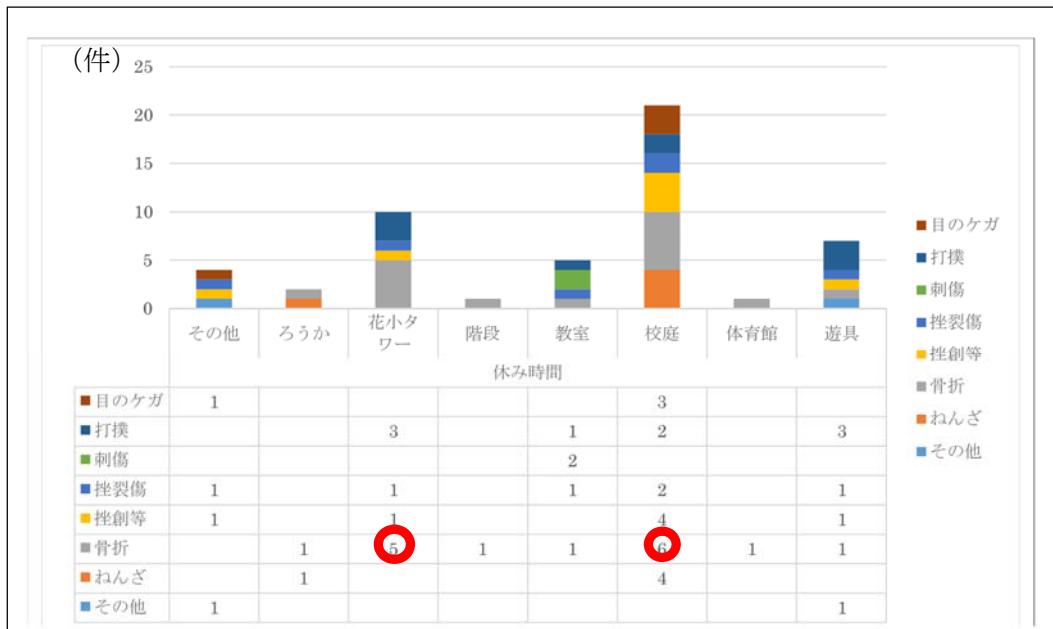
図表5－6 遊具の種類と学年のケガの状況 (2014年度 保健室データ)



さらに通院を要するケガについて詳しくみると、骨折については、校庭と花小タワーが多くなっています。花小タワーの骨折は、1件が救急車の要請となっています。ケガの理由は花小タワーからの落下が主な原因です。また、校庭での挫傷等のケガは段差や石につまずいて転倒してのケガが多かったです。

図表5-7 休み時間における通院をするケガの発生場所と症状

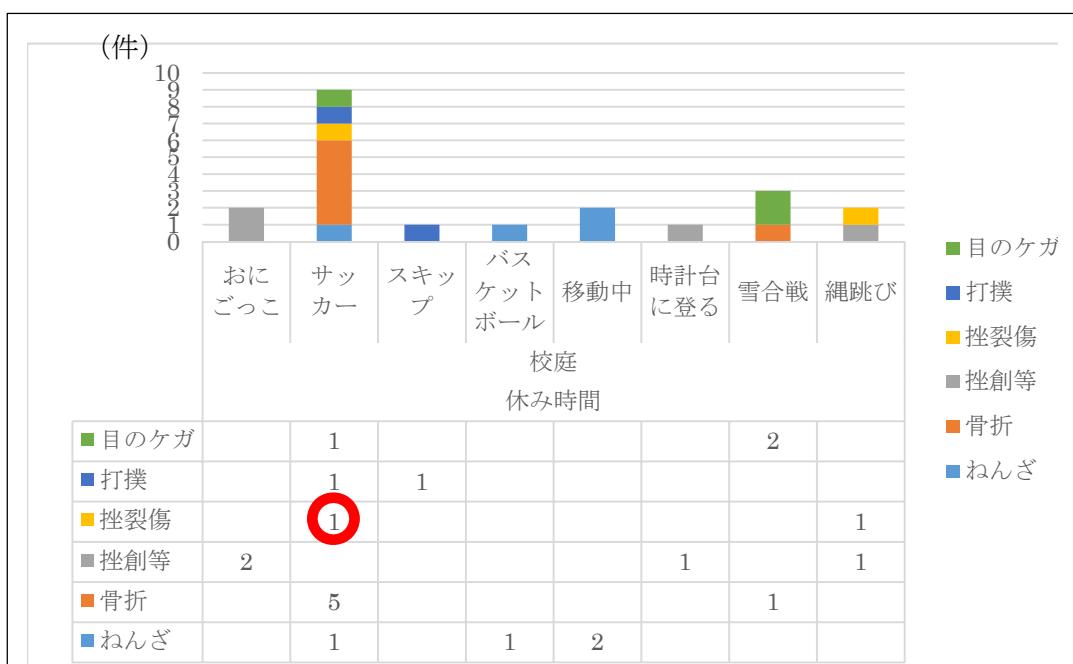
(2010年度～2014年度 災害共済給付データ)



さらに通院を要するケガを詳しくみると、サッカーをしていてのケガが一番多く、ケガの症状も骨折5件と大きなケガになっています。

図表5-8 休み時間の校庭での通院をするケガの原因と症状

(2010年度～2014年度 災害共済給付データ)



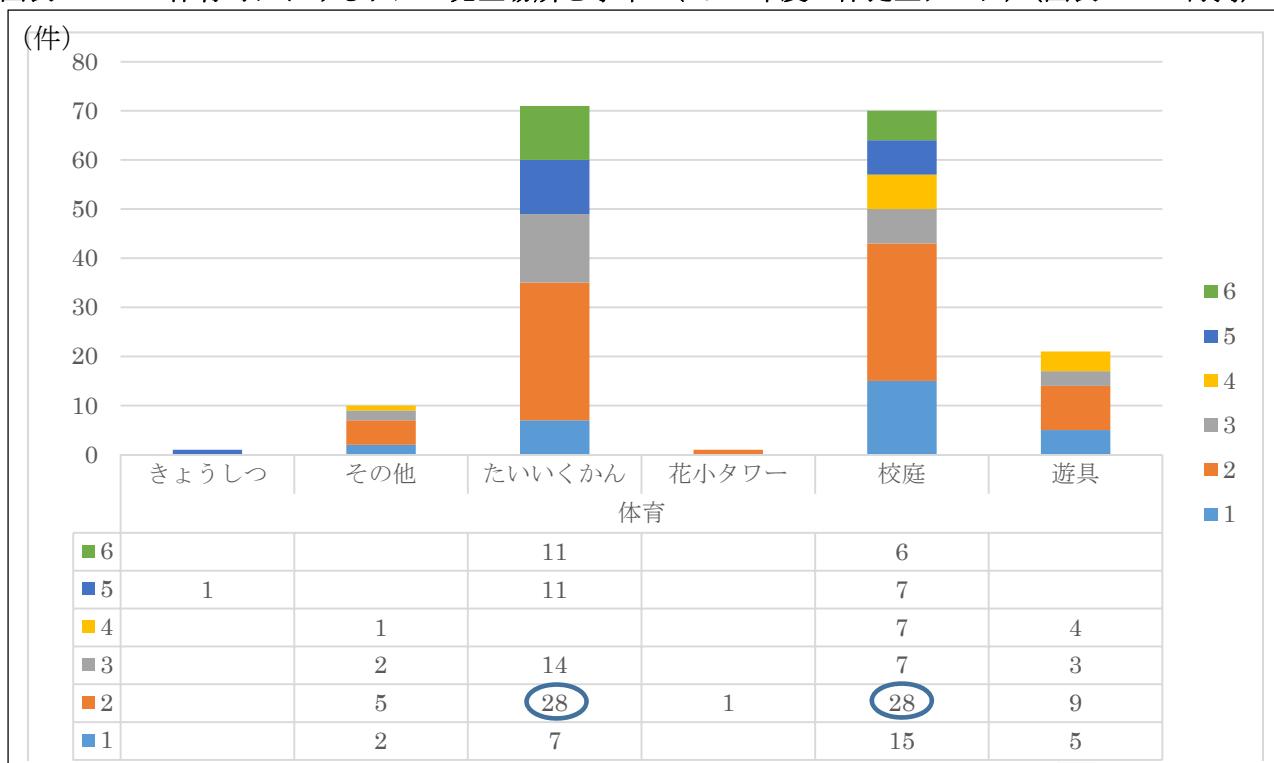
〈まとめ〉

- ①休み時間のケガは、校庭での転倒による低学年のすりきずが多くなっています。(図5-4・5)
- ②花小タワーでの通院をするケガは、大きなケガとなることが多いです。(図5-7)
- ③校庭でのサッカーでの通院をするケガも、大きなケガとなることが多いです。(図5-8)

① 体育時におけるケガの状況

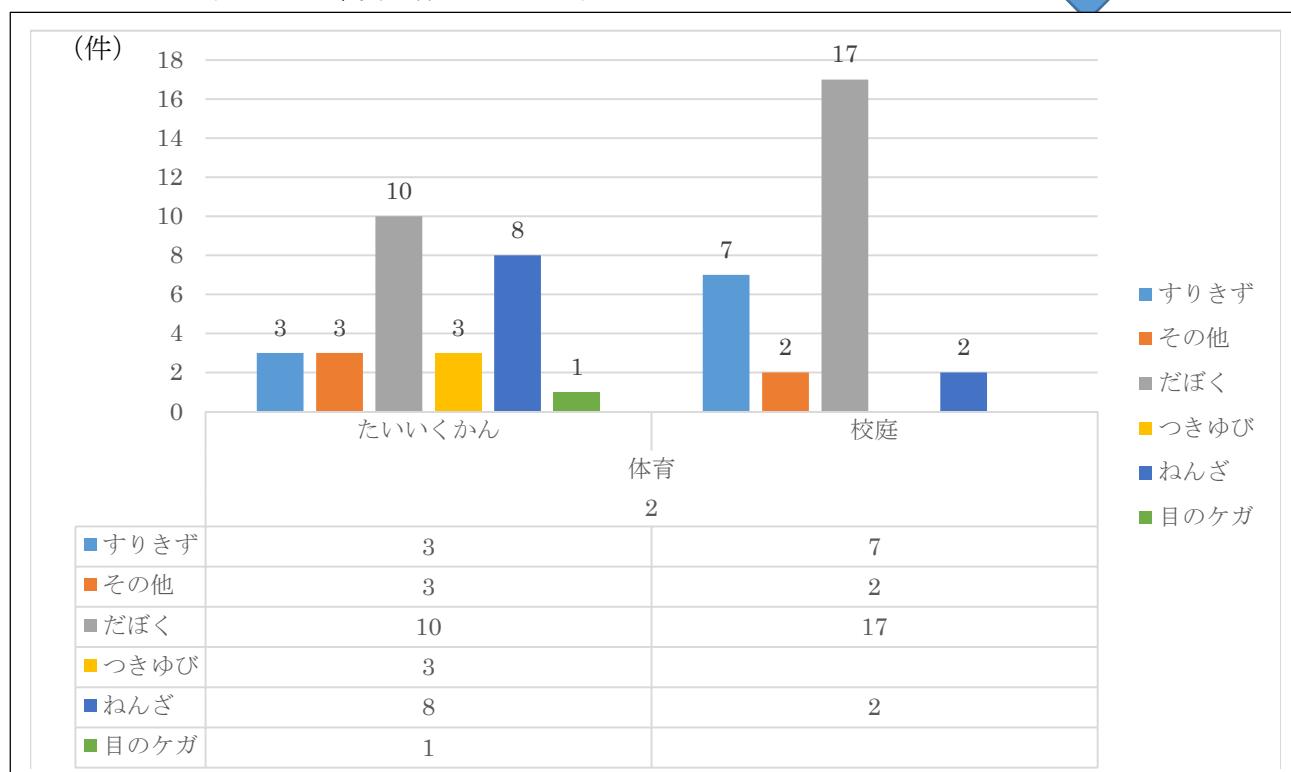
休み時間に続いて多いのが体育の時間のケガです。ケガの発生場所と学年をみると、体育館、校庭、遊具とも低学年が多くなっています。5、6年生のケガは体育館が多くなっています。

図表5－9 体育時におけるケガの発生場所と学年（2014年度 保健室データ）（図表3－5再掲）



児童数の割合で見ても、2年生のケガが多い傾向になっています。

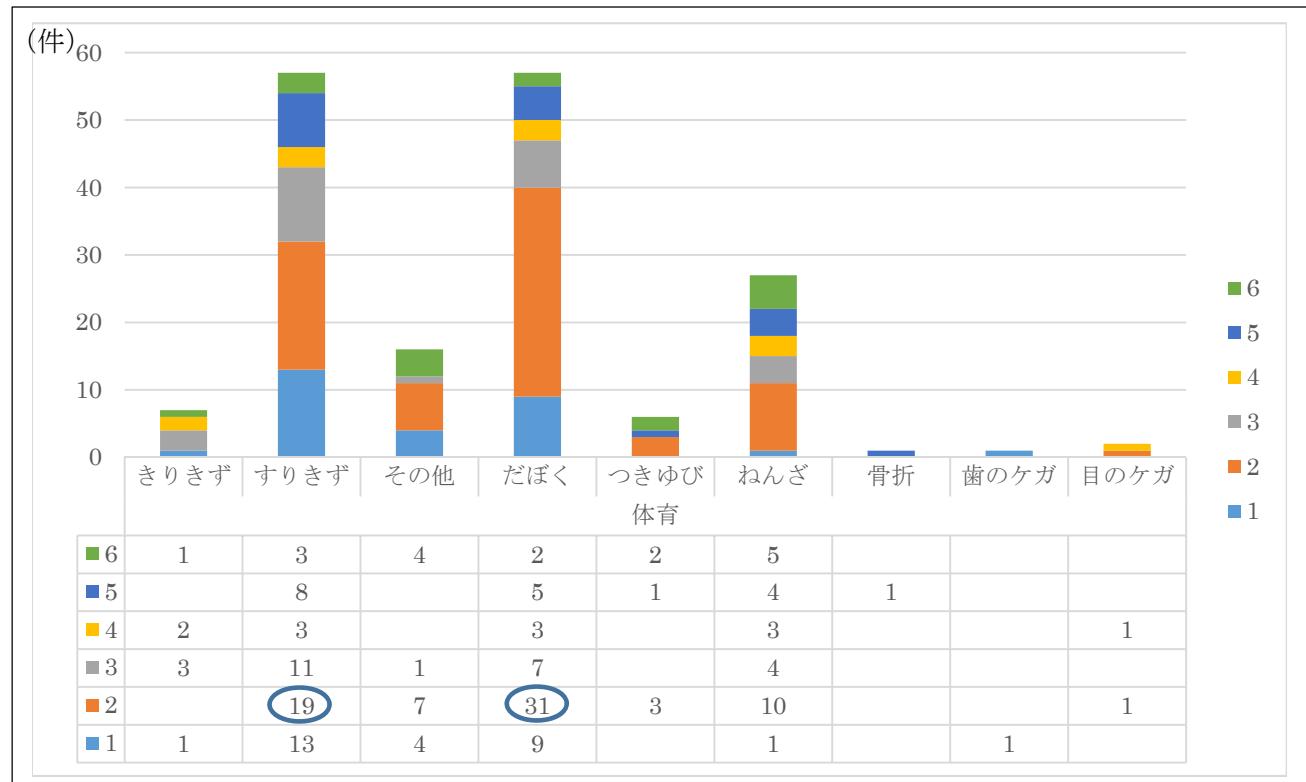
図表5－10 2年生の体育時における体育館と校庭におけるケガの種類
(2014年度 保健室データ)



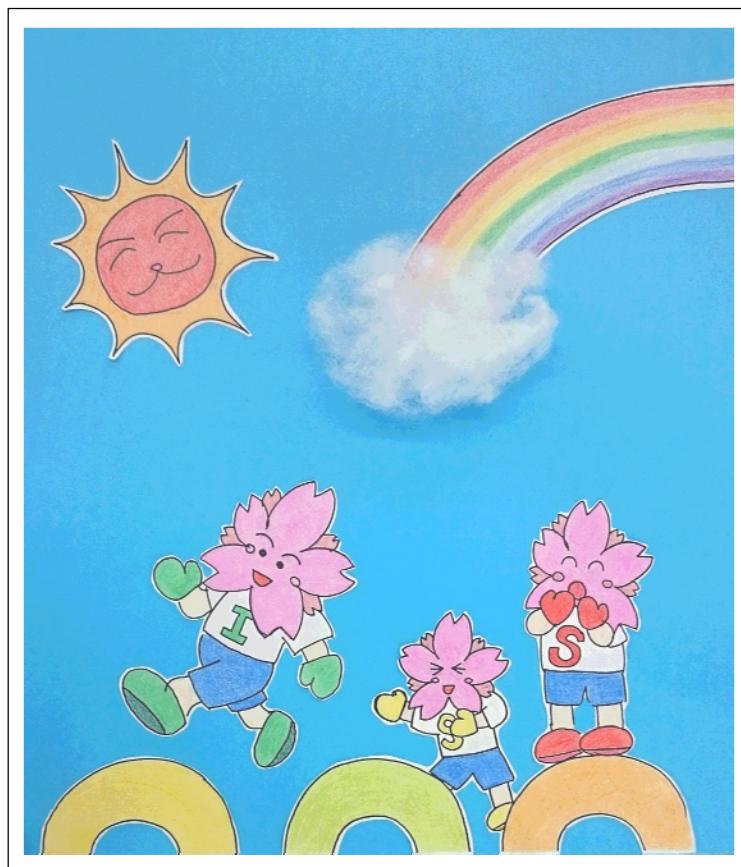
接触によるだぼくが、体育館でも校庭でも多くなっています。

学年とケガの症状をみると、低学年では、すりきずと打撲が多くなっています。すりきずは走っている転倒が多く、打撲は遊具とボール運動が多くなっています。

図表5－11 体育時におけるケガの症状と学年（2014年度 保健室データ）



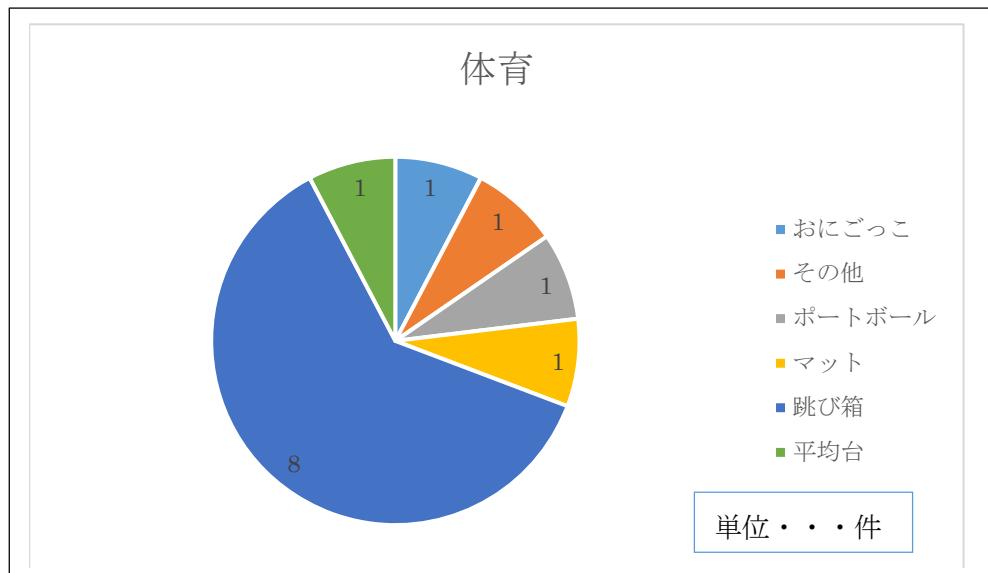
2年生のすりきずとだぼくが多くなっています。



タイヤの上を跳んで遊ぶ「はなのっきー」

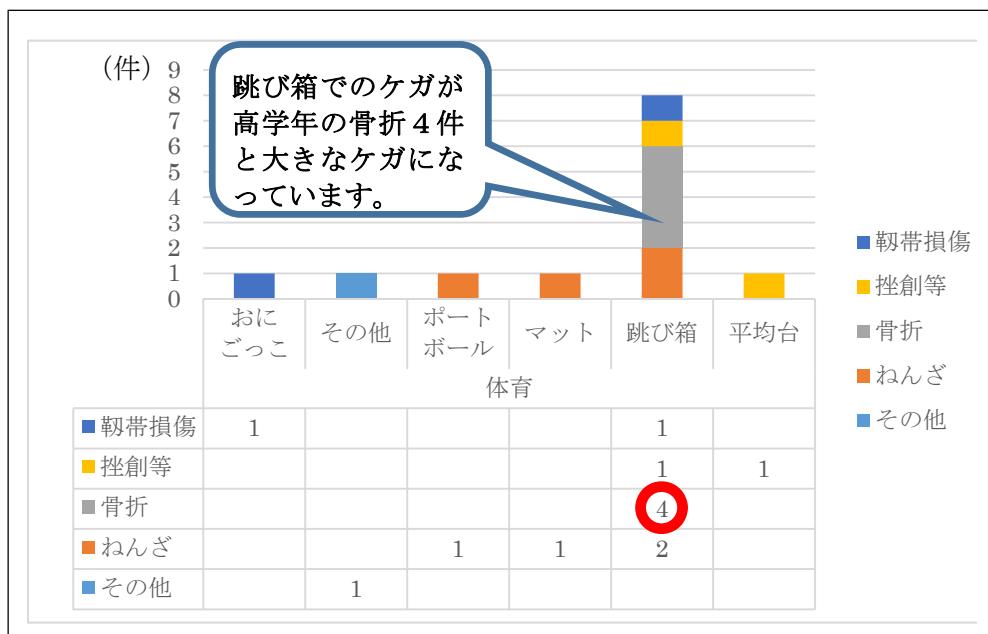
さらに、通院を要するケガを詳しくみると、体育館での体育のケガは、跳び箱でのケガが多く発生していることがわかります。

図表5－12 体育時における通院を要するケガの発生原因
(2010年度～2014年度 災害共済給付データ)



さらに通院を要する体育のケガの症状を詳しくみると、跳び箱でのケガが大きなケガになっていることがわかります。

図表5－13 体育時における通院を要するケガの発生原因と症状
(2010年度～2014年度 災害共済給付データ)



〈まとめ〉

①授業中のケガでは、体育の授業中が最も多いです。(図5－9)

②軽微なケガについては、校庭での低学年の走っていての転倒によるすりきずが一番多いです。

(図5－11)

③通院を要するケガについては、跳び箱での高学年のケガが大きなケガになっています。

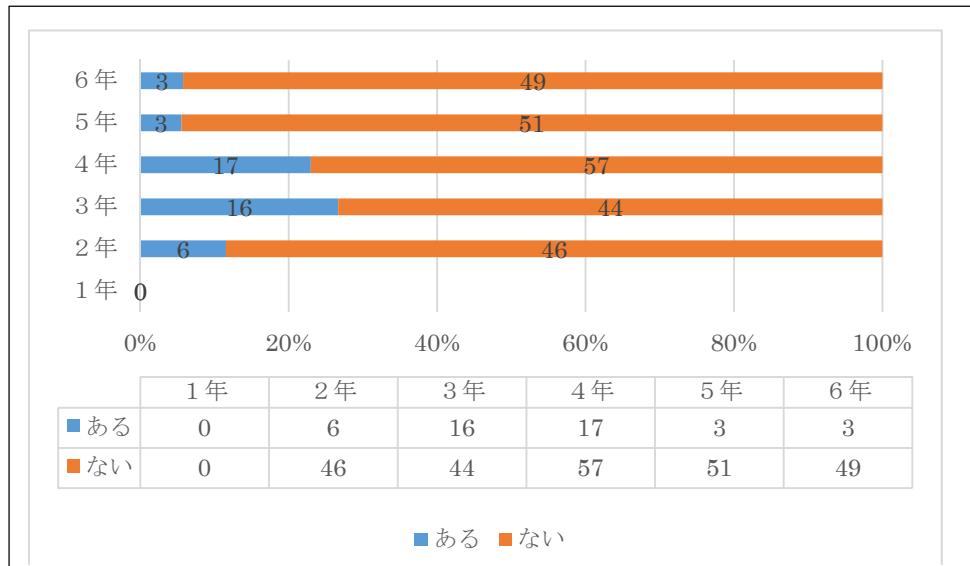
(図5－13)

② 思いやりのある人間関係

前述したように、本校では生死に関わるようないじめは過去5年間発生していません。以下の2015年度1学期のアンケート結果を、2014年度のアンケート結果と比較すると、無視されたり、仲間外れにされたりした児童や、ひやかしなどを言われた児童は減少してきているものの、まだ、無視、仲間外れ、ひやかしなどを経験した児童が少なからずいるということから、本校においても、いつ深刻ないじめが発生するとも限りません。悩みアンケートの結果から、次のような特徴がみえてきました。

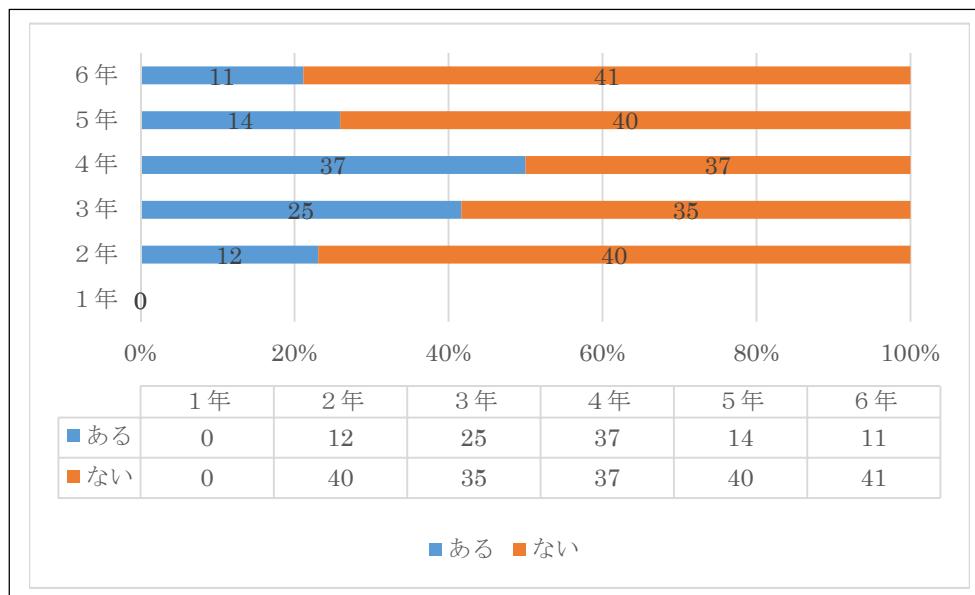
図表5－14 無視されたり、仲間はずれにされたりしたことがありますか。

(2015年度1学期悩みアンケート集計より)



図表5－15 ひやかしやからかい、悪口やいやな言葉を言わされたことがありますか。

(2015年度1学期悩みアンケート集計より)



〈まとめ〉

以上のことから良好な人間関係については、次のことが明らかになりました。

- ①友だちと良好な人間関係が持てない児童がいます。(図5－14)
- ②友だちと仲良く過ごせない児童が低・中学年に多いです。(図5－14)
- ③悪口やいやな言葉を言わされたことがある児童が低・中学年に多いです。(図5－15)

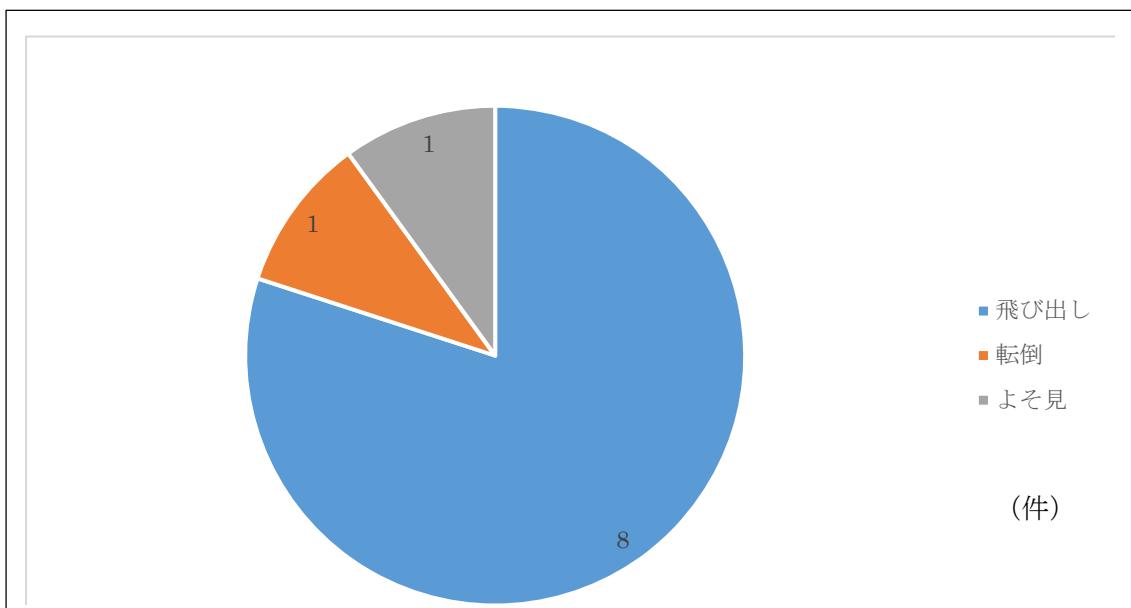
2 校外における受傷の状況

① 自転車での交通事故

過去5年間に発生した学区内における花の木小学校の児童の交通事故は12件で、そのうち自転車乗車中の児童の事故は10件でした。

	根拠データ	分析	重点課題
交通事故	図表3-28	本校の場合は、3年生と5年生の事故が多くなっています。	
自転車事故	図表3-31	高学年になるにつれて、「ほとんど止まらない」「たまに止まらない」の児童が増えています。	自転車を乗り始める3年生と、学区だけでなく、近隣の学区も自転車で移動できるようになる5年生に自転車事故が多くなっていることがわかります。

図表5-16 自転車事故の原因（2014年度 本校のデータより）



自転車事故の原因是、飛び出しが8割を占めています。

〈まとめ〉

以上のことからその他の状況のケガ（自転車）については、次のことが明らかになりました。

①本校の自転車事故では乗り始めの3年生と、乗る範囲が広くなる5年生の事故が多いです。

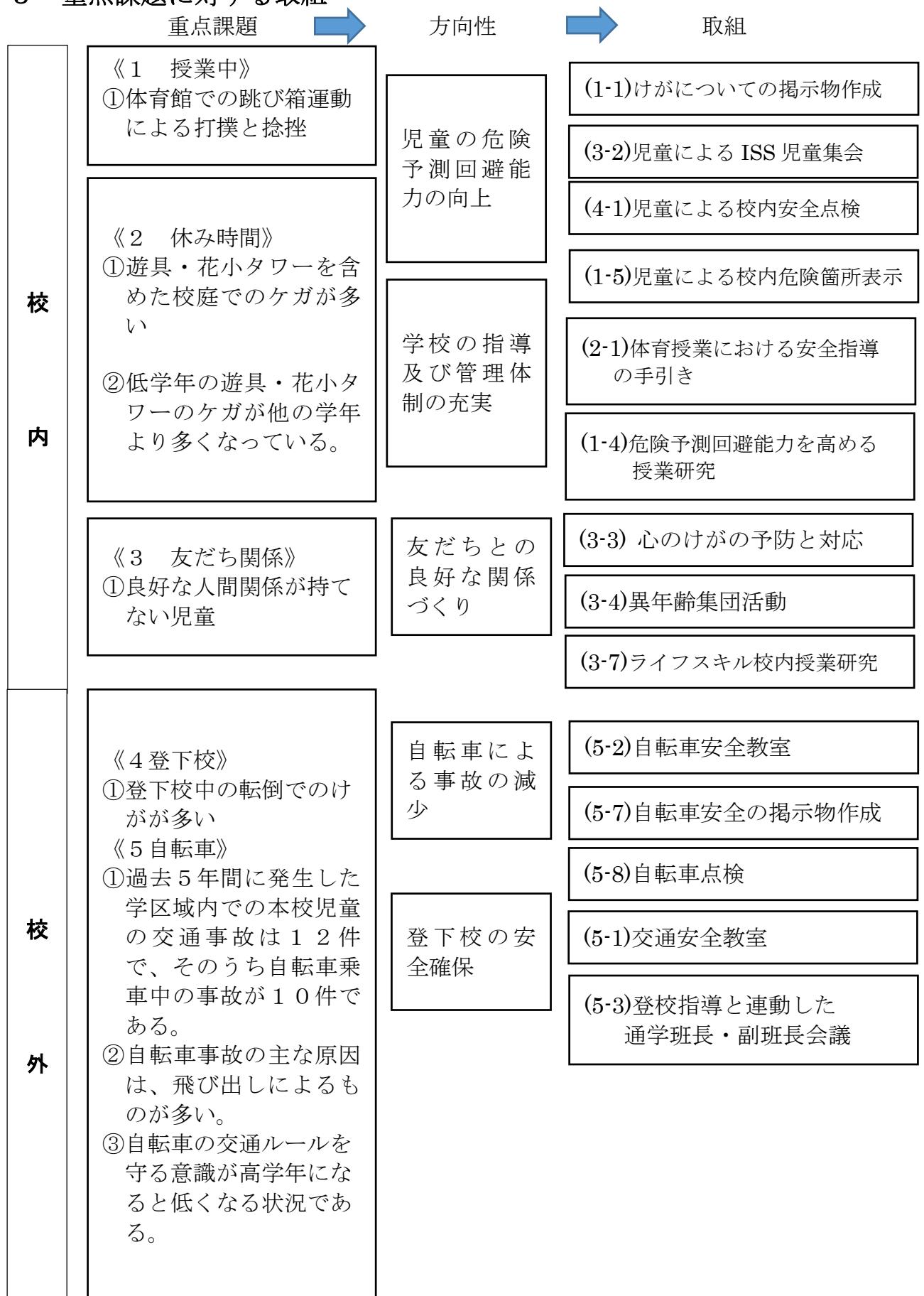
（図3-28）

②自転車事故は、飛び出しによる事故が8割を占めています。（図5-16）

③自転車の交通ルールをよく守る割合が、学年があがるにつれて低くなっている傾向があります。

（図3-31）

3 重点課題に対する取組



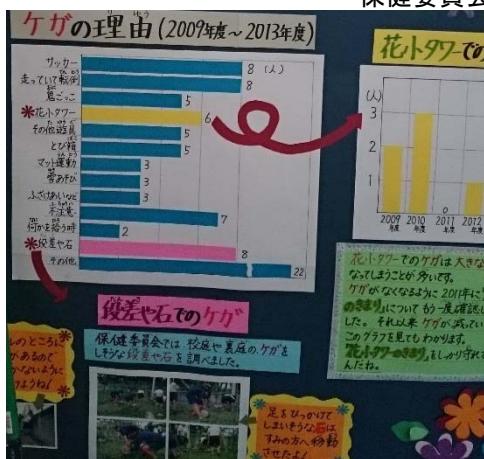
(1) 校内でのけがの予防

1) 児童の危険予測回避能力の向上

1-1 校内の掲示物についての作成 → 《課題：1, 2》

保健委員会の児童が作成し掲示することで、「休み時間のけが」「校庭でのけが」の予防に役立てています。9委員会の中で保健委員会の児童が、「けがの様子」としてまとめたものを掲示しています。この掲示物は、保健室のデータをもとに、保健委員会の児童が作成し全校児童に事故予防として広めています。

保健委員会児童によるけが調べと、呼びかけ



3-2 児童によるISS児童集会 → 《課題：1, 2, 3, 4》

毎月1回、各委員会が中心となって全校児童を対象にISS集会を行っています。けがの発生数やその原因、予防についても呼びかけを行っています。



運動委員会では、花小タワーの正しい使い方を確認しました。

「次の動きを見てみましょう」の委員会児童の指示のもと、○×形式を取り入れ、みんなで考えました。正しい遊び方を全校で確認しました。



集会委員会では、「交通事故が発生する時間帯は、午前8時～10時である。○か×か」

「雨の日は、傘をさして自転車に乗ってよい。
○か×か」

など、登下校や自転車に乗りの安全について
クイズを通して、気づかせていました。

4-1 児童による校内安全点検 → 《課題：1, 2 (①②)》

ISS 委員会や保健委員会が中心となって校庭や校舎内の危険箇所について調査し、ISS 集会で発表したり、各クラスへ呼びかけたりしています。



1-5 児童に危険箇所表示 → 《課題：1, 2 (①②)》

校庭や校舎内の危険箇所について調査したことをもとに、ISS 委員会や保健委員会では、ケガが起こりやすい箇所の注意喚起表示を行いました。



2) 学校の指導及び管理体制の充実

2-1 体育授業における安全指導の手引き

《課題：1》

2014年度での体育授業による通院を要するケガは、跳び箱でのケガが8件と多くを占めています。

このことに着目して事故を検証し、体育授業の教師用安全指導の手引きを専門部の環境整備部（教員）が作成しました。



1-4 校内授業研究（2年学級活動 5年体育科保健領域の授業をもとに）→《課題：1、2》

子どもたちの危険予測回避能力を育成するためには、より身近な学級でのきめ細かな指導が必要です。そこで、本校では、2年学級活動 5年体育科（保健領域）での危険予測回避能力を高める効果的な学習指導について指導者を招聘し研究を深めました。

2年学級活動では、安全な廊下の歩き方を見直し、実験や体験を通して正しい廊下の歩き方がわかり、安全に歩こうとする態度を育てることをねらいに授業を開催しました。

5年保健領域の学習では、「自分たちの生活の中での事故の原因について予想し、人の行動と環境の関係を見つけたり考えたりするなどして、それらを説明すること」を目標に、けがの要因をとらえ、グループや全体での意見交流が行わうことができました。



3) 友だちとの良好な関係づくり 《課題：3》

3-3 心のけがの予防と対応（いじめについてのアンケート）

いじめを心のけがととらえ、全校児童を対象に、「みんなが楽しく学校生活をすごすための『いじめについてのアンケート』」を、家庭で保護者とともに記入して学校に毎学期提出しています。

- むしれたり、仲間はずれにされたりしたことがありますか。
- ひやかしやからかい、悪口やいやな言葉を言われたことがありますか。
- 自分の持ち物をかくされたり、勝手に使われたりしたことがありますか。
- わざとぶつかったり、遊びのふりをしてたたかれたりけられたりしたことがありますか。
- あなたの悪口をメールで送られたり、ブログに書きこまれたりしたことがありますか。

学校は、実施月末に集計をし、いじめがあった場合は、学級担任（内容によっては学年主任が同席）が事実関係を確認し、即時に指導を行います。その過程で深刻ないじめと判断した場合は、校長を含めた「生徒指導情報交換会」を開催し、組織的な対応をします。

3-4 異年齢集団活動（縦割り活動縦割り遠足）《課題：3》

全校児童による異年齢集団を作り、毎月2回遊びの活動時間を設定したり、花小サポーターズの方と一緒にたてわり除草作業を毎月朝の時間に行ったりしています。班長を中心に、6年生全員で下学年も楽しめる遊び等を工夫し、計画的に実施しています。

加えて、毎年5月下旬に1～6年生の全校縦割り遠足が行われます。この遠足の中で、6年生を中心とした高学年は、低学年の子を配慮しながら歩き、仲良く一緒に遊んだり、お弁当を食べたりとよく面倒をみます。こうした異年齢集団の関わりを通して、友だちとの良好な関係づくりを育んでいきます。



3-5 ライフスキル校内授業研究《課題：3》

友だちと良好な関係を築くためには、他者への思いやりの心が大切です。本校の学校教育目標の一つにも「思いやりのある子」を掲げています。本校の研究「安心・安全で思いやりあふれる教育環境づくりの工夫」の一環として、全学年対象にライフスキル教育を実施し、今年度研究しております。ライフスキル教育は、対人関係の構築を学ぶよいスキルの一つです。この授業をきっかけに子どもたちの思いやりも育んでいきたいと考えております。



(2) 校外でのけがの予防

1) 自転車による事故の減少《課題：5》

5-2 自転車安全教室《課題：5》（対象：自転車による事故の減少）

本校では、3年生以上は単独で自転車を利用することができ、ほとんどの児童が自転車を利用しています。本校児童の交通事故は、2010年～2014年の過去5年間に12件発生しており、このうち10件が自転車乗車中の事故です。このため、自転車を単独で利用できる3年生～5年生を対象に自転車安全教室を毎年5月に実施しています。自転車の乗り方や内輪差や死角などの車からみた危険性を実技を通して学び、点検の仕方についても学習しております。



5-7 自転車安全の掲示物作成《課題：5》

本校、調査分析部と環境整備部が協力し、自転車安全の掲示物を作成しました。安全指導部による自転車事故多発地帯ヒヤリはっと安全マップ、と環境整備部による「自転車安全五則」を昇降口等、児童の目につきやすいところに掲示しています。過去の自転車事故を分析し、飛び出しに気をつけるなど、子どもにとって安心・安全について考えるよい機会になっています。



5-8 自転車安全点検 《課題：5》

PTA 安全部と本校安全部の主催行事で、秩父地区自転車組合の自転車輪店の方を招き、サドルやフレーム、ベル、ライトなど専門的にみていただいている。合格すると今年度の花小シールがもらえ、通行許可となるシステムです。この取組によって、自転車を日頃から点検し、安全に走行できるよう意識づけを図っています。



2) 登下校の安全確保 《課題：4》

5-1 交通安全教室 《課題：4》

毎年1、2年生を対象に交通安全教室を実施しています。秩父市市民生活課の職員会の方々の指導をいただき、交通信号を守ることや正しい横断の仕方などについて実際に行動しながら学習しました。この交通安全教室を通して、登下校時も一列に並んでしっかりと歩いています。



5-3 登校指導と連動した、通学班長・副班長会議 《課題：4》

職員の登校指導の記録をもとに、あいさつができる班、きちんと並べた班、1年生の様子を見ながら登校できた班など紹介し、通学班全体で確認したいことを共有します。また、通学班旗と笛の練習も行います。毎月の通学班長・副班長会議を通して、あいさつや登下校がしっかりと行えています。また、本校児童の登下校の様子は、フジテレビ「Mr. サンデー」でも取り上げられました。



指標6 頻度や原因を記録するしくみ

本校では、複数の外傷等に関する情報収集のプログラムを用いて、学校環境及び地域における子どものケガの発生状況等を包括的に把握しています。

分類	ケガの種類	記録方法	集計頻度
体のケガ	(1) 軽微なものを含むケガ	保健室において「ケガの記録」シートを使い、ケガや事故の情報収集をし、統計処理を行います。	月1回
	(2) 通院を要するケガ	学校管理下における児童の災害医療費請求のため、日本スポーツ振興センターへ提出する記録を市に提出します。	月1回
心のケガ	(3) いじめにつながる事案の発生件数	全児童を対象に、児童自身がいじめを感じることや友達がいじめの被害にあっていないかを調べます。	学期に1回

1 校内におけるケガの記録

(1) 軽微なものを含むケガ（保健室データ）の収集

ケガのきろくシートを使って「発生時間」「発生場所」「ケガ別」「ケガの部位」「どうして～どうなった」「手当て」などを個別に記録します。

このデータをもとに、保健委員会の児童が、保健室廊下の「ケガマップ」にシールを貼っています。

(毎日) また、月ごとの保健室のデータを収集しファイルに保存しています。 I S S の取組として、すべての教職員が情報を共有化し、対策を講じます。

(2) 通院を要するケガの記録収集

（「災害救済給付データ」より）

学校管理下のケガで、500円以上の治療費をするようなケガについては、日本スポーツ振興センターに報告しますので、その際「災害救済給付データ」も活用しています。

(3) いじめにつながる事案の把握

毎学期1回実施している「悩みアンケート」で児童の心の状態、I S S 夏季休業の振り返りカードで児童の生活環境を調査しています。

この項目から、いじめにつながる事案を早期に把握することができます。

花の木小学校 ケガのきろく	
月 日 ()	年 級 名前
1 いつ	
①あさ ②() 時間目休み ③ひる休み ④きゅう食 ⑤体育 ⑥そのほかのじゅぎょう中 ⑦かえり ⑧そのほか()	
2 どのように	
①ころんだ ②() にぶつけた ③() で切った ④そのほか()	
3 ケガのしゅるい	
①すりきず ②きりきず ③ねんざ ④つきゆび ⑤やけど ②だばく ⑦めのけが ⑤歯のけが ⑨はなち ⑩むしさされ ⑩そのほか()	
4 どこで	
①こうてい ②きょうしつ ③たいいくかん ④ろうか ⑤かいだん ②トイレ ⑦しょうこうぐち ⑥ゆうぐ (ブランコ ジャングルジム 花小タワー タイヤ タイヤ山 てつぼう のぼりぼう つりわ シーソー すべり台) ⑩その他()	
5 どこを	
①あたま ②かお ③うで ④ひじ ⑤手 ⑥ゆび ⑦もも ⑧ひざ ⑨すね ⑩足 ⑪そのほか()	
6 どうしたらけがをしなかったか、かける人はかいてみましょう	

指標7 学校施策・プログラム・そのプロセスの評価方法

指標6で示したについては、下記の取組による変化を測定するための指標を設定し、評価の取組による成果を確認しています。短・中期については、取組によってどのように「意識・知識」と「態度・行動」が変化しているのかを確認し、長期目標は、それによってどのように外傷が減少したのかを確認しています。

1 評価指標と効果の検証 ①確認手段 ②確認の対象

対策	短・中期的成果の指標	長期的成果の指標
(1)児童による児童意識調査 (2)ケガについての掲示物作成 (3)児童によるISS集会	評価指標1： ケガの発生と要因の理解度 ①アンケート ②全児童 評価指標2： 予防への意識・行動の変化 ①児童による児童意識調査 (学期1回) (子どもアンケート) ②全児童	評価指標8： 校内のケガの 発生数・発生率 ①保健室データ及び 災害共済給付データ (1年ごと) ②全児童
(4)児童による安全チェック (5)校内授業研究 (6)学校の安全管理方法の改善	評価指標3： 安全に関する意識と定着 ①指導の効果測定(学習前後) ②児童、教員	
(8)心のケガの予防と対応 (9)異年齢集団活動 (10)心の教育講演会	評価指標4：いじめの発生件数 ①実態調査 (悩みアンケート、学期1回) ②全児童	
(11)自転車安全教室 (12)交通安全教室 (13)防犯パトロール	評価指標5：交通ルールの定着度 ①実態調査 (ISS振り返りカード、毎月) (教員、保護者による登下校調査) ②全児童 評価指標6：交通ルールの定着度 (自転車) ①実態調査 (ISS振り返りカード、毎月) (教員、保護者による登下校調査) ②全児童 評価指標7： 地域・通学路の交通安全 ①アンケート調査 ②保護者	評価指標9： 自転車による交通事故の発生数・発生率 ①事故報告集計及び 警察統計 (1年ごと) ②全児童

2 評価方法と改善

それぞれの評価指標ごとに成果と評価及び分析するとともに、改善につなげます。

〈短・中期的成果の指標〉

	評価指標名	①評価方法 ②改善
評価指標 1	ケガの発生と要因の理解度	①1年ごとに、年間指導計画に基づく安全指導の児童の変容を調査し、評価を行います。 ②学年ごとのケガの発生と要因の理解度を図り、安全指導計画の改善を行います。
評価指標 2	予防への意識・行動の変化	①学期に1回、ISS委員会が、全児童対象に同様の調査項目で、アンケート調査を行います。(振り返りカード) ②継続して調査結果を追っていくことによって児童の意識と行動の変容をとらえ各児童会活動につなげます。
評価指標 3	安全に関する意識と定着	①学習前後と1年ごとに、児童の安全に対する意識を調査し、変容と定着率を評価します。 ②実際のケガの予防対策と関連付けて、全教科の安全指導カリキュラムの作成・見直しを行います。
評価指標 4	いじめの発生件数	①毎月実施する「悩みアンケート」によって、いじめの発生件数や実態をとらえます。 ②いじめ解消に向けて、教職員が組織的に対応するとともにいじめの原因の分析と継続的な観察を行います。
評価指標 5	交通ルールの定着度（徒歩）	①毎年、全学年が交通安全学習を行い、学習の前後に交通ルールの定着度を評価します。 ②ふりかえりカードで定着度を確認し、カードをもとに、指導内容の改善を行います。
評価指標 6	交通ルールの定着度（自転車）	①学習の前後に交通ルールの定着度を評価します。また、ふりかえりカードで月ごとに定着度を評価します。（ヘルメットの着用率も含む）

評価指標6	交通ルールの定着度（自転車）	②「ISSだより」やPTA理事会及び保護者懇談会等で保護者への啓発を行います。
評価指標7	地域・通学路の交通安全	①1年ごとに通学路や地域の安全について保護者アンケートを実施し、保護者の危険意識をとらえます。また、地域ボランティアとの部会で地域の情報を把握します。 ②保護者と一緒に「まちの安全点検マップ」を作成したり、花小サポートーズとセーフクリーン運動で危険箇所の点検を行うなど、見守り体制を広げていきます。

〈長期的成果の指標〉

評価指標8	校内のケガの発生件数・発生率	②ケガのデータに基づく予防意識を高めるとともに、安全指導カリキュラムを整備し、ケガの発生数・発生率の減少を図ります。
評価指標9	自転車による交通事故の発生件数・発生率	②保護者・地域の見守りネットワークを広げ児童の自転車による交通事故の発生数や発生率を減少させます。

3 プログラムの進行管理

プログラムの進行管理は、「ISS推進委員会」が中心となって行い、評価指標に基づいて効果を確認しています。なお、プログラムにおけるPDCAサイクルを展開していく中で、日本セーフスクール振興機構の指導者に来校していただき、各取組、進行管理についてアドバイスをいただいている。また、本校の学校評議員会等の外部評価委員会（保護者・地域・学校関係機関代表）でも評価をいただきながら、改善につなげています。



指標8 国内・国際的ネットワークへの継続的参加

ISS認証校の視察やISSに取り組んでいる学校との交流、ISS認証センターが主催する研修会等に積極的に出席するなど、ISSネットワークに積極的に参加しています。

○神奈川県厚木市立清水小学校（ISS認証校）

日本で2番目の認証校である清水小学校からISSの取組を学ぶために、本校教頭と職員が市教委のセーフスクール担当者、秩父市のセーフコミュニティの推進者と共に訪問しました。また、認証式典に参加させていただき、安心・安全な学校づくりに取り組む内容についての多くを学びました。その後の活動に生かすことができました。2013.11

○東京都豊島区立朋有小学校（ISS認証校）

日本で3番目の認証校である朋有小学校へ校長と本校職員が市教委担当者とともに、訪問しました。掲示物の分かりやすさ、データを根拠に先生方が協働でISSに取り組む様子を学ぶことができました。2013.8



○全国ISS研修会（豊島区立朋有小）

朋有小学校でインターナショナルセーフスクール研修会が開催されたので、校長と本校職員が市教委担当者とともに、訪問しました。研修会では本校の取組を発表し、貴重なご意見をいただき、他のISS推進校と意見交流を深め、多くのことを学ぶことができました。2014.8

○大阪教育大学附属池田小学校（ISS認証校）

日本で最初の認証校である大阪教育大学附属池田小学校に本校職員が訪問しました。児童の安全な学校生活を送るための施設や安全計画等数々の工夫や、安全の授業を参観させていただき、先生方の安心・安全に対する意識の高さを学ぶことができました。

2014.2



○埼玉県北本市立中丸小学校（ISS認証校）

日本で6番目の認証校である中丸小学校からISSの現地審査等の取組を学ぶために、本校校長と職員が市教委のセーフスクール担当者、秩父市のセーフコミュニティの推進者と共に訪問しました。プレ審査、現地審査と2回訪問させていただきました。ウェルカムコースをはじめとする児童主体の取組や保護者・地域・職員が一丸となってISSに取り組む様子がうかがえ、データに基づき安心・安全な学校に取り組む様子が大変参考になりました。2014.11, 2015.3



第6章 安全な学校づくりに向けての今後の取組

1 中・長期目標

- (1) 予防策を積極的に進め、校内のケガの発生件数を減らします。
- (2) 児童が自ら危険を予測し、回避する力の育成を図ります。
～知・徳・体のバランスのとれた育成を図るための土台づくりとして、日々の授業や行事等でさらに児童の安心・安全に対する知識や態度の育成を進めます。
- (3) いじめの発生件数を減らすため、心の教育を推進します。
～心の教育をより一層推進するため、体験的な活動を取り入れた学習や講演会を実施していきます。
- (4) 交通安全意識の向上に努めて校外のケガの発生件数を減らし、地域ぐるみで交通安全対策を進めていきます。
～各町会、近隣学校、警察をはじめ行政機関等との連携の強化を目指します。
- (5) 地域・保護者が一体となって、児童見守りネットワークを広げます。
～ホームページや便り等で学校の取組を広報し、理解と協力を求めていきます。

2 今後の展開

- (1) 児童の主体的な取組（ISS集会など）がより一層図れるような指導助言に努めます
- (2) 安心・安全な学校づくりの基盤となる特別活動や道徳をはじめとする授業の研究を進めます。
- (3) ISS推進委員会がリーダーシップを發揮し、「協働」を合言葉にして全教職員で安心安全な学校づくりを進めます。また、教職員の危機管理能力の向上を図り、事故を予測した対応が組織的かつ迅速にとれるようにします。
～安全点検の定期的な実施や、教職員自らが児童の活動（学校内外）の様子に強い関心をもちリサーチすることを通して予防策を積極的に進めます。
- (4) データや根拠に基づいた実効性のある政策に取り組んでいきます。
～外傷データの継続的な分析と評価をし併せて可視化を積極的に図っていきます。
- (5) 秩父市セーフコミュニティとの連携を深めていきます。
- (6) 自転車ヘルメット着用率の向上を図ります。
- (7) 国内外のネットワークへの継続的参加や ISS 認証校との交流を積極的に進めます。
- (8) ケガについて「どうして」「どうやって」ケガをしたのかの情報も収集していきます。

